

めざす子ども像

**地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子**

取組目標

**地域と学校園、保護者との連携を深め、地域と学校園が連携し協働した取組を充実させるとともに、ボランティアスタッフとして地域人材を積極的に活用する。**

## 【今年度の取組紹介】

春日中学校区地域教育協議会では、今年も様々な事業に取り組むことを計画しましたが、コロナ感染症対策のため、その多くが中止あるいは延期となりました。多くのボランティアスタッフに支えられ、徹底した感染防止対策のもと、美化作業や放課後の学習支援にも取り組みました。また、「みんなの学習クラブ」を活用することで、タブレット端末を活かした学習活動支援事業の充実につながりました。また、今年は1度だけの開催となりましたが、日本漢字能力検定も行われました。他にも多くの方たちのボランティア協力によって登下校時の安全見守り活動などが行われました。そして、今年のふれあい文化祭では全校生徒が集まって部活動などの舞台発表を鑑賞することはできませんでしたが、夜間学級の卒業生をモデルにした創作落語「生きた先に（笑福亭鉄瓶 作）」を鑑賞しました。



【わかるわかる学習会】



【笑福亭鉄瓶氏】

## 【今年度のまとめ】

地域の方々の協力を得て、子どもたちが地域の方々と触れあったり地域の方々に見守られたりすることは、自分の住む地域やそこに暮らす人々を愛する心を育てる良い機会となりました。コロナ禍の影響は決して小さくなかったけれど、力を合わせ様々な事業を成し遂げられたと思われまます。登下校時の安全見守り活動で子ども達と地域の方とが交わす笑顔に、「地域の子は地域で育てる」という意識があらわされていました。

## 【来年度に向けて】

地域と学校、園、家庭の連携をさらに強いものにしていくことが大切です。そのための地域人材の活用が求められています。特に地域で育った子が、大人になって地域に帰ってくる、地域の活動に参加する、そのようなサイクルを作っていくことが求められています。

めざす子ども像

**地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子**

取組目標

地域の方との関りを通して、生徒自身が必要とされている存在であることを認識させ、自尊感情の高めることで、学習への意欲の向上と規範意識の育成につなげたい。

## 【今年度の取組紹介】

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、キャリア教育としての「職場体験」などの各種体験学習については中止せざるを得ない状況となり、全ての取組を実施することはできませんでした。しかし、本校が長年にわたって取り組んできている学習活動支援事業として学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るための放課後学習会「わかるわかる学習会」には重点的に取り組みました。

「わかるわかる学習会」では、基礎学力の定着を図る「こつこつコース」、発展的な学習に取り組む「どんどんコース」に分かれて学習に取り組んでいます。生徒たちは、持参した問題集などを使って学習したり、生徒一人一人に配付されたタブレットを使って学習に取り組んだりしています。タブレットには「みんなの学習クラブ」アプリを導入し、小学校の学習内容からの復習ができるようになっています。自分の自学自習を基本としますが、大学生を中心としたボランティアスタッフにアドバイスをもらいながら熱心に学習に取り組んでいました。



## 【今年度のまとめ】

学ぶ意欲のある生徒からの「勉強がわかるようになりたい」という思いを受けて始まった「わかるわかる学習会」も12年続いています。生徒たちは、ボランティアスタッフとともに学習に取り組み、「勉強がわかるようになった」と実感するとともに、自信が芽生え、学習意欲の向上につなげることができました。また、タブレットを使つての学習は、生徒たちが自分のペースで学習するのに有効な手段となりました。

## 【来年度に向けて】

今年度の取組への成果と課題をふまえ、来年度も「わかるわかる学習会」や今年度実施できなかった「各種体験学習」などの学習活動支援事業、「出前で部活」などの地域交流事業に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

## ・地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切に する子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子

取組目標

済美の町と人、そして奈良の町と人と関わる体験活動を行うこと  
 で、地域に誇りを持つ取組を進めていく。

### 【今年度の取組紹介】 ☆心を育む事業☆

全学年 芸術鑑賞会「堀内 佳コンサート」

全盲のシンガーソングライター堀内佳さんのコンサートを地域の方と一緒に鑑賞しました。堀内佳さんの生い立ちのお話を聞きながら、笑顔の大切さ、まずは自分を好きになること、無理だと思わずにチャレンジすることを教えていただきました。すばらしい歌声と説得力のあるお話に自分を見つめ直すとともに、感動的な時間となりました。



6年生 情操教育 「生け花から学ぶこと」

毎週月曜日、本校玄関のお花を生けに来てくださる川崎さんと、MOA 美術文化インストラクターの前園先生をお招きして、生け花体験を行いました。5種類のお花の中から自分で気に入った花を選び、それに合った花器や敷物も選びながら花を生けました。一本の花と向き合いながら花を生けることで、子ども達の心に変化があったようで、優しい気持ちになれた、花にもいろいろな表情があることがわかったなど、様々な気づきがありました。



### 【今年度のまとめ】

一年間を通して図書ボランティアの方々に図書館整備と読み聞かせを行っていただきました。また、学校環境整備にもご協力いただき、子ども達が毎日気持ちよく学校生活が送れるよう様々な面でサポートしていただきました。今年度は新しい取組として、地域の方に田植えから稲刈りまでご指導いただきながら稲作体験も行いました。コロナ禍でも、感染症対策を行いながらできることを地域の方と相談しながら実施することができました。

### 【来年度に向けて】

これからも、地域連携を大切にし、子ども達の心を豊かに育み、「済美・奈良を誇りに思う子ども」を育てる取組を進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

## 地域とのかかわりを大切にする子 自分を大切にする子 なかまを大切にする子 学習を大切にする子

取組目標

大安寺っ子、地域で学び、つながろう

### 【今年度の取組紹介】

令和3年度も、地域交流事業として「大安寺から学ぶ」に取り組みました。しかし、昨年と同様に新型コロナウイルス感染予防対策のため、活動する内容もできるだけ少人数での作業・活動などで実施することとなりました。そのような中でも地域の方々との出会いや関わりを通じて、交流を深め、大安寺の地域でしかできない体験学習を実施させていただきました。

主な活動として、4年生では地域の特産物である「八条水菜栽培」を、5年生は、「米作り」を体験させていただきました。収穫したものは、お家に持って帰りおいしくいただきました。



5年稲刈り体験

校内ペンキ塗り



### 【今年度のまとめ】

1年間を通じて、地域の方々のご協力をいただき、校庭や中庭の剪定作業などといった、環境整備ができました。児童は、新型コロナウイルス感染対策の中で様々な活動が制限された学校生活を過ごしています。そのような中でも地域の方々と子どもたちができることを考えて、取組を進めてまいりました。

図書室の整備をしていただいたり、家庭科の「ミシンの授業」で、学習補助にも入っていただいたりしました。様々な場面や学習で助けていただくことで、児童の学びが深まりました。

さらに、教育環境支援事業として、運動場の草刈りやペンキ塗りといった活動を通して、地域の方々との関わりを充実させた取組を行いました。

### 【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、地域の方々と共に事業に取り組んで参ります。今まで通りではなく、地域の方々と学校がともにできる、新しいことを考えて取組をしていく必要があります。ICT機器を活用した新しい交流も取り入れながら、地域の様々な方々とのつながりを大切にしていきます。

また、地域のこと・もの・人や、伝統・文化について学び、地域社会から学ぶことの大切さを身につけ、子どもたち自身が大安寺の地域について、誇りを持って語れるように、育んでいきたいと考えています。



めざす子ども像

## 地域とのかかわりを大切にする子/自分を大切に する子/なかまを大切にする子/学習を大切にする子

取組目標

地域とのふれ合いを通して、郷土愛やコミュニケーション力を育む。  
また、事業での関わりを通して、子どもと地域、学校と地域、地域同士のつながりを  
深めていく。

### 【今年度の取組紹介】

今年度の夏は、例年に比べて雨が多く運動場の雑草がたくさん生えてしまいました。地域の方々の協力を得て、なんとか体育参観ができるように環境を整えることができました。今年度も教育環境支援事業において、たくさんの地域の方々に集まっていただき、花壇やプランターの手入れ、樹木の剪定等をしていただきました。年間を通してきれいな花で子どもたちを迎え、見守り続けてくださっています。

1・2年生の生活科の学習で1年生はチューリップの球根、2年生はビオラの苗を一人一鉢で育てます。今年度は、地域の方々の協力を得て、チューリップの球根やビオラの苗を植える活動のお手伝いをさせていただきました。

子どもたちは、ていねいに土をかぶせた後、水やりをして芽が出てくるのを心待ちにしていました。

### 【環境整備・運動場の除草作業】



### 【地域交流・花の苗植え】



### 【今年度のまとめ】

コロナ禍で地域の方々と一緒に行える活動が制限されましたが、地域の多くの方がこんな状況だからこそ、子どもたちのために何かできることはないかと尽力してくださいました。安全見守り、学校の環境整備や図書室の環境整備と、地域の方々に支えられていることをしっかりと子どもたちは感じ取っていました。学校と地域が協力して積み重ねてきた取組を今後も続けていきたいです。

### 【来年度に向けて】

地域の子どもの健全育成のため、コロナウイルス感染症予防対策をしながら今までの「チーム済南」の活動を続けていきたいです。また、子どもたちが地域の方々ともっと触れ合える機会を多く設け、6年生の卒業前の奉仕活動（地域のごみ拾い）については、自分たちが住んでいる地域をきれいにすることで地域への愛着を感じさせるいい機会となったので、定着できるようにしていきたいです。

## めざす子ども像

- ・ 地域とのかかわりを大切にする子
- ・ 自分を大切にする子
- ・ 仲間を大切にする子
- ・ 学習を大切にする子

## 取組目標

子ども達にとって地域とのつながりを意識できるふれあい活動事業を中心に、様々な経験や体験を通して地域とのつながりを強く感じられる取組を行う。

## 【今年度の取組紹介】

◆感染症対策を行いながら、今年度も済美幼稚園ならではの取組を行うことが出来ました。『ならまちたんけん』です。地域の方に安全指導・案内をしてもらい、「音声館・庚申堂コース」と「元興寺・興福寺コース」の2回実施しました。子ども達は地域の方からその由来や言い伝えを聞き、興味を持って見ていました。身近にある地域の良さを見たり聞いたり体験したりすることができました。また、保護者も一緒に参加する姿が見えています。今後も、子ども達にとって、地域の方々が身近に感じ取れるようにしていきたいです。



◆次に『新年を祝うお茶会』です。子ども達にとって日本の伝統文化に触れる体験です。地域の方々が、フルートと琴の生演奏を聴かせてくれます。続いて、地域のお茶の先生に作法を見せてもらったり、お茶の点て方を学んだりしています。その後、子ども達はお茶を点てて味わいます。緊張しながらも、「たてるのはむずかしかった。」「にがいけど、おいしかった。」「お菓子はおいしい。」などと、感想を言っていました。



## 【今年度のまとめ】

コロナ禍で地域の方との関わりは減っていますが、その中でも子ども達にとって、地域とのつながりを意識できる活動（「ならまちたんけん」・「新年を祝うお茶会」・「親子花苗植え」・「絵本の読み聞かせ」・「子育て支援」・「ダンス・サッカークラブ」・「押し花教室」等）を地域の方にご支援いただきました。たくさんの方々との関わりを通して、子ども達に豊かな心が育ってきています。また、自分たちで遊びや生活を進めていこうとする気持ちを持てるようになってきました。保護者からは、「ならまちたんけんやお茶会など、親が教えられないことを地域の方から学んで貴重な体験をさせてもらっている」「これからも続けてほしい」という意見が多く聞かれるようになっていきます。子ども達は、さまざまな経験から、思いやりの心・挑戦する心を持てるようになってきていると感じています。

## 【来年度に向けて】

地域の方々から多くのことを学び、引き続き幼稚園が地域の子育て支援の拠点となるよう、感染症対策を行いながら、取組の精選を含めて、連携をさらに深めていきたいと考えています。

めざす子ども像

○地域とのかかわりを大切にする子○自分を大切にする子○なかまを大切にする子○学習を大切にする子

取組目標 家庭・地域・幼稚園が一緒になって子育ての大切さや楽しさを感じる。

## 【今年度の取組紹介】

地域交流事業として、PTA さんとの共催で「幼稚園祭り」を行いました。コロナ禍であり、地域の方との触れ合う機会が減っている中、幼稚園祭りが貴重な交流の場となるように、検討を重ねました。5歳児は自分達でつくった神輿を担ぎ、4歳児は鳴子をならしながら園庭をまわりました。地域の方には和太鼓をたたいてもらったりうちわを振ってもらったりして、盛り上げていただきました。その後、PTA さんが準備してくれた的あてや魚釣り、輪なげなどのコーナーを何度もまわりたい遊びを楽しみました。又、子どもたちが地域の方とじゃんけんをしてシールを貼ってもらい、3つ集められると駄菓子屋さんコーナーへ行きお菓子をもらえる遊びをしました。子ども一人一人が地域の方と自然と関わることができ、よかったと思います。子どもたちの笑顔がいっぱい見られました。



## 【今年度のまとめ】

お茶会では、「お茶に関わってくれている多くの人に感謝の気持ちをもって、お茶を点てること」や、「優しい気持ちでお茶を点てること」など、普段の生活の中でも大切なことを教えて頂きました。英語遊びでは、英語で歌ったりゲームをしたりしながら楽しく英語に親しみました。世界にはいろんな言葉があることを知り、心が通い合うふれあいの時間をもつことができました。キッズサッカーでは、サッカーだけではなく、様々な運動遊びを通して体を動かす楽しさを感じ、自分たちで活発に遊ぶ姿がみられるようになり、心身共に逞しさがみられるようになりました。地域の人との交流は、感染症流行により以前のように多くもつことはできませんでしたが、限られた時間が充実したものになるように工夫したり、地域の方々が見守ってくれていることを子どもたちに伝え手紙やプレゼントをつくったりして、心の交流ができたのではないかと思います。

## 【来年度に向けて】

地域の方との交流について、状況に応じて臨機応変に事業内容や保育内容を工夫し、心の通った交流をもてるようにしたいです。子どもたちには地域の人の温かさや気持ちのつながりを感じてほしいと思っています。

めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望をもち、****自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

**合言葉を『三笠はひとつ、三笠はならのまほろば』とし、  
奈良の中心地としての文化・誇りを再確認し、新たな郷土愛や誇りを育む。**

## 【今年度の取組紹介】

## ○子ども未来会議

各校で共通の教材を用いて事前学習を行い、各校の意見を踏まえたうえで、子ども未来会議では各校の代表者がオンラインでつながりました。地域の方が準備をして、校区出身の大学生たちが司会を務め、小中学生が積極的に意見を出し合いました。今回のテーマである「環境」を考えることで、地域にある河川から世界遺産や伝統的な文化にまで視点を広げ、今後の目標として「わたしたちが考える環境を守るためのお約束」を決めることができました。



## ○おうちで楽しくチャレンジ（本の帯、「三笠はひとつ」デザイン募集）

夏休み中に、地域教育協議会の新たなデザインとなるべく地域に対する思いやイメージをイラストで募集しました。園児から児童・生徒までの幅広い子どもたちの参加があり、「友だち」や「仲間」といった絆やつながりをイメージした思いが溢れるイラストがたくさん応募されました。各校での展示、広報紙での掲載に加えて、デザインファイルとして、広報紙とともに配布することができました。子どもたちの思いや地域の事業をより多くの方に知っていただく機会になりました。

## 【今年度のまとめ】

新型コロナウイルスの影響で計画していた事業の中止が続きました。その中で、今年度、状況に応じた新しい提案・検討を繰り返してきました。できることを継続し、さらに発展するように取り組んできました。

感染予防対策を講じて実施できたオンラインでの子ども未来会議では、将来の地域を支える人材交流の場が形成でき、子どもたちの育ちと学びを実感することができました。また、昨年度に新しい事業として取り組んだ「おうちで楽しくチャレンジ」を継続し、地域への広報活動としても生かすことができるなど、よりよい活動の内容に発展させられました。

## 【来年度に向けて】

来年度も、新型コロナウイルスの影響を受けることが予想されます。限定的であるために事業に対する子どもたちの取組の意欲が高いことも生かせるように、実施できる新しい事業の検討やこれまでの事業を発展的に進めていきたいです。地域教育協議会の活動への理解と啓発を進め、地域の絆と協働による地域の活性化につながるよう取り組んでいきます。



めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望をもち、****自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

学校を支援してもらうだけが目的ではなく、  
地域力の醸成や住民自身のやりがいを感じる場をつくり、  
地域と学校との間に良好（双方にメリット）な関係づくりをめざす。

## 【今年度の取組紹介】

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、キャリア教育など教育課程内にも支援を広げています。

さまざまな実社会で経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。今年度も、新型コロナウイルス感染予防のため活動は少なかったですが、清掃活動等に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み「生きる力」を培ってきています。特に進路に向けた面接練習として、企業勤務経験者などの地域住民が、面接官となり、目の前の高校進学だけでなく勤労観・職業観を養い、社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。



## 【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染防止対策を講じて学校内での「ゲストティーチャー」「面接指導」等に地域の方々に来て頂き、実施することができました。地域の方々には、教員とは違った視点からたくさんのことを子どもたちに伝えて頂き、子どもたちの学びを支えて頂きました。一方、コロナ禍の中、地域に出向いてのボランティア活動がほとんど行えなかったことから、多くの大人たちに評価をいただく機会、自己有用感を味わう機会が少なくなったことは残念に思います。

## 【来年度に向けて】

これまで培った地域コミュニティでの協働体制を大切にし、子どもたちのため、学校や地域のために活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域のみんなが育つ』ための核となる組織づくりを目標に、さらに取り組んでいきます。

めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望をもち、****自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

**世界にはばたく世界で生きる椿井っ子****【今年度の取組紹介】**

奈良市の中心部に位置し、多くの寺社や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方の愛校心が強く、また学校教育に対する関心も高いです。そのため何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成を目指して取組を進めました。

新型コロナウイルス感染症の流行下で、活動にも様々な制限がありましたが、できる限り今までの取り組みを踏襲する形で事業を進めました。学校地域支援事業においては、人・モノ支援センターの皆様の協力を受け、盲導犬学習を行いました。郷土学習事業おん祭り学習では、地域の方においでいただき、おん祭りについてお話を聞かせていただき、地域に伝わる伝統行事を学ぶ機会を設けることができました。



おん祭り学習

**【今年度のまとめ】**

学校の教育活動に非常に協力的な地域の方々に支えられて取組を進めていくことができています。コロナ禍で非常に制限の多い中でしたが、感染拡大防止策を講じながら活動することができました。環境整備事業においても、学校や地域を大切に思う方々の存在に子どもたちが改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

**【来年度に向けて】**

来年度は、今まで続けてきた取組の見直しを行い、継続を基本線として可能な範囲での精選を検討していきます。これまで協力していただいた地域の方々を大切にしながらも、新たな地域人材の活用など取組をより発展させ、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいです。

めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望をもち、**

**自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

**夢を持ち、夢を語り、夢を叶えるたくましい子どもを育てる**

**大宮アクション**

【今年度の取組紹介】

◆子ども未来会議

・12月23日に「第12回子ども未来会議」を開催しました。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、「リモート会議」にて実施しました。各小学校児童、中学校生徒の代表がタブレットを使用して会議に参加しました。

・教育実習生が進行するという形式で、それぞれの学級、学年で集約した意見を伝えることからスタートし、徐々に意見交換を進めていきました。意見をまとめることに苦労しましたが、実りのある会議になりました。

・リモートならではの難しさもありましたが、観覧した保護者の方から「今回のリモート会議はいい記念になるのではないか」というお言葉をいただきました。直接会うことはできなくても、オンラインで人と繋がることのできる新たな可能性を感じた「子ども未来会議」となりました。



【今年度のまとめ】

・例年、地域の方々からたくさんの協力を得て実施してきた取組は、コロナ禍のなか実施できることは限られました。その状況を踏まえて新型コロナウイルス感染対策をとり、子どもたち、あるいは大人だけでもできることを続けたり、オンラインを活用したりしながら可能な範囲で実施しました。

・オンラインを活用した「子ども未来会議」は、三笠中学校区出身の卒業生が主体的に関わり進めてくれました。本取組の趣旨を理解しながら皆で協力して実施できたことは意義深いと考えています。現在の小学生が、近い将来、今回の卒業生のように活躍してくれることを期待しています。

【来年度に向けて】

・地域ボランティアの方々の高齢化に伴い、新しいボランティアの発掘が今後もまだまだ必要になります。学校ホームページ等様々な方法を用いて情報を発信し、さらなる協力者を募っていきたいと思います。

・コロナ禍での対策を踏まえた取組の進め方を検討していく必要があります。

めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望を持ち、****自分自身に誇りを持って、未来を切りひらく子ども**

取組目標

**自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる児童を育成するための地域教材や人材を生かした取組の充実。****【今年度の取組紹介】**

本校の取組の特色の1つであるのが、「雅楽体験」を取り入れた音楽教育を活用した教育活動です。南都楽所の講師先生の指導も受けながら、取り組む予定でした。日本の伝統芸術文化を体験できる貴重な機会になっているのはもちろんですが、大西小の伝統を受け継ぐ誇りを感じ、地域・仲間とつながる思いを味わうことができていました。しかし今年は、コロナ禍により断念いたしました。



また、本校の前を流れる佐保川とその自然環境をテーマにした「佐保川環境学習」にも継続して取り組む予定でしたが断念いたしました。色んな行事に制限がある中、地域の方々と共に行う「佐保川清掃」・「河川植樹」活動は行うことができました。「わが町を流れるふるさとの川を大切に思う心」を育むことができ、「大好きな大西小を誇りに思う心」の育みにつながっていることを実感する取組となりました。また、コロナを懸念しながら、第9回校区成人式を行うことができました。今年度も短時間で密にならないように内容でしたが、新成人にとって少しでも成人の門出になる行事になるように恩師の参加のもと行いました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍により、限られた活動となりました。本来なら、豊富な行事に学年間で参加体制を調整し、地域の環境保全の取組や行事を各学年の教育課程に効果的に組み込んで実施する予定でした。美しい佐保川の川辺で四季を通じて集えるのは、「佐保川清掃」をはじめとする日頃の様々な取組があつてのことということ改めて感じました。

また、第9回目を迎えた校区成人式ではなつかしい校舎に集い、和やかなひとときを過ごしました。

**【来年度に向けて】**

コロナ禍を想定するとなかなか活動が厳しい状況ではあります。また、地域の高齢化などに伴い、地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。3年前から始めた「地域ボランティア募集」の呼びかけをさらに充実していき、人材確保をしたいと思います。また、各取組を今後も継続して無理なく充実させていく上でも、地域・学校・家庭の3団体が熟議を重ねながら、より効率的かつ効果的な事業となるよう、今後も検証・改善を行い、地域・学校・家庭が一体となり、『ふるさとを誇りに思い、大切にする心』を育んでいきたいと考えています。



めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望をもち、**

**自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

**地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物に優しく、地域を愛する子どもを育む。**

【今年度の取組紹介】

【 佐保川清掃活動 】

佐保川の環境を守る活動として、地域の方々と共同で取り組む佐保川清掃は、生きた学習環境を提供してくれる佐保川をみんな大切に作る心を育みます。そして、地域の方々とこの気持ちをつなげる大切な取組でもあります。



【 図書充実活動 】

地域の方々による図書室の環境整備や図書修繕を行っていただきました。

「たくさん子どもたちが読む本だから」と、一冊一冊丁寧に「シワ」ができないように工夫しながら、本の表紙にシートを張って丈夫な本にしてくださいました。読書は「心のビタミン」といわれています。子どもたちに読書の素晴らしさを伝え、本との出会いを促し、豊かな心を育むことに大いに役立てることができました。

【今年度のまとめ】

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、咳エチケットや手指の消毒に加えて、換気の充実、三密の回避などが余儀なくされた1年でした。その中でも、感染状況が落ち着いている期間に、図書充実活動や環境整備活動事業などを行ってくださり、子どもたちの教育環境の向上につながりました。

【来年度に向けて】

体験的な活動を通して、地域の方々を通して、地域の方々と触れ合い、地域の行事に積極的に参加する等、子どもたちに体感させることが重要であると考えます。佐保川小学校の校区を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成を目指したいと考えます。

めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望をもち、****自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

**地域の人材や教育力をいかした多様な体験活動を進めながら、  
人と関わる楽しさを感じ、豊かな感性やたくましい心を育む取組の充実。**

## 【今年度の取組紹介】

## 《お話に親しむ事業より》

地域の方にゲストティーチャーやボランティアとして、年間通して12回絵本の読み聞かせに来ていただきました。子ども達の年齢や興味を考慮して絵本を選んでくださることで、回を重ねるごとに「今日はどんなお話かな」と楽しみに待つ子が増えてきました。初めは緊張したり退屈になったりしていた子ども、手遊びやパペットなども取り入れて話してくださることで声を上げて楽しんだり感じたことを言葉で表現したりして豊かな感性を育む機会となっています。お話が終わると、「おもしろかったあ」「また来てね」と地域の方に親しみの気持ちをもてるようになっています。弁当後に友達と絵本の部屋に行って好きな絵本を選び楽しむなど、その経験が日々の生活にもつながっています。



## 《地域で学ぼう事業より》

地域の方にゲストティーチャーで来ていただき、生け花を教えてくださいました。花の名前や生け方を教えてくださいいただくと、好きな花や色を選んで、生けていました。出来上がった作品を園内作品展に展示し、地域の方や友達、お家の方に褒めてもらい、満足気に喜んでいました。その後も園庭や個人栽培の花を見て、生長に気付いたり「何色の花が咲くのかな」と楽しみにしたりする姿が見られ、関心をもつ子が増えました。



## 【今年度のまとめ】

地域の方と内容を工夫し出来る範囲であったが、たくさんの事業を実施することができ、様々な方と触れ合うことが出来ました。そのことで、豊かな感性やたくましい心を育めたことはもちろん、地域の方への親しみの気持ちやコミュニケーション力が育ったことを実感しました。また、広報事業として写真掲示やHP、紙面等で地域や保護者の方に取り組みを知らせ啓発していくことで理解を得ることが出来、保護者の園教育アンケートの結果では、事業の取組について高評価を得ることが出来ました。

## 【来年度に向けて】

子ども達にとって充実した体験活動を、来年度も継続していくことで、子ども達に身につけていきたい力が培われていくと思われます。今後も、今年度の成果や課題を踏まえながら地域の方と打ち合わせを十分に行い、実施していきたいと思います。また、今年度は、地域に出かけることがあまりなかったので、大宮地区を知り、親しみをもてるような機会を計画していきたいと思います。

めざす子ども像

**郷土を愛し、夢と希望をもち、****自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

- ・子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施
- ・子どもが主体的に活動できる環境の構成

**【今年度の取組紹介】****〔栽培活動事業〕**

地域の方にゲストティーチャーとしてお越しいただき、畑の畝づくりから収穫までを、子ども達に直接かわり丁寧に指導いただき、タマネギ・サツマイモ・大根と、季節を感じながら学ばせていただいています。

また今年度は、昨年度より早く田植えをさせていただき、僅かながら米の収穫を体験できました。子ども達は一粒一粒、心を込めて殻をむき家庭に持ち帰りました。後日持ってきたおにぎりで、白米の中にまぎれた玄米を見つけては嬉しそうに知らせる姿は、とても微笑ましいものでした。地域の方々のご協力により、貴重な体験をさせていただき、保護者からも感謝の声が寄せられています。

**〔学習支援事業〕**

昨年からの感染症対策の為、戸外で思いきり体を動かせる機会が減少していることから、鉄棒にぶら下がるとすぐに手を放してしまう年中児が、多かったことにも驚きを隠せない状況でした。そんな中での「体操教室」や「チャレンジクラブ」の体験は、自分の身体の動かし方を学ぶ、とても大切で必要な取組となっています。

**【今年度のまとめ】**

様々なことにまだまだ制限が多い状況の中、地域の方々のご協力のおかげで、少しずつ事業を実施することができました。栽培活動からは、労働の大変さや食物のありがたさを体感し、「体操教室」や「チャレンジクラブ」では、楽しみながら、身体の使い方を知るという大切な経験を重ねることができ、普段の保育に取り入れながら、運動遊びに興味を持つことができるようになってきました。今後も保護者や地域の方には、ホームページや地域の会合等で園生活の様子や園児の成長を発信しながら“地域の中の幼稚園”として、よりご理解・ご協力を得られるようにしていきたいと思います。

**【来年度に向けて】**

民間移管を予定される中、地域の方や保護者も園児の成長を願い、共に事業の継続を望む声が届いています。今年度の成果や課題を受けて、回数や行事の精選をしながら、保護者や地域の方のお力を借りて進め、次へと引き継いでいけるようにしていきたいと思います。

めざす子ども像

## 生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

『奈良を知る 地域を知る』 ―世界遺産と環境―  
～クロスボーダー若草 点から線へ、線から面へ～

### 【今年度の取組紹介】

今年度はコロナ禍により感染拡大防止を鑑み、地域教育協議会定例会及び定例の地域コーディネーター会議の開催を見合わせました。その中でも若草中校区のメイン事業である地域合同文化講演会は、オンライン形式に変更し実施することができました。感染が改善された時期であったのでコーディネーターの参加もあり、感染対策を行い視聴する形で行いました。その後、参加者を中心にコーディネーター会議を実施し、情報交換を行いました。

#### ・地域合同文化講演会、コーディネーター会議

役員会を中心にコロナ禍における協議会の運営について検討をし、恒例の地域合同文化講演会についてはオンライン形式を取り入れた形で実施しました。今年度は、帝塚山大学客員教授の西山 厚先生をお招きし、「聖徳太子と達磨さんと雪丸くん」と題して生まれ育った地域奈良にちなんだお話をしていただきました。とても優しい語り口で聖徳太子のことやゆかりのある達磨寺など大変興味深いお話を拝聴しました。生徒、教職員、地域コーディネーターが共に学ぶよい機会となりました。



### 【今年度のまとめ】

今年度はコロナ禍における感染拡大防止を最優先し無理のない活動を行いました。例年行われている地域合同文化講演会は大人数による対面の形式を変更し、オンライン形式により実施しました。分散による視聴という形であったので感染対策にも有効であったと思います。コーディネーター会議も実施し、1回はありましたが対面で顔をあわし、情報交換ができたのは地域同士の繋がりを継続していく意味でよかったです。

### 【来年度に向けて】

- ・コロナ禍においてできる事業を工夫をしながらすすめていきます。
- ・今年度同様、地域合同文化講演会、地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターの繋がりを継続的に深めていきます。
- ・地域の歴史を学んだり地域のことをよく知った人材の発掘等をすすめたりして、キャリア教育の支援に繋げていきます。



めざす子ども像

## 生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

学びをはぐくむ

### 【今年度の取組紹介】

#### ○学習支援

- ・「中3学習会」「図書館学習」

3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域の方や大学生のボランティアに協力いただき中3学習会を行っています。定期テスト前の期間を中心に全学年希望者による図書館での学習会を行っています。



#### ○キャリア教育支援

- ・「ゲストティーチャー」から学ぶ

キャリア教育の一環として様々な職業の講師の先生を招き職業についての講義を受けたり、実際に職業の実習体験を行ったりしました。銀行、ホテル、ブライダル関係、写真関係、保育士、警察官など生徒たちにとってとても興味深く、将来の進路選択に向けて有意義な体験でした。また誕生学など命に関する学習についてもゲストティーチャーをお招きし講演を通じて学習することができました。



### 【今年度のまとめ】

今年度はコロナ禍において感染拡大防止を鑑み、学校での行事や学習体験も制限され中止となる事業が多かったです。その中でも感染対策を行いながら中3学習会やゲストティーチャーを招いての学びは実施することができました。保護者・地域の方々に学校にきていただく機会が少なく、ともに活動する場面が設定できなかったのは残念でしたが、支援事業を通じて将来に向けての学びをはぐくんでいくことができました。

### 【来年度に向けて】

コロナ禍において来年度もできる事業を精選し感染対策を講じながら、地域コーディネーターをはじめ地域の方々との連携をより深め、生徒たちが将来の進路選択に向けての学びをはぐくんでいけるよう継続的な支援をしていきたいです。

めざす子ども像

## **生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

自分たちの育った校区に誇りを持ち、その素晴らしさを校区内外に  
発信し、より地域のきずなを深め合えるようにする。

### 【今年度の取組紹介】

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会のほとんどの事業が中止になり、実施することができませんでした。実施できたものから1つを紹介します。

#### ・菜の花プロジェクト事業を通して

本校では、世界遺産学習・環境教育・地域交流の一環で、主に1・2年生の生活科で地域のボランティアの方々や保護者と一緒に取り組みました。

本事業の目的は、3つあります。1つ目は、児童に自身で菜の花の種まきから行い、育て、刈取り、種を採って、その種から搾取した油を東大寺に献納し灯明に使ってもらうことで、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みや心との重なりを感じさせることです。2つ目は、菜種の油が食用やバイオ燃料（地球環境にやさしい）として使用し、油の搾りかすや菜の花は、畑の肥料となる循環型社会についても学ばせることです。3つ目は、大人（地域の方、保護者）と児童の世代間の交流や対話を促し、異なる世代との交流を通して、疑問を解決し、他者の思いを受け止めたりしながら、活動を通して「受け継ぐ」ということを体験的に理解させます。

主な活動の流れは、5月菜の花刈取り、6月脱穀と搾油、9月東大寺に献納、10月種まき、11月移植です。



### 【今年度のまとめ】

本校区は、世界遺産に囲まれた素晴らしい環境の中にあり、様々な行事・伝統等、地域が守り続けてきた事柄が多いです。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業ができるかどうか心配ではありました。しかし、何とか、子どもたちの為に、「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出する事業が実施でき、生まれ育った地域に誇りを持ち、地域の方々とのつながりが深まったように思います。地域の方々との「であい」の演出を今後も大切に、この活動を進めていきたいです。

### 【来年度に向けて】

地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもを育てる取組を、コロナ禍に対応した形に変えながら、進めていきたいです。

めざす子ども像

## **生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

**佐保に生きる（地域と共に）**

### 【今年度の取組紹介】

#### 自然環境学習～ビオトープやバタフライガーデンを通して～

11年目を迎えるビオトープでの自然環境学習では、引き続き NPO 法人や専門家の指導を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題



を見つけ、自らの問題として捉えながら、一人一人が自分にできることを考え、実践していくこと学んでいます。今年度は、バタフライガーデンに植えた苗木やビオトープ周辺の樹木に肥料



をやったり、ゲストティーチャーから植物や自然環境について大切さを聞きとったりしながら学びを深めました。

#### 地域連携活動～マーチングバンドの演奏～

コロナ禍以前は、地域や保護者の協力を得ながら、講師や教員の指導の下、イベントや学校行事・PTA 行事の場で日頃の練習の成果を披露し、地域とのつながりや地域の活性化にも貢献していました。本校のマーチングバンドの活動は、校区にとっての伝統であり、守り受け継ぐ心が子ども達にも根付いています。しかし、昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、発表の場はもとより練習時間の確保もままなりませんでした。けれども、練習場所を分散したりマスクを着用して練習できるパーカッションを多く取り入れたりしながら、今年度も伝統を守るべく練習を続けました。

### 【今年度のまとめ】

自然環境学習では、バタフライガーデンに植えた苗木やビオトープ周辺の樹木に肥料をやったり、ゲストティーチャーから植物や自然環境について大切さを聞きとったりしながら学びを深めました。

地域連携活動（マーチングバンド）は、地域の方と触れ合う発表の場がありませんでしたが、臥薪嘗胆の思いで練習を続け、来年度につなげることができました。

### 【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今年度実施できなかった活動も実施できるような知恵を出し合い、活動を充実させていきます。

めざす子ども像

## 生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

地域と触れ合い、その中で「ひと・もの・こと」との豊かな体験活動を通し、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる。

### 【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な事業の中止を余儀なくされました。本校の特色の一つである「菜の花プロジェクト」は、感染防止対策をしながら、ボランティアの方々の協力のもと取組を行うことができました。

本校では、①生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、②図書室や学年園を中心とした学習環境整備を進めています。新興住宅地が多くを占める本校区において、これらの学習を通して児童に地域への理解を深め、愛着や誇りを持たせることを主眼としています。

「菜の花プロジェクト」は、世界遺産学習、環境教育へと体系的につなぎ、魅力ある総合的な学習の時間を構築し、特色ある学校づくりをめざしています。今年も、とれた菜種油をボランティアの方々とともに、5年生が春日大社と東大寺に灯明油として届けました。子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただくことができました。

5年生



油絞りのため脱穀作業

4年生



菜の花の間引き作業



菜種油の奉納

### 【今年度のまとめ】

今年度も地域交流の機会をもつことが難しく、活動を中止した事業もありましたが、「菜の花プロジェクト」を中心に、安全見守り活動、各活動を深化・発展させてきました。

今年度も「お話したつきゅうびん」さんが朝の読書の時間（毎月2回）に、子どもたちの心に響く素敵なお話を届けてくれました。「今日はお話しあるから楽しみや。」「先生、この前読んでもらった〇〇の本ありますか？」と読書意欲へ繋がっています。

そして、今年度は見守り安全の方々に感謝の気持ちを伝える会をもちました。毎日、優しく声をかけていただいていることを嬉しく思っていることや、元気を頂き勉強を頑張ろうと思ったこと、自分たちの安全を見守って頂いていることへの感謝の気持ちを綴った手紙を受け取っていただきました。

### 【来年度に向けて】

多くの方にご協力いただき安全で安心な学校生活を送ることができています。当たり前の裏にある多くの方々の助力を忘れず、常に感謝の気持ちをもち続けたいと思います。今年度同様、感染対策を講じ、工夫しながら活動を行っていきます。地域との絆、ふれあいを大切に、地域の方々から教えて頂いたことを学習活動に生かし、深い学びへとつなげていきます。



めざす子ども像

## **生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域の自然環境や様々な人との関わりを活かした体験を構築し、  
豊かな心とたくましい体を培い、  
佐保幼稚園で学んだことを誇れる子供の育成。

### 【今年度の取組紹介】

#### ○ 木工であそぼう（わくわく学習支援事業）

既成の物に囲まれて生活している子ども達にとって、木の温もりを感じ金槌等を使って作る楽しさを味わってほしいと思い、毎年木工遊びを実施しています。しかし、担任だけでは子どものアイデアやイメージに沿うことがなかなかできにくいことから地域にお住いの設計士や大工さんをゲストティーチャーに迎えました。子ども達は事前に自分の作りたい物を絵（設計図）や文字で表し、当日は設計図を通して自分の思いを言葉で伝えたり、アドバイスや手助けを受けたりしながら形にしていくことができ、達成感や自己肯定感を味わうことができました。また、工具の扱い方や木や森の大切さも教えてもらい、環境教育やキャリア教育にもつながりました。作品を展示したところ、保護者や地域の方から貴重な経験ができたことに、とてもよい評価をいただきました。



#### ○ 子育てひろばさほ（未就園児保育事業）

民生委員のご協力をいただき3歳児は月2回、1・2歳児は月1回、未就園児保育を実施しています。親子でのふれあい遊び、絵画製作、サーキット遊び等を楽しみながら幼稚園に慣れ、家族以外の人と関わる経験にもなっています。また、保護者同士交流や子育てについての相談等、地域の子育てセンターとしての役割も果たすことができました。



### 【今年度のまとめ】

・今年度、事業内容を「佐保を知る」が更に深まるよう変更した部分もありましたが、感染症の影響で人と関わることやふれ合うことができず、中止せざるを得なかった取組もありました。そのたびに職員と地域の方で取組の方法を検討したり、事業を見直したりしてきました。園外保育では、般若寺や植村牧場まで歩き、地域の自然環境や施設を知り、地域に関心をもつこともできました。

### 【来年度に向けて】

・今年度の事業を見直し、子どもが興味や関心をもった取組は更に深められるよう、地域の方と内容を検討していきたいと思います。特に来年度は創立70周年、佐保小学校は100周年でもあるので、より地域を知り興味や関心をもてるよう、機会を逃さず取り組んでいきたいと思います。  
・幼稚園という保護者との関わりがもちやすい環境でもあるので、取組に対する子どもの姿を通して保護者への啓発も続けていきたいと思います。

めざす子ども像

## 生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

地域や小学校との連携を大切に、様々な人とのふれあいや  
体験活動を通して豊かな心と体を育む。

### 【今年度の取組紹介】

○伝統文化ふれあい事業では、和太鼓宝亀殿の方々を招いて和太鼓の演奏を聞かせていただいた後、バチの持ち方、良い音の出るたたき方など、和太鼓の指導をしていただきました。力強い和太鼓の音色を全身で感じ、友達と一緒に合わせる心地よさを味わうことができ、伝統文化を体験できる貴重な機会となりました。



○畑づくり事業では、畑の先生として地域の方に来ていただき、苗の植え方を教えてもらいました。夏には水やりや草引きなどの世話をし、秋になると大きく育ったサツマイモを収穫することができました。畑の土や苗の生長、野菜に触れることで収穫の喜びと食への感謝など豊かな心の育ちと共に、水やり・草引き・虫探しなど世話や発見をする喜びは貴重な体験となりました。



○おはなしの会事業では「おはなしの会」の方々に来ていただき絵本の読み聞かせや素話、手遊び、パネルシアターなど多彩なバリエーションでお話を聞かせていただきました。昔話や季節の話など子ども達は毎回楽しみにしていて、集中して話を聞く力に繋がっています。



### 【今年度のまとめ】

コロナ禍で回数や人数の制限を行いながら事業を進めてきましたが、熱心で温かい地域の方々に支えていただき、様々な生活体験をすることができました。畑づくり事業では、地域の方からの丁寧な指導を通して野菜の生長や収穫の喜びなど様々なことを教えていただいたことは、学び多い体験となりました。また、伝統文化ふれあい事業では、宝亀殿の方の演奏を聞くことで、力強い和太鼓の音色を全身で感じる事ができ、実際に叩き方を指導していただくことで、伝統文化を体験することができました。様々な体験をすることが、豊かな心の育ちに繋がりました。

### 【来年度に向けて】

コロナ禍でも可能な活動方法を模索しながら、これまでの事業を継続し、様々な体験を通して豊かな心と夢を育むために、園・家庭・地域の連携を深め、環境構成の工夫や保育内容の充実を図り、笑顔あふれるこども園をめざしていきたいと思います。地域の方々の力をお借りしながら、地域に開かれたこども園としての役割を果たしていきたいと思います。

めざす子ども像

## 地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

「つながる力を育てよう」

～地域の一員であることを自覚し、誇りを持つ子どもを育てる～

### 【今年度の取組紹介】

#### ★オンライン「昔遊びの会」

あやめ池小学校では、例年1月に、地域の方々が1年生に昔遊びを伝授する「昔遊びの会」を行います。いつもなら、体育館でにぎやかにワイワイと行う恒例行事ですが、今年度はコロナ禍の中、図書室からオンラインで配信しました。画面越しではありましたが、あやとり・コマ回し・けん玉など、子どもたちは食い入るように画面を見つめとても楽しそうに遊んでいました。



#### ★コロナ感染防止対策を入念に漢検実施

伏見中学校の教室をお借りして、実施している漢字検定。今年度は、さらに感染防止対策を徹底し、教室設営では、机といすのアルコール消毒、窓を開けての換気、全員マスク着用と手指消毒、受験者が安心して検定に取り組めるよう配慮しました。受験者も年々増加の傾向にあり、資格取得への意欲がうかがわれ、来年度から、小学4年まで拡大、またOB・OGも学生に限り認め、受験の機会を広げていきます。



### 【今年度のまとめ】

今年度は、コロナ禍ではありましたが、徐々に活動を再開し、漢字検定はもとより、園外保育の補助や、サッカー教室、お茶、英語、書道を楽しむ会もおこなうことができました。

昔遊びに至っては、オンラインで実施するなど、感染防止のための様々な工夫や、努力がなされました。地域でできることを、つながりを絶やさぬよう細々とでも続けることの重要性をここ2年の活動で感じています。

### 【来年度に向けて】

本校区は、特別イベントなど企画せず、学校や園の教育ニーズに沿った活動を粛々と続けていきます。

**めざす子ども像****地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども****取組目標**

「つながる力を育てよう」

～「伏見中 大好き！」と心から言える日のために～ 地域と共に育つ生徒の育成

**【今年度の取組紹介】**

## ◆「先生の推し本の紹介」（文化発表会に合わせて）

図書ボランティアの方々には毎年、「ふれあい文化発表会」の際にブッカーの貼り方講習会や推薦図書の読み聞かせなど、一緒に活動する時間を設けています。今年度はふれあい行事ができなかったので、掲示物を作成していただきました。「先生の推し本紹介」

「点字ブックとは?」「奈良市の図書館について」と様々な工夫を凝らした展示物ができました。生徒たちがよく通るところに掲示しました。興味深げに読む子、図書室にきて借りていく子、と読書に対する意識を向上させることにつながりました。



## ◆図書室環境整備（通年）

中央図書館の司書さんが来校される時に合わせて、ボランティアの方々も来てくださっています。司書さんの専門的なご意見をお聞きしながら、本の配置、新刊の選書等おこなっています。昼休みの開館時には生徒たちと話をし、希望図書の聞き取りや、おすすめ本の紹介をしてくださいました。図書室に行く生徒数が増え、本に親しむ機会が多くなったと感じています。来年度以降もさらに充実した取組にしていきたいと考えています。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症対策をとりながら慎重に活動をすすめました。漢字検定は3回行うことができました。教室、手指の消毒、マスクの着用、検温等、徹底しました。図書ボランティアの方々は来校する人数を制限し、マスクとマウスガードの併用着用で対策してくださいました。外でおこなっている花植えボランティアや環境整備清掃などは地域の方々と生徒たちが一緒に活動することができました。地域連携を主軸とした、「地域と共に育つ生徒の育成」を目指し、今年度もできることを考えて、取り組むことができました。

**【来年度に向けて】**

今年度もふれあい行事が全く開催されませんでした。毎年生徒が活躍する地域交流事業や地域ボランティアに参加することもできず、残念な一年でした。こんな時だからこそ、情報発信・啓発活動にも力を入れ、コーディネーターの方々やボランティアの方々による、よりよい体制づくりに取り組みたいと思います。



めざす子ども像

**地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標

**「いきいきわくわく地域とともに」～伏見でふれ合い、学び、育つ伏見っ子～地域に根ざした「自ら学ぶ子ども 心豊かな子ども たくましい子ども」の育成****【今年度の取組紹介】**

主な柱を「地域連携による伏見まつりの開催～子どもの笑顔が地域を笑顔に～」 「地域文化遺産学習等を通じた学校教育活動の充実」 「夏季清掃や本の補修作業等を通じた学校環境整備」とし、取組を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、大幅に縮小し、取組を実施しました。

「子ども見守り活動事業」では、子どもの登下校の時間に多くの地域の方々に通学路に立っていただき、安全を見守っていただきました。また、今年度は、見守り隊員紹介式をリモートで行いました。

学校環境整備の側面からは、地域ボランティアの方々と自然委員会の子どもたちが花壇や中庭の整備等に取り組みました。また、図書ボランティアの方々と図書委員会の子どもたちが図書室の蔵書補修等を行いました。読書をより楽しく気持ちよく行うために、部屋のレイアウトの変更等も行われました。このように、多くの方々が、より良い学校環境づくりに力を尽くしてくださいました。

**【今年度のまとめ】**

教育活動の活性化、地域拠点としての学校の機能の維持向上、子ども・地域・学校相互のより良い関係形成の面において、次のような様子から、一定の効果を得ることができたと考えています。

- ・地域の方との交流の機会が少なくなったが、その少ない機会の中でも、子どもたちが地域の方との活動を通して、地域に対する愛着、関わってくださる方々への感謝の気持ち等が育ってきました。
- ・学習を通して、子どもたちが自分にできることを考える等、今後の素地となる活動や体験を行うことができました。

**【来年度に向けて】**

諸活動に携わってくださる方の世代交代や新たな人材の参加は徐々に進みつつありますが、継続的かつ安定的な人材の確保が課題であると考えます。また、毎年予算が減額されることや働き方改革の観点からも、事業の見直しの必要があると考えます。地域の方の今まで以上のボランティア的協力や教職員の地域行事への参加方法を検討していく必要があると考えます。更に、コロナ禍において、どのように取組を実施していくかを検討していく必要があると考えます。

めざす子ども像

**地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標

**「出会いと体験から豊かな学びを」ー地域ぐるみの子育てー****【今年度の取組紹介】****読書活動推進事業**

【お話の会】【図書ボランティア】2つの団体の方々が図書館教育の充実にご尽力いただいています。お話の会（地域のボランティアの方）が、各教室で本の読み聞かせをしてくださっています。また図書ボランティアの方が自作の紙人形・脚本を用いたパネルシアター劇で、本の紹介をいただいています。本の修繕や図書館の充実にもお力添えをいただいています。本との出会いを通して、心豊かな子に育ってほしいと願っています。

**授業サポート事業**

植物の栽培を通して、豊かな学びの場を創造するために、地域の方にご尽力いただきました。今年度は、田植え体験や稲刈り体験をさせていただき、農家の方の苦労や願いについて学習しました。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえつつ、本事業の一層の充実を考えての取組となりました。限られた中ではありますが、学校に地域の方が集まっていただくことで、学校と地域の連携がさらに深まり充実した取組が実施できました。新たな取組の実施として、田植えや稲刈りの体験学習、環境支援事業（学校周辺の花いっぱい運動）も実施することができました。関わってくださったボランティアの累計は2000名を超えました。すべての方々のご尽力をもって子どもたちが「心豊かに育つ」学校教育が展開できたと考えております。

**【来年度に向けて】**

本事業の充実をすべての関係者の皆様のお知恵をいただきながら、「地域に誇りをもち心豊かに共に生きぬく子どもの育成」に向けた取組を継続・発展させていきたいと思います。

めざす子ども像

**地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標

自分たちが暮らす地域に親しみを持ち、自分たちが地域の人たちに支えられていることを感じられるような取組の充実。

## 【今年度の取組紹介】

## ◆ぶっくらばこさんによる図書室整備【読書啓発事業】

ぶっくらばこの活動として例年は図書室の環境整備と読み聞かせをしてくださっています。しかし、今年度は感染状況に応じての開催となりました。年間通じての読み聞かせ活動はできませんでしたが、子どもたちが気持ちよく読書が行えるよう、ブッカーかけや棚の整理などに力を注いくださいました。子どもたちが図書室に通う機会も増え、図書に親しむ姿が多く見かけられました。

## ◆ケナフで感謝の気持ちを伝えよう。【地域に学ぶ事業】(2年生)

本年度初めての取組で子どもたちが栽培したケナフを利用し、はがきづくりに挑戦しました。ケナフの栽培・はがきづくりには、ゲストティーチャーとして地域の方(自主防災・女性防災クラブ・すこやか会等)をお迎えし、体験活動が行うことができました。子どもたちが完成したはがきに感謝の気持ちのメッセージを書き、ボランティアの方々に届けることができました。この交流を通して、地域の方々と子どもたちとの繋がりが深まりました。また、登下校や地域行事でお世話になっている地域の方にも感謝の気持ちを届ける取組となりました。



## 【今年度のまとめ】

コロナ禍の為、感染状況を見極め、実施の時期や感染症予防対策を行いながら、事業を進めることができました。感染状況が落ち着いた10月頃より、PCサポート事業(全学年)をはじめ、防災体験(4年生)・世界遺産学習(5年生)を行うことができました。また、環境整備事業やケナフ栽培等の屋外での活動は感染症予防対策と熱中症対策を行いながら実施しました。新しい取組として、「ケナフで感謝の気持ちを伝えよう」(2年生)は地域の方々にゲストティーチャーとして来校していただき、地域の方とつながりが生まれ、子どもたちが地域に愛着を持つ良き体験事業となりました。来年度もコロナ感染状況を把握し、より豊かな体験活動ができるように計画していきたいです。

## 【来年度に向けて】

来年度も読書啓発事業・環境整備事業・地域に学ぶ事業を中心に子どもたちが地域に親しめるような体験活動を実施していきたいです。また、コロナ感染状況を把握し、感染予防対策を行いながらどの時期にどの活動をどの程度まで実施できるのかを、コーディネーターと協議しながら進めていきたいです。

めざす子ども像

**地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく****子ども**

取組目標

**身近な人と人との輪の中で、豊かに学び、  
自ら考え行動する子どもを育成する。**

【今年度の取組紹介】 ～地域の人と一緒に楽しもう事業～

## 【栽培教室】

地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、サツマイモやダイコン、タマネギなどを畑で栽培したり、花壇やプランターで様々な植物を育てたりしました。種まきや苗植え、水やり、草引き、収穫などその都度、丁寧にわかりやすく教えていただきました。友達と一緒に「芽が出てきたよ」「こんなにたくさんとれたよ」と栽培物の生長を身近に感じながら、土に触れ、できた栽培物を収穫し、家庭に持ち帰って調理して味わいました。保護者から、感謝の言葉も聞かれ、これらの直接体験は子ども達の心に大きな感動をうみました。



## 【お話こんにちは】

毎月2回、地域の方によるゲストティーチャーやPTAのボランティアによる絵本や紙芝居など



のお話の読み聞かせをしていただきました。お話を聞くことで想像力を広げたり、登場人物の心情に共感したりして豊かな感性の育ちにつながっています。また、絵本の修理や保護、絵本の部屋の環境づくりなどの充実が図られ、子ども達は毎回お話を聞くことを楽しみ、絵本の読み聞かせ活動で豊かな心情や話を聞く態度が育まれました。

## 【今年度のまとめ】

地域の方やゲストティーチャーとの体験活動は普段経験できないことに触れる機会となり、子ども達にとって豊かな学びとなりました。また、地域の方々がいつも温かく接してくださることで、回を重ねるごとに、子どもたちは親しみを感じ、自分から挨拶をしたり話しかけたりするなど積極的に関わっていく姿につながりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、クラスごとで、時間も限られる中ではありましたが、子ども達は毎回活動を楽しみにしており、園での活動が地域とつながり合う場となりました。

## 【来年度に向けて】

来年度も地域の方や子ども達が安心して活動に取り組めるように、新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な安全対策を講じながら、園、地域、家庭と連携し、子どもにとってよりよい心豊かな体験ができるように、事業を継続していきたいと思います。地域と子どもがつながり合う喜びを感じることができるよう、保育の内容を検討し計画していきたいと思います。



めざす子ども像

**地域に誇りを持ち、心豊かに、****共に生きぬく子ども**

取組目標

**地域とのつながりを感じる・広げる・深める  
～地域の教育力を活かし、心揺さぶられる感動体験の充実と心豊かな子どもの育成～**

## 【今年度の取組紹介】

## ◇いきいき広場「カプラで遊ぼう」（地域交流事業）

講師の先生を招き、地域の方と一緒にカプラを使って遊びました。講師の方から教えて頂いたいろいろな遊び方で、自分なりに組み立て方を考えたり、友達を認めたりする姿が見られました。一人で取り組むだけでなく、それぞれの作品を組み合わせながら、友達や地域の方と一緒にイメージを広げ、リズム室を大きな街へ大変身させました。地域の方から「素敵だね」「崩れてしまっても大丈夫だよ」と言葉をかけていただき、優しさに触れることで「もっとやってみよう」という思いが強くなり、工夫を凝らしたビルやマンション、駅、汽車など協力して作ることができました。できあがった街の様子に参加した全員で達成感と喜びを分かち合うことができ、心に残る体験となりました。また、地域の方と一緒に過ごすことで子どもたちは「一緒に遊んでくれてありがとう」「〇〇さんまた来てね」と、地域の方を身近に感じ、親しみをもって関わる姿に繋がりました。



## ◇地域の方の「おはなし広場」や保護者の方の「読み聞かせスマイル」（体験学習事業）

今年度より地域の方がしてくださる絵本の読み聞かせを「おはなし広場」と名称しました。子どもたちは、「今日は、おはなし広場の日だね」「今日の絵本はなんだろう」と期待を膨らませ、お話の時間を心待ちにしています。地域の方の優しく穏やかな声で繰り広げられるお話に、ワクワク感や想像を膨らませ、お話の世界を楽しんでいました。保護者の方が絵本の読み聞かせをしてくださる「読み聞かせスマイル」では、身近な人が自分達のために読み聞かせをしてくれることに喜びを感じています。読み聞かせの回数を重ねていくことで、子どもたちの聞く力が育っています。地域の方や保護者の方には、子ども達の実態に合わせて絵本の内容を相談したり園の絵本を活用できるよう紹介したりする中で、新しい絵本も増やしました。絵本を通してたくさんの方と関わり、いろいろなお話に出会うことができたことで、気に入った絵本を見つけたり、友達と絵本の話について話したりして、お話が好きになり、友達と言葉のやりとりやイメージしたことを楽しむ表現力に繋がり、豊かな心が育まれました。



## 【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症対策の為、様々な制限がある中で、安心・安全に実施できる方法を工夫し、地域の方や講師の方、保護者の方から協力を得て進めることができました。環境整備・体験活動・地域交流では、人と関わる経験を積み重ねることができ、地域の方がいつも温かい言葉をかけてくださることで、子どもたちの自信や意欲、人に優しくできる気持ちがもてるようになりました。世界遺産学習では蚕の飼育を通して命あるものへのいたわりに気付き、命を大切にする気持ちが育ちました。また地域の方が子どもたちと活動したり、地域学習へ出かけたりする中で、「いつも元気な挨拶ができる」「話をよく聞いて伝えている」と、子どもたちの成長を実感していただくことができ、園と地域が共に子どもの成長を喜び合うことができました。

## 【来年度に向けて】

コロナ禍の中でも実施できる方法を引き続き検討しながら事業の継続や再開を行い、子ども達の豊かな経験となるように進めていきたいと思います。また、保護者の方の事業への関心が更に高まるようにホームページや掲示物等、情報発信の方法を工夫し、子ども・保護者・地域が一体となり、共に子どもたちの育ちを分かち合い、繋がりを深めていくことができるように取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

**『命や人を大切にする子』『感謝の気持ちを大切に  
にする子』『夢に向かって進める子』『富雄を愛  
する子』**

取組目標

コミュニティ・スクールと連動し、幼稚園からの11年間を一貫した考  
えのもと地域と学校が協働する体制の定着を目指す。社会情勢にあわせ目  
的、目標は維持しつつ柔軟にアレンジし、実施時期、方法については十分  
に考慮する。

**【今年度の取組紹介】**

例年『富雄を愛する子』を育てるため実施してきた郷土学習で  
すが、昨年度同様「一堂に集まって共に学ぶ」という開催方法が  
コロナ禍で密を避けるため出来ず、屋外での実施を想定した取組  
に向け実行委員会を組織し、協議を重ねました。地域の特性、歴  
史、現在に至るまでの変遷などを如何に楽しみながら学ぶのか。  
子どもたちからご年配の方々までが一緒になって学ぶための仕掛  
けとは。様々な課題をクリアしながら協議をすすめてきましたが、今  
年度は大学生が参画してくれたことにより違った視点も取り入れ  
ることができ、1月15日には「ふるさと発見ウォークⅡ」～  
TOMIO QUEST お地蔵さんを求めて～を無事に実施するこ  
とができました。地域に溶け込み、ときには見逃されている「お  
地蔵さん」をたどり、幼稚園児から80代までの方々が地図、資  
料、クイズカードを手に協力しながら古い時代の道を歩きました。立ち寄った2か所の神社では宮司  
さんから丁寧な説明をしていただき、故郷の再発見につなげることができました。

子どもたちと地域の大人が共に学ぶ機会をこれからも作っていきたいと考えています。

**【今年度のまとめ】**

これまで継続してきた取組を、コロナ禍を理由に途切れさせることは考えず、何とか方法を考え対  
策を取り、実施しました。昨年度の経験が今年度の対応力の高さにつながったと考えられますが、予  
想のできない世情の変化に振り回されたことは間違いありません。しかし、地域の皆様の「子どもた  
ちの学び」に対して寄せていただくお気持ちが途切れることはなく、多くのご協力、参加を頂いたこ  
とはここ富雄の地域の教育力の高さではないかと考えます。取組の事後アンケート調査においても満  
足度が高く、次年度以降の企画に期待を寄せられている様子がうかがえ、回を重ねるごとに地域の皆  
さんのリピーターが増えていることを感じました。

**【来年度に向けて】**

現在の制約された状況がいつまで続くのか分かりませんが、「出会いとつながりの再生」を合言葉  
に、アフターコロナを見据えた活動を発展させていきたいと考えます。慎重さを持ちつつも必要なこ  
とをあきらめず、これまで控えてきた大規模な熟議も実施できるよう活動をすすめます。

めざす子ども像

**命や人を大切にする子 夢に向かって進める子**  
**感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

**地域と一体になった活動を通し、めざす子ども像に合わせた取組の充実。  
教職員における地域との協働意識の向上。**

## 【今年度の取組紹介】

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、地域と共に例年行ってきた取組が大きく制限されました。その中、本校区のめざす子ども像育成に向けどのような活動ができるかを、コーディネーターの方々と話し合いを重ね、単に活動を中止にするのではなく、昨年度の経験を生かしながら今できる新しい方法での取組を工夫することができました。

キャリア教育において、昨年度は2年生の職場体験が実施直前に中止になり、代替りの活動を行うことが出来ませんでした。本年度は、職場体験ができなかった時の代替え活動について早期よりコーディネーターの方々と計画を進めたことで、多くの職業に就いておられる方々に、講師として来校いただき、感染対策を行いつつ、全く違った形式で生徒に将来の職業について考えさせる時間を持つことが出来ました。教職員と沢山の地域の方々が一堂に会しての熟議の場を持つことは今年度も難しかったですが、コーディネーターの方々と教員合同での「SDGs」についての研修を実施することが出来き、職員と地域の方とで、良き意見交流の機会とすることが出来ました。その他、生徒の表現力向上のため、「富中川柳」「ベルマークプレゼンテーション」「ビブリオバトル」などの取組を計画することが出来ました。また、ボランティア部では、「SDGs」の観点から給食の牛乳パックを回収し、ベルマークへと有効活用することが出来ました。



## 【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、今年度も色々と活動が制限されましたが、様々な活動を中止にするのではなく、昨年度の経験を生かし、感染対策を行いながら、新たな形での実施形態を工夫することが出来ました。また、タブレット等のICT機器の活用やオンライン化が急速に進むにつれ、生徒たちが受け身になり自己表現力の低下が懸念されることより、コロナ禍の中でも可能な発表や表現活動の機会の確保に力を入れることが出来ました。

## 【来年度に向けて】

来年度も今年度の経験を生かし、その時その時の状況の中、本校区のめざす子ども像育成に向けどのような活動ができるのかをコーディネーターの方々と教員がしっかりと熟議し、それぞれの取組に教員も積極的に参加し、地域と協働できるよう努めてまいります。また、授業をはじめとした日々の活動の中に、学び合い活動を積極的に取り入れ、生徒が人とのつながりをつくる機会を増やしていきたいと考えています。



めざす子ども像

## 命や人を大切にする子 夢に向かって進める子 感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標

- ・地域の人材や保護者ボランティアを活用した体験型学習を実施し、子どもが新たに気付いたり、考えて判断したりする力を高める。
- ・学んだことや取り組んだことを地域や保護者ボランティアに伝え、見てもらう機会をもつことで児童の表現力、発信力、コミュニケーション力を高める。

### 【今年度の取組紹介】

#### むかしあそびをしよう！（1年生・生活科）

地域の遊び名人に昔遊びを教えてもらいました。こま回し、あやとり、ケンパの3つのブースに分かれて、昔遊びを体験しました。名人技を見せていただきながら、「手の平の上でこまを回しながらおいかけっこをしたんや。」「あやとりにはいろいろな技があるよ。」という話を聞き、目を輝かせる1年生でした。体験後、「こままわしのこつを教えてもらったよ。」「地域の人にはほめてもらってうれしかった。」等、できたことやうれしかったことを発表し、地域の方から大きな拍手をいただきました。



地域の遊び名人とこま回し

#### 防災学習（5年生・総合学習）

地域の防災士さんから、『自助・共助・公助』をキーワードにして、地域防災の取組について教えてもらいました。実際にテント等の防災グッズを見せていただき、被災時に、体育館が避難場所になることや、防災倉庫に道具があることを知り、防災意識を高める5年生でした。また、「見てふれて考える」をテーマに、ペットボトル等の身近な物を使って災害時に役立つものを考えました。みんなで知恵を出し合うことの大切さを学びました。学習のまとめでは、学んだことや興味をもって調べたことをスライドにまとめて地域の方に発表しました。



防災グッズを考えよう

### 【今年度のまとめ】

ウイルス感染対策のため、時間・場所・人数に制限を設けながらの活動となりましたが、多くの地域の方や保護者にボランティアとして参加していただいたことで、全学年で充実した活動を実施することができました。学校アンケートでも、子どもたちから「地域の方といっしょにやる活動はやってよかった」と多く回答がありました。4年「環境」、5年「防災」、6年「福祉」と学年テーマを設定し、子どもたちの興味関心を大切にしながら、実際に体験して学んだことを発表する活動を進めることができました。

### 【来年度に向けて】

これからも多くの方とのあたたかいふれあいを通して、感謝の思いをもち目標に向けて努力する力を育てられるよう活動を進めていきます。そのためにも、来年度も、地域の方や保護者に学習支援活動への参加協力を呼びかけ、教員とボランティアが「めざす子どもの姿」を共有し役割を確認しながら取り組むことを大切にしていきます。来年度もウイルス感染対策を講じ、富雄で出会う「人」「もの」「自然」から、「富雄を愛する子」を育てていきます。



めざす子ども像

**命や人を大切にする子 夢に向かって進める子**  
**感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

- ゲストティーチャーを招聘するなど多様な人との関わりを通して、より良い人間関係を作り、夢をもって自ら学ぼうとする児童を育成する。
- 地域の方と共に活動することで、人と出会うことの楽しさ・素晴らしさ、地域の良さを知ると共に、地域に対する誇りと自信、地域を愛する心を育てる。
- コロナウイルス感染拡大の状況を確認しながら、今までの取組を精選し実施できるように工夫改善を行うとともに新しい取組を実施できるように学校とコーディネーターと協議していく。

【今年度の取組紹介】

○ 図書活動支援事業

たくさんの地域の図書ボランティアの方に、図書の本のブッカーかけや季節感あふれる図書室の整備をしていただきました。  
 図書室の環境が季節ごとに変わり、心豊かな学校図書館教育を行うことができました。



○ 体験学習事業（1、2年）

1、2年生は、地域コーディネーターの方の協力により「大型紙芝居」の鑑賞をしました。昨年に引き続いての取組でしたが、感染症予防対策をしっかりといただき、子ども達は畳1畳の大きな紙芝居に吸い込まれるように鑑賞していました。「猿沢池の龍」「二月堂良弁杉」のお話をしていただき、地域のことを知り、興味を持ち、地域を愛する子の育成のきっかけづくりになりました。



【今年度のまとめ】

今年度はコロナウイルス感染状況をふまえての取組になりました。地域コーディネーターの方と学校とで今までの事業を見直しました。同じ形で実施できる取組・形態を工夫してできる取組・新たな取組に仕分けを行いながら地域ボランティアの方等に協力をいただき実施することができました。今年度は、鳥見・富雄の歴史授業として、地域コーディネーターの方をゲストティーチャーにお招きをして、お話を聞くという新たな取組を始めました。また、地域コーディネーターや地域の支援者の顔写真と名前を掲示した新しい掲示板を設置し、子ども達に顔と名前を知ってもらうことができました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方のお力を借り、めざす子ども像の実現に向け、子ども達にとって地域の方に親しみを感じ、様々な体験ができる活動を継続していきたいです。新型コロナウイルス感染状況を見極め、今までの取組を考え直し、工夫して実施することにより、取組目標が達成されるよう工夫改善しながら実施していきたいと考えています。

めざす子ども像

**命や人を大切にする子 夢に向かって進める子**  
**感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

- 様々な事業を通して、地域の人と触れ合い、関わりながら、コミュニケーション力を高め、感動体験を積み重ねて豊かな心を育てる。
- 事業内容を多くの方に知らせて、人が集まり、協働していくようにする。

#### 【今年度の取組紹介】

◎絵本って面白いね！楽しいね！

地域の図書館司書の方にご指導いただきながら図書ボランティアの方々が季節を感じられるように、折り紙で壁面を飾ったり絵本の特集企画をくんだり一冊でも多く子どもたちが絵本に触れられるように環境を整えてくださいました。「去年は40冊だったから今年は100



冊読むんだ」「どんぐりむらの絵本が面白かったよ」と友達同士で絵本のことを話したり親子で絵本を選んだりして会話も弾んでいます。たくさんさんの絵本に触れたことでイメージが広がり、遊びの中でも創造力が豊かになり、自分で考えたことや知っていることを試したり、工夫したりする姿につながり、日々の生活が豊かになってきました。

◎垣根がまっすぐになった、気持ちがいいね

地域の方や保護者の方のお力をお借りして木の剪定を行いました。「すごい機械（バリカン）で切ってる」「むこうの家が見える」「伸びてた枝がみんな同じになってきた」と子どもたちは作業の様子や新たな景色に興奮していました。園を囲む垣根がまっすぐに整ったことで、自分たちにできることを考え「滑らないようにするためにほうきとちりとりで葉っぱを掃除しよう」「きれいになるって気持ちがいいね」と心地よさを感じていました。剪定した枝や葉っぱを使って虫の家づくりをして自然に触れて遊んでいました。



#### 【今年度のまとめ】

地域コーディネーターの方の発信力や人材力のおかげで新たな活動や日本の伝統文化に触れる活動など様々な体験活動を行いました。地域の方に温かく見守られながら様々な人と出会い直接体験をすることで、地域のすばらしさを知ったり感謝の気持ちや思いやりの心を育んだり、人とかかわる心地よさを感じたりとコミュニケーション力を高めることができました。親子で茶道に親しんだり絵本の読み聞かせを行ったりして親子で素敵な時間を過ごすことができました。

#### 【来年度に向けて】

保護者や地域の方や他の方々にも園の取組をさらに理解していただき協力が得られるようにタイムリーな啓発活動に努め、地域の教育力を引き続き保育内容に取り入れ、子どもたちが人とのつながりを感じながら、遊びや活動を通して感動体験が積み重ねられるようにしていきたいです。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子  
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標

- 地域の方との活動行事を通して、触れ合いを深められるような取組の充実。
- 幼児の心身の発達を促す直接体験ができるような保育内容の充実。

## 【今年度の取組紹介】

## ○「体操教室」

年4回講師を招き、子ども達の体づくりを行っています。とても楽しい雰囲気の中、体を動かすことが苦手な子も徐々に笑顔で参加することができました。本園では、体幹づくりを意識した保育を行っていることもあり、講師の先生とも相談しながら、子ども達の体幹を意識した内容を中心に行っていただきました。その内容を保育にも取り入れ、子ども達の体だけでなく、心の安定にもつながる体験を積み重ねることができました。



## ○「お話の会」

学期に1回ずつ、地域のお話サークルの「泉のたまご」さんに来ていただき、お話の会を行っています。絵本・紙芝居・大型絵本など、3~4種類のお話を読み聞かせしていただきます。季節の行事、物語など色々なジャンルのお話があり、登場人物ごとに声色を変え、楽器や音楽で効果音を入れながらの読み聞かせは、子ども達はお話の世界に引き込まれ、想像力を膨らませていました。お話の会で聞かせていただいた絵本を図書の貸し出しに時に、借りて読んでみようとする姿や、お家の方に「このお話が、楽しかったからまた、お家でも読んで」という声に繋がっていました。地域の方に読み聞かせをしていただくことは、子ども達の心を豊かにする活動の1つになっています。



## 【今年度のまとめ】

コーディネーターの方々と相談しながら取組を進め、多くのボランティアやゲストティーチャーのご協力により、保育内容を充実させ、環境改善を行うことができました。色々な活動を継続して行うことで、「次は、お話の会いつあるの?」「お花植えて教えてもらったやり方で、植えてみよう」と地域の方に親しみの気持ちを持ち、意欲的に事業に参加する姿に繋がっていました。

## 【来年度に向けて】

今年度同様、コーディネーターの方々と連携し、小学校以降の学びにつながる心身を育んでいけるような豊かな体験や園内の環境づくり等に、地域の方々の力添えを得ながら取り組んでいきたいと考えています。また、園の取り組みを理解していただき、協力が得られるように、啓発活動にも努めたいと思います。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

すべての園児・児童・生徒に15年間の連続した「学び」を保証するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。と共に学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働により、地域に園児・児童・生徒が活躍できる場を作ることによって「自己有用感」の育成を図る。また南部公民館との共催事業の発展をめざす。

#### 【今年度の取組紹介】

昨年度からの新型コロナウイルス感染症が拡大と減少を繰り返す中、様々な事業を実施できるよう検討し計画しましたが、感染予防を最優先に考え残念ながら中止といたしました。

そのような中でしたが、SAKURA夢スクールは感染防止対策に注意をしながら英会話・編み物の2講座を開講することができました。



#### 【今年度のまとめ】

様々な計画を何とか実施できるように検討しましたが多くの事業を実施することができず残念に思います。

#### 【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの影響が2年にもおよび依然として感染状況の予測は難しいが、子どもたち・学校園・地域が協力して事業の実施に向けて検討していきたいと思います。



**めざす子ども像**

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

**取組目標**

自己有用感を育成し高めることで、  
学習への意欲回復・基礎学力の向上と規範意識の育成につなげる。

**【今年度の取組紹介】**

「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに様々な活動を計画しておりましたが、今年度についてもコロナ禍での活動は難しく、ほとんどの活動をやむなく中止することとなってしまいました。二年連続でこのような状況が続き、生徒と地域の方々とのつながりがしだいに薄れていくのではないかと、懸念するところもありましたが、二年前まで（小学校のころまで）の取組がしっかりと生徒の心に残り、生徒と地域の方々との強い絆が育まれていることがアンケートの結果からもわかりました。

図書館運営においては、継続的に地域ボランティアの方々による協力をいただき、読書推進活動がすすみました。生徒の図書室の利用制限がある中、安心・安全にいつでも自由に図書室が利用できるように、室内のレイアウトを変えていきました。



「クリーンキャンペーンの様子」

**【今年度のまとめ】**

昨年度に引き続き、今年度に関してもコロナの影響は大きく、スローガンである「地域で子どもを育てる」という地域の方々とともに行う様々な取組の多くができませんでした。しかしながら、できない中で、改めて地域の方々の存在の大きさや交流の大切さを再認識する一年となりました。

また、一部活動をする事ができたものに関しては、やはり生徒への影響が大きく、自己有用感の高まりにつながり、自己形成の一助になったと感じます。

**【来年度に向けて】**

来年度こそは「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに掲げ、事業を推進していこうと考えています。地域の人に学校へ足を運んでもらう取組を継続しながら、その中で地域の方々との触れ合いを通じて、生徒たちが「自己有用感」を感じ、さらには地域の一員としての認識の向上や規範意識の醸成につながればと考えています。

**めざす子ども像****○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども****○感性豊かで、たくましく自立する子ども****○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****○共に汗して働くことのできる子ども****取 組 目 標****地域と学校が連携して学習環境の整備に取り組み、子どもが地域の一員であることを自覚し、地域に誇りをもって生きようとする姿勢を育む。****【今年度の取組紹介】**

本校の地域の方々は「子どもは地域で育てる」ということを大切にしており、学校・地域・家庭が連携・協働して事業を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響下での事業の実施のため、できるだけ少ない人数でできる活動に絞って取り組みました。

**○ 絵本の読み聞かせ活動**

毎週水曜日の朝の読書の時間に地域の方に来ていただき、絵本を読んでいただきました。今年度は10月からのスタートで低学年を中心に来ていただきました。今年度も活動が制限されたり他の人との接触を極力減らすことが求められたりするなど窮屈な環境だったので、この時間は子どもたちにとって大切な時間となりました。

**○菜の花プロジェクト**

コロナ禍の中でしたが、今年度も地域の方との協力のもと、菜の花プロジェクトをすすめることができました。地域の方と協力して、昨年度に植えた菜の花を6年生が収穫し、搾油をしました。搾った菜種油は5年生が、世界遺産学習の際に春日大社と興福寺に奉納しました。そして5年生は来年収穫することになる菜の花を植えました。学年をまたいで活動が続いていきます。

**【今年度のまとめ】**

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている事業のうち、屋内での活動や多くの方が交流するような行事については実施できないまま終わってしまいました。

そのような中でも地域と協力して取り組めることを進め、回数は少ないですが人とのつながりを感じる活動を行うことができました。

**【来年度に向けて】**

新型コロナウイルスの感染状況によって活動が実施できなかったり制限されたりしました。来年度も同様の状況が考えられるため、今年度できなかった活動の取り組み方について検討し直したり、新しい活動を模索したりすることも必要だと思います。これまでのよさを踏襲しつつ、新しい取組にもチャレンジしていきたいと思います。

めざす子ども像

○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども

○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども

○感性豊かで、たくましく自立する子ども

○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども

○共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

活動の中で子どもたちが地域とのつながりも感じられるような地域と密に連携した環境整備、学習支援活動等の取組の充実。

【今年度の取組紹介】

○ 環境整備活動事業

学校園や学級園の整備を行っていただき、子どもたちとともに季節に応じた様々な草花の栽培を行っていただきました。

季節ごとに玄関や職員室前の廊下の飾り付けをしていただき、きれいな手作りの飾りに、みんな足を止めて見入っていました。また、年末には松の剪定もしていただきました。

○ 授業サポート活動事業

家庭科の実習で協力いただきました。裁縫の実習では、ボランティアの方に補助をしていただき、ミシンの使い方等をはじめ、裁縫に関する手ほどきを優しく教えていただきました。

○ 読書力向上事業

絵本の読み聞かせボランティア「お話ドラゴン」のみなさんが、毎週水曜日に朝の学習時間を使って絵本の読み聞かせをして下さりました。また、学校図書館の整備を、図書館司書の先生とともに行っていただきました。児童も読書を楽しみにし、児童の読書力向上へつながってきています。



○ 児童の安全確保事業

毎日の登下校時に児童の見守りをしていただきました。また、1年生の給食が始まるまでは地域ごとに分かれ、一緒に下校していただきました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍という、困難な状況の一年となりましたが、そのような中でありながら今年度も地域の方々に様々な面でご協力いただきました。地域と共に行った防災教育 DAY ははっきりと実感できる変化でしたし、登下校時の見守り活動や家庭科の実習補助、学級園での草花の栽培等においては、制限を設けながらの活動とはいえ、地域の方々と触れ合いながら活動したので、児童はたくさんの地域の方々に支えていただいているということを実感できたようでした。

【来年度に向けて】

依然として続くコロナ禍の中で、継続して行えるもの、一旦取りやめなければいけないもの、新たに活動を始めていくもの等、どのような活動ができるのかを模索していくことが引き続いての課題となってきます。

活動ボランティアが高齢化し、ボランティアを卒業される方が増えてきているという現状があります。新たな人材を発掘し、現状並みの人数を確保できるよう地域に働きかけていく必要があります。また、多くのボランティアの方に力を発揮していただき、人材を有効に活用することができるよう運営委員会を中心に活動内容や連絡体制を見直していく必要もあります。そしてより活動の活性化を図れるよう、ボランティアの皆さんの意見を聞き、取り入れていきたいと思います。

**めざす子ども像****○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども****○感性豊かで、たくましく自立する子ども****○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****○共に汗して働くことのできる子ども****取組目標****地域の教育力を活用し、継続性をもって学習環境や学習体験を豊かにしていく事業を目指す。****【今年度の取組紹介】**

今年度、4年生を対象に「明治地区自主防災防犯会」と「女性防災クラブ」のみなさんに協力していただき、『自分たちが暮らす地域ではどんな備えをしているのか』を学ぶための防災学習をしました。4年生の社会科で奈良県の水害や地震の学習をし、自分にできることを考える機会とするための新しい取組です。



自分たちの住んでいる明治小学校区に災害があった時、避難所になっている明治小学校の防災倉庫にはどんなものが保管されていて、いざという時にどのように使うのかなど、地域の防災について詳しく教えていただきました。

まず明治ホールに集まり、災害時の備えや災害発生時の対応について、家族で話し合っておくことが大切だと教えていただきました。自分の家の中は安全かどうか、危険箇所の点検や確認をしておく必要があること、安全な空間づくりのポイントなどを知ることができました。また、災害時に備蓄しておくこと（ローリングストック）が大事ということと、避難所に行けば物があるというのは間違いで、すぐに必要になるものは非常持ち出し品として用意しておくことが大切であることも教わりました。

次に、グループに分かれて、体育館で明治小学校の防災倉庫の中にある防災テントやマット、災害用発電機、炊き出し用大鍋等、実際に子どもたちに見せていただき、使い方の説明をしてもらいました。また作り方や組み立て方の体験をさせてもらいました。

子どもたちは、「どうすれば命を守ることができるのか」、「自分にできることは何か」を主体的に考えることができました。

**【今年度のまとめ】**

地域の方々と子どもたちが共に活動する機会をたくさん持つことで、子どもたちは地域の方々と親しみをもって触れ合い、様々なことを学ぶことができました。子どもたちは地域の一員としての自覚と誇りをもち、自尊感情を高める取組につながりました。今後も学校と地域が連携を図ることにより、子どもたちが自己肯定感を持てるような取組等を更に進めていきたいと思っています。

**【来年度に向けて】**

地域との連携を更に深め、新たな取組と人材発掘に努め、今後も「地域と共に歩む学校」をめざして取り組みを続けたいと考えています。



## めざす子ども像

○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども

○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども

○感性豊かで、たくましく自立する子ども

○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども

○共に汗して働くことのできる子ども

## 取組目標

**豊かな感性をもち地域とともに主体的に生きる子どもの育成**

## 【今年度の取組紹介】

帯解小学校では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の方と共に活動したり、学んだりする取組を栽培活動や体験・交流活動、聞き取り学習として組み込んでいます。しかしながら本年度も、昨年度に引き続きコロナウイルス感染拡大防止のため、大半の事業を断念せざるを得ず、本来の地域で決める学校予算の活動ができない1年間となりました。そんな中でも、何とか実施できた事業を紹介します。

5年生における栽培活動においては、地域の方からお借りした田で実際に粃まきから田植え、秋には稲刈りの体験をさせていただきました。収穫祭は残念ながらできませんでしたが、身近なお米の栽培に関わり、地域の方とつながることで、地域の良さを知り、感謝の心が育まれています。縦割り班で校区をめぐる「なかよし遠足」では、地域の訪問先やPTA・民生委員等の支援の下、自分たちの故郷を散策しながら学ぶ良い機会を得られ、さらに自分たちの校区に対する郷土愛が育てられたようです。



地域の方々の知恵をいただく貴重な機会となっています。こうした地域学校連携は、児童の豊かな感性の育成につながっています。今後も『市民と協働した教育を進める「30万人の市民を先生に」』という奈良市教育振興基本計画の基本方針実現ために、さらに地域の方と子どもたちがつながり、学びの輪が広がることを願って取組を進めています。

## 【今年度のまとめ】

本年度は、本校の特色でもある地域の方に学ぶ聞き取り学習や体験・交流学習・栽培活動が制限されましたが、毎朝の登校見守りや上記活動で児童が地域の方と関わる中で、学校だけでは学べない体験をし、豊かな感性の育成につながりました。地域の方との活動は、学校評価において、児童・保護者共に94%の肯定的な回答を得ました。学校教育の様々な場面で地域の方に見守られ、支えられながら地域の歴史を知り、地域に愛着をもつ子どもたちの育成を目指しました。

## 【来年度に向けて】

来年度も精華・帯解両地区の良さを生かした取組を大切にしながら、地域で学んだことを誇りに思う児童の育成と、豊かな感性をもち、主体的に生きる子どもの育成を目指していきたいと考えています。また、取組の内容を多くの方に知っていただき、さらに継続・発展くさせていくために広報にも力を入れていきます。

**めざす子ども像****○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども****○感性豊かで、たくましく自立する子ども****○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****○共に汗して働くことのできる子ども****取組目標****豊かな心を持ち、いきいきと活動する幼児の育成****【今年度の取組紹介】**

『お茶会』1年を通して数回、地域のお茶の先生に来ていただき、お茶の作法を教えてくださいました。前日に自分達で机を出したり赤い毛氈を敷いたり、お茶会の準備をしました。当日は、挨拶の仕方やお菓子の食べ方、お茶の点て方、お茶の飲み方等、たくさん教わりました。「お茶、ちょっと苦かったけど全部飲めたよ」「おいしかった」と嬉しそうに話していました。回を重ねる毎にやり方もわかり、お茶を点てるのもさまになってきました。お茶の先生には、お茶を点てる作法だけでなく、挨拶の大切さなども教えていただき、子ども達も真剣な眼差しでお話を聞いていました。なかなか経験できない伝統文化に触れ、立ち振る舞いや礼儀の大切さなどを知るよい機会となりました。



『絵本の読み聞かせ』地域の民生児童委員の方が1年を通して定期的に「絵本の読みきかせ」に来てくださいました。季節にあった絵本や大型絵本など、毎回子ども達の興味がありそうな絵本を選んでお話を届けてくださいます。子ども達は「今日はどんなお話かな」と、ワクワクドキドキしながら当日を迎えています。子ども達はお話に興味をもち、もっと絵本が大好きになりました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍の1年で地域の方とふれあう機会も限られていましたが、その中で経験した1つ1つが大変貴重なものとなりました。また1年を通して地域の方に関わっていただくことで「民生さんだ」「○○さんだ」と、より親しみや感謝の気持ちをもったように思います。また、様々な取組を通して感動体験を味わい、豊かな感性につながっていると感じます。地域の方々が来てくださり、認めてもらったり褒めてもらったりすることで、自信や意欲にも繋がりました。

**【来年度に向けて】**

地域の方々の協力を頂きながらその中で、地域の方とのつながりを感じながら様々な感動体験ができるように、また子ども達が、地域の方に親しみの気持ちや感謝の気持ち、地域を大切に思う気持ちが育つように、取り組んでいきたいと思ひます。

**めざす子ども像****○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども****○感性豊かで、たくましく自立する子ども****○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****○共に汗して働くことのできる子ども****取組目標****地域に開かれたこども園をめざし、豊かな心とたくましい体を育む****【今年度の取組紹介】**

秋に山町地域環境保全協議会、そして地域の方にご協力いただき、芋掘りをしました。春に準備していただいていた畑に、4・5歳児60名の子どもたちはサツマイモの様子を見に出かけ、期待に胸を膨らませながら芋掘りの日を迎えることができました。当日は、ぬかるんだ畑の土に足を取るられ戸惑う子ども達でしたが、地域の方に掘り起こしていただいたり、「ここにもありそうだな」と一緒に掘り起こしたりと、小さなものから大きなものまで、たくさんのサツマイモを掘ることができました。11月にはそのサツマイモを使って焼き芋パーティをしました。芋を焼く準備をしていただき、子ども達は煙がもくもくと上がる様子に期待いっぱいに登園し、焼き立てのおいしさを味わう嬉しい体験ができました。また、畑の先生として地域の方に来ていただき、子ども達と畑づくりや種まき・苗植え、畑の世話の仕方を教わりながら、キュウリ・カボチャ・ブロッコリー・白菜など、季節の野菜を育てて収穫し、日々のちょっとした変化を水やりの世話等をしながら感じ、生長の喜びや収穫への期待、そして、食への意欲などにつながる豊かな心の育ちの経験となりました。

**【今年度のまとめ】**

地域の方々と共に継続して取り組んできたことによる子どもたちの見通しを持った期待や喜びがあるからこそ、水やりという当番活動での責任感や「昨日より葉っぱ出てきてる」「これ大きくなったらどんなふうにして食べたら美味しいと思う？」といった子ども達の姿や言動に繋がっていると感じています。菜園活動、環境整備、教育支援等、地域の方の様々な協力や支援なしでは経験できない体験を積み重ね、関わって活動することで、それぞれの活動での経験が相互に作用し、園の環境や子ども達の経験が豊かになっていることを子どもたちの姿から実感しています。

**【来年度に向けて】**

これまでの経験を活かして感染対策を行い、地域や保護者の方の協力を得ながら、子どもたちの学びや育ちにつながるような多様な経験と地域の方とのつながりを大切にしつつ、情報発信もすることでこども園の教育・保育への理解を更に深めていただき、地域に開かれたこども園として事業を進めていきたいと思っています。



**めざす子ども像****○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども****○感性豊かで、たくましく自立する子ども****○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****○共に汗して働くことのできる子ども****取組目標****・地域とのかかわりを通して、お互いを認め合い、****助け合い、思いやる心を育てる。****・地域の良さを生かした、豊かで多様な体験をしながら、生きる力の基礎を培う。****【今年度の取組紹介】**

高円こども園では今年度初めて行う事業として、東人権文化センターの陶芸教室で活動されている地域の方々と、「焼き物体験事業」を実施し、花器の製作をしました。初めて陶芸の粘土に触れ、教室の先生に粘土の伸ばし方から教えていただきました。「なんか、硬いなあ。」「もうちょっと大きくしたいなあ。」等と、粘土の感触を味わいながら形の変化を楽しみ、地域の方々と会話をしながら交流を深め、作業を進めることが出来ました。成形、素焼き、色付け、本焼き等の工程の変化をワクワクしながら楽しみ、自分だけのオリジナル花器作りに大喜びでした。その後、「生け花体験事業」を講師の方を招いて実施し、子ども達が自分で作った花器に花を生けました。花器作りから生け花まで、自分だけの表現が出来る貴重な体験となりました。

また、「菜園活動事業」では、畑の先生として講師を招いて夏野菜やさつまいも等の菜園活動を1年間継続して行いました。土の掘り方や植え方等を教わり、自分達で大切に植えた野菜苗に愛着を持って自ら水やりをし、野菜が生長していく変化の様子を収穫に期待を持ちながら楽しみました。収穫した野菜を調理員さんに調理してもらったり、おいもクッキングをしたりして食育に繋ぐこともできました。

「焼き物体験」「生け花体験」「菜園活動」等を通して、地域の方に親しみを感じ、感性を豊かにする経験を行うことが出来ました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍の影響があり、実施できなかった事業もありました。しかし、取り組み方の工夫をしながら実施した「焼き物体験」「生け花体験」「菜園活動」「和太鼓教室」「防災教室」等の活動を通し、地域の方々にご協力をいただきながら、実際に感動出来たからこそ、優しい気持ちや思いやりの心、考える力、みんなと一緒にするから楽しいと思える気持ち等、豊かな感性を育むことが出来たと思っています。

**【来年度に向けて】**

コロナ禍の中であっても取り組み方の工夫をし、今後も子ども達が地域の方との交流を深めながら、自分たちの住む地域に親しみを持ち、感性豊かなしなやかな心と身体を育む取組が出来るようにしていきたいと思っています。また、これらの活動を保護者や地域の方と共に進めながら、活動内容の充実をはかっていきたいと思っています。そしてこども園の教育・保育内容への理解を深めてもらい、開かれた地域のこども園になっていきたいと思っています。



**めざす子ども像****○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****○「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども****○感性豊かで、たくましく自立する子ども****○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****○共に汗して働くことのできる子ども****取組目標****○地域の教育力を生かした取組の中で、  
ひとりひとりの笑顔が輝き安心して園生活を送れるようにする。****【今年度の取組紹介】**

数年、継続している体力づくり事業「サッカー教室」は、地域に拠点を置かれている奈良クラブよりコーチを招きました。子どもたちがボールに親しめるように子どもの姿に合わせて段階的に遊びを進めてくださいました。体ほぐしから始まり、ボールに触れた遊びを十分楽しみ、心も体もほぐれた後は、チームに分かれミニゲームをしていただきました。子ども達は回を重ねるごとに思う存分体を動かすようになり、サッカー教室を心待ちにするようになりました。ミニゲームをする中で、友達同士切磋琢磨しながらボールを追いかけ、懸命にゴールを狙う姿が見られるようになりました。また、コーチにも親しみを持つようになり、笑顔で会話するようになり、積極的に質問する姿もみられるようになってきました。



サッカー教室の始めと終わりにはきちんと整列し、挨拶を交わしたり、ゲームの中では簡単なルールを守ったりしながら遊ぶなど、規律や規範意識の芽生えにもつながっています。

夢中で遊ぶ中で、達成感を感じサッカー教室だけで終わることなく日頃の遊びに取り入れ、参観ではサッカー遊びを取り入れ保護者に見てもらう姿がみられました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍で、昨年に引き続き例年通りの交流の形ではなかったのですが、人数を制限したり、時間を短縮したり、また密を避けた環境作りを工夫しながら、事業に取り組んでできました。地域の方からは子ども達が園で遊びや生活する姿を見ていただき、園教育を知ってもらう機会になりました。今後も地域の方を身近な存在と感じ、地域に開かれたこども園となるように地域の方と共に歩んでいきたいと思います。

**【来年度に向けて】**

コロナ禍であっても、地域の方の教育力を生かした取組ができるように、今年度の経験をもとに、事業に取り組んでいき、園・地域・家庭と連携し子どもにとって、より良い豊かな体験が出来るように検討して計画し進めていきたいです。

## めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを  
大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び、進んで  
実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

## 取組目標

地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

## 【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染症対策で例年通りとはいかない状況でしたが、「田原の子どもたちは、田原に住むすべての人で育てる」という考えに基づき、「交通安全立哨活動」「どんごが丘整美作業」、「田原ふれあい夢花壇」など児童生徒が安心・安全で心地よく学校教育に臨めるように、児童生徒とともに学習環境の整美に努めています。また、学習支援活動として、外国語の授業補助「外国語科授業支援」、放課後の学習支援「田原放課後学び舎教室」、地域に伝わる伝統文化の継承「祭文音頭の指導」等を行いました。



祭文音頭学習中

また、地域の方々と共に行う「田原合同大運動会」・「どんごが丘フェスティバル」は実施できませんでした。しかし文化鑑賞会や人権講演会などは、学校運営協議会・地域教育協議会の委員15名の授業参観という形で、短時間でしたが参加いただきました。昨年度より取組を始めたベンチプロジェクトにおいては、ベンチを地域の皆さんに活用していただくことについて、自治連合会会長にお越しいただきアドバイスを頂きました。



自治連合会長さんと記念写真

## 【今年度のまとめ】

田原は、豊かな自然や伝統文化を地域の努力によって現在にまで引き継いでいる地域です。これまで学校では「よく考え、よく学び、進んで実行できる児童生徒」「思いを伝えあい、人とのつながりを大切にする児童生徒」「ふるさとを愛し、誇りとする児童生徒」の育成を目標に、様々な活動に取り組んでいます。地域教育協議会では、人材の育成が大切であると考え、学校の教育活動を支援してきました。今年度は、テーマを定め、地域と学校がそれぞれの考えを共有できるように地域教育協議会で話し合ってきました。未来を生きる子どもたちに付けたい力を今後も共に考え、学校とともに「田原の教育」がさらに充実したものになるよう取り組みたいと考えています。

## 【来年度に向けて】

近年、田原地区では少子化・高齢過疎化が一層すすんでおり、学校においても、それにとまなう児童生徒数の著しい減少がみられますが、令和2年度から奈良市特認校制度により、田原小中学校に他校区の子どもが就学することができるようになりました。田原小中学校の特色ある取組を深めるとともに、内外にそのよさをアピールし、地域、学校がより魅力あるものになるよう、地域と学校が連携協働した事業の運営を進めていきます。

## めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを  
大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び、進んで  
実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

## 取組目標

地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、  
将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

## 【今年度の取組紹介】

田原小中学校では、施設一体型小中一貫教育校としての特性を生かし、前・中・後期の各ブロックの発達段階に応じた特色ある活動に取り組んでおり、児童生徒は上級生をモデルとすることで、自ずとブロックの中でリーダーとしての素養が育成されています。今年度も、新型コロナウイルス感染症により、多くの活動が中止されましたが、下級生たちは上級生を見てきちんと成長を遂げています。今年度は、キャリア教育にも取り組むことが出来ました。本校の起業家プログラムの「三種の神茶」のお茶づくり作業や、職場体験学習を実施しましたが、第5波の流行が深刻になり始め、予定していた活動が出来ず、校内で業務員さんの仕事や小学校の先生の仕事について学びました。また、今年度も「ベンチプロジェクト」に取り組みました。今年は卒業制作に限定せず、出来上がったベンチを地域の方々に利用していただく計画を進め、自治連合会長さんをお招きし、実施にむけてアドバイスを頂きました。これから後に、公民館のスペース、養護施設・福祉施設への設置や田原やま里市場へ置かせていただく予定をしています。



## 【今年度のまとめ】

学校では、「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」ことを学校教育目標に据え、教育活動を進めてきました。

これまで、地域と学校の間では、教育目標の実現に向けて多くの意見交流を重ねながら、活動支援にあたっていただきました。今年度は新型コロナウイルス感染症により地域の方々との活動が制限されましたが、やはり、大切なことは、学校と地域とのつながりを強化し、地域の学校教育への関心を一層高めることであると考えています。

## 【来年度に向けて】

今年度も、地域の方々のご協力によって、取組を進めることができました。一方で、今後の活動の継続に向けて、コーディネーターやボランティアスタッフの高齢化が問題となっています。また、学校・地域との交流を通して、少子化・高齢過疎化という学校・地域の抱える共通の課題解決に向けて、取り組む必要性について、改めて確認することができました。今後は、より多くの方々に積極的に関わってもらえるよう、事業内容の工夫や、参画・運営方法の改善を図るとともに、特に保護者世代への呼びかけを積極的にすすめることで、学校・地域の活性化につなげていきたいと考えます。



## めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び、進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

## 取組目標

地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

## 【今年度の取組紹介】

今年度は学校閉鎖期間もなく、例年の授業時数を無理なく実施できました。しかし、現在も収束の兆しがまだ見えないオミクロン株によるコロナ禍では、児童・生徒の感染数が大部分を占めることでボランティアに来てくださる方々が、躊躇されている現状があり、例年のように地域の方々とふれあいや合同作業を実施することは出来ませんでした。低学年の11月の花苗集会は、例年のように民生児童委員さんと一緒に実施できました。中学年では田植え・稲刈りともに行うことは出来ませんでした。お茶の学習を11月に実施しました。



中期ブロックにあたる6年生は、矢田原にお住まいの方に、案内していただきながら国見山登山を行いました。事前に登山道までのゴミ拾いや国見山の学習を続け、田原の魅力あるポイントにする取組を行いました。中学生のベンチプロジェクトに力を貸していただいている建具師さんに木材を準備して頂き、ハイキングに来られた方に分かりやすい表示板を作成し、設置する取組を始めました。次年度早々に設置のため登る予定です。



【今年度のまとめ】 田原地区は豊かな自然や伝統文化が地域の方々の努力で現在にまで引き継がれてきています。小学校は「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」そして、子どもたちが気付いた田原の魅力を発信する取組を様々な方の力を借りながら行っています。また、中学校と施設一体型の小中一貫教育校の特色を生かし、中学生の取組を参考に今、自分たちができることを考え、取り組んでいます。このことが地域を支える次の世代の人材育成につながると考えています。そのためには、地域と学校が連携協働して、子どもたちを見守り、地域とのつながりを大切に「ヒト・モノ・コト」のかかわりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組を進めることが大切であると考えます。

【来年度に向けて】 これまでの取組を継続し、充実した取組になるように改善を図っていきます。奈良市特認校制度により他校区の子どもが田原小中学校に就学しています。田原小中学校の特色ある取組を進めるとともに、内外にその魅力をアピールし、地域と学校が連携協働した事業の運営を行っていきます。



めざす子ども像

**郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども**

取組目標

**様々な体験活動や地域の方々との交流を通して、校区の自然・歴史・文化等の良さを知り、豊かな心と自主的に行動する力、コミュニケーション能力を育てる。****【今年度の取組紹介】****防災体験学習と防災講演会**

中学校区の園児から高齢者までが集う行事の「ふれあい広場」は今年もコロナ禍で中止となりました。そこで、昨年同様、各校園が「命」をテーマにした取組をおこないました。中でも最大のものが100人規模でおこなった防災の学習です。コーディネーターさんと中学生が半日行動を共にしました。体験学習は、東消防署の全面的な支援を受けて、地震体験、消火器体験、煙体験、火災を想定した119番通報体験ができました。講演会では、市の危機管理課の職員のみなさんから、山間にある校区の特徴を踏まえた防災対策を学びました。大人にも子どもにも、へだたりなく訪れる災害に対する対応を学ぶことができるとても有意義な活動となりました。

**【今年度のまとめ】****中学生と共に防災学習に参加して（地域の方々の感想）**

- ・生徒たちが、体がぶれる事もなく講演を真剣に聞いていてびっくりしました。
- ・地域の方が同じ学習をしたことで、地域の防災意識が高まったと思いました。
- ・防災が家族の話題になってよかったと思いました。
- ・生徒にとって初めての体験を共に過ごすことができてありがたかったです。
- ・現在、自然災害が多発しているので、とても良い機会に学習させて頂きました。

**防災学習に参加して（生徒の感想）**

- ・消火器の使い方がよくわからなかったので、体験できて良かったです。
- ・どうにかなるやろと思っていましたが、地震体験では何かにつかまらないうやばかったです。
- ・火災体験では、煙で前が真っ白で、まったく見えなかったです。
- ・「自助」が最優先という気持ちを忘れず、防災グッズを用意したいです。
- ・冷蔵庫が倒れないように道具を買ってみたいです。

**【来年度に向けて】**

来年度もコロナ禍が続く場合は、各校園が分散した取組が続く中で、中学校で実施した防災学習を小学校でも実施したいです。

コロナ禍が無くなっても、この2年間で各校園の状況が変わる中、昔のように全校園が準備に時間をかけて会場満杯に地域の方を集めることは難しくなっています。そんな制約の中でも全校園が一緒にできる催しを模索していきたいと思います。

めざす子ども像

## 郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

故郷を愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成

### 【今年度の取組紹介】

地域の伝統文化を学ぶ

初めて本校の校舎に入られた方々が一様に驚かれるのが、廊下に掛けられた大量の木刀です。「木刀を置いて危なくないのですか？」と尋ねられます。

本校では、自分たちの校区のすばらしい伝統文化を自身が体験することによって、郷土を愛し誇りを持つことができると考え、7年前に2つの中学校の統合以来、柳生中学校で行われていた伝統の木剣体操・日本剣道形、興東中学校でおこなわれていた伝統の大柳生太鼓踊りを、地域の方々のご指導のもと習得しています。

今年は夏から秋のコロナの拡大で、あいにく地域の人々に公開はできませんでしたが、3年間を通した活動を続けることができました。

このような活動を続けることで、本校はユネスコスクール参加校となっています。



### 【今年度のまとめ】

コロナ禍で地域のみなさまを学校にお招きできなかったもので、できる活動を着実にこないました。特に、夏休み前の浴衣の着付け教室は、地域の講師の先生のご尽力ですべての生徒の浴衣を用意して頂き、浴衣姿の集合写真はコロナ禍の貴重な思い出になりました。

また、年々人口減少が進む中でも校内の環境整備には例年以上に熱心に取り組んで頂きました。

### 【来年度に向けて】

少人数を生かした生徒ひとりひとりへのきめ細やかな取組が本校の特徴です。コロナ禍が続いたとしても地域人材を活かし、体験学習をより一層積極的に進めていきたいです。

また、生徒数に比べてアクセス数が多い本校のホームページを活用し、地域の方々や生徒たちに本事業の取組を伝えて、故郷を愛する気持ちを高めていきたいです。

めざす子ども像

## 郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

地域の特色を生かした体験的な活動を多く取り入れるなかで、「いきいき・わくわく・元気な柳生っ子」を育成する。

### 【今年度の取組紹介】

#### 1. 柳生の地域産業を学ぶ

3年生は地域の仕事を学ぶ学習を行っています。柳生は寒暖の差を上手く利用したお茶の産地でもあり、地域の方のご支援のおかげで茶工場などを毎年学ばせていただいています。茶畑を実際に見て、お話を聞くことで、柳生の地域を知ることができます。



#### 2. 地域の方が見守るマラソン大会

毎年1月に本校ではマラソン大会が行われ、校外の沿道には、地域のボランティアの方々が車などから安全を見守るために立ってくださり、大きな声援を送ってくださいました。子どもたちも保護者のみならず地域の方々に応援していただくことで、頑張れたと感想をたくさん書いてくれました。



### 【今年度のまとめ】

今年度も感染症防止対策が必要な中、地域の方々のご厚意により開催方法を工夫していただき、「お話の会」「まちたんけん」「柳生焼体験」「炭焼き体験」等、地域を知る充実した内容の体験学習、また地域の方々とのふれあいを大切にした学習活動を展開できました。学校評価アンケートから「学校は、地域と連携して特色ある教育活動を行っている」は保護者から高評価の結果が出ています。地域の方々からの声援が、マラソン大会の子どもたちの感想にも書かれていて、子どもたちと地域の方々がさらにつながっていることを感じさせられます。

### 【来年度に向けて】

来年度もいろいろな体験や学習を通して、地域の伝統や産業を学び、地域の方々とのふれあいを大切にすることで、自分の郷土に誇りを持ち、自分の夢をかなえようとする子どもを育てていきたいと考えます。コロナ禍で感染症対策等の工夫をしながらも、次年度も学校、地域の実情に合わせた取組を考え、地域の和が深められる有意義な取組にしたいと考えます。また、興東館柳生中学校区での連携も工夫しながらつながりを大切にできたらと思います。



めざす子ども像

## 郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実をはかる。

### 【今年度の取組紹介】

地域の方々との出会いを大切に、地域の教育力をお借りして、今年度も本校教育を推進しています。なかでも“もち米作り”は、米に関わる様々な体験を「つながり学ぶ」大切な学習事業となっています。子どもたちは、5月の田植えに始まり、10月の稲刈り、11月の粃摺りと色々な話を聞いたり、体験をしたりすることができました。更に今年度は12月のしめ縄づくり、1月の大とんどまで、年間を通して本当に地域の方々にお世話になりました。

本校にとってこの米作り体験は、「地域に学ぶ体験学習事業」の豊かな学びの軸となる取組です。

その他にも1・2年生の焼き芋体験、3・4年生の蜜蝋でのろうそく作り体験、白砂川でのニジマスの放流体験、絵手紙教室、また、6年生の校区歴史遺産学習として、運慶作の仏像等、国宝をもつ円成寺を訪問しています。新型コロナウイルス感染症防止のため実施することができていない行事もまだまだありますが、ここまでたくさんの活動が実施できたことは、地域の方々のご協力のたまものであると感謝しています。



### 【今年度のまとめ】

本年度も地域の方々の熱心な支援・協力のもと学校としての取組も順調に進めることができました。どの体験活動でも児童が生き生きと活動し、楽しそうにしている姿から本当に貴重な経験をさせていただいていると感じました。子どもたちにとって、体験活動が有意義なものであり、楽しかったことが学校評価アンケートにも結果として表れていました。また、地域の方々から色々な話を聞き、一緒に体験することで、地域の方々と子どものつながりがさらに深まっていると思います。

### 【来年度に向けて】

来年度も校区の歴史や伝統・産業を学び、先人の知恵や思いに触れ、いろいろな体験を通して感性を育てることで、自分の郷土を誇れる児童を育てていきたいと考えます。コロナ禍により、人と人の繋がりが薄れていってしまっている中、次年度も地域と連携・協働し、人と人とのふれあいから生まれる豊かな心を大切に、学校・地域の実情に合わせた取組を考えて、地域との絆をさらに強固たるものにしていきたいと思っています。



めざす子ども像

## 郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

自然や地域の人との関りを通して、豊かな心を育み、  
主体的に活動に取り組もうとする態度を育成する。

### 【今年度の取組紹介】



#### 【絵画活動】

大きな紙にみんなでのびのびと絵を描きました。木の周りには、一人一人の手型スタンプ。動物やお花などに見立てました。



#### 【お話の会】

楽しく、愉快的な先生のお話に子ども達は物語の世界に引き込まれていきました。



#### 【染物体験】

園で収穫した玉ねぎの皮をみんなでむきました。皮を煮出すとこんなにきれいな自然な色に染まり、大喜びでした。



#### 【英語であそぼう】

4、5歳児対象に身近な歌や色、体の部位などの英語を教わり、一緒に言ったり、体を使って遊んだりしました。

### 【今年度のまとめ】

・地域教育協議会に参画させていただき、中学校区内の学校および地域コーディネーターの方々のご理解とご協力をたくさんいただいたおかげで、この地域ならではの豊かな自然の恵みを活動の中にたくさん取り入れ、また、地域の方々にも講師として来ていただき、子ども達に幅広い豊かな体験活動を教えていただけたことで、興味・関心が深まり、心も体も豊かに成長している様子が子ども達の言動から実感しています。

### 【来年度に向けて】

・今年度同様に、地域の方々の教育力を取り入れ、地域と共に子ども達の成長を温かく見守りながら、心を育む感動体験を積み重ね、主体的に取り組もうとする態度や、たくましく生きる力を育むための保育内容の工夫や、校区内の小・中学校とさらに連携を深めていきながら、地域に根づいた教育施設として幼児教育の取組を実践していきたいと考えます。

めざす子ども像

**幼少中・地域の確かなつながりの中で  
自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

**協議会と学校の連絡を密にし、地域に発信していく取組をしながら、  
地域の方々と子どもたちが一緒に参画できる場の提供と企画をする。****【今年度の取組紹介】**

今年度も新型コロナウイルス感染症対策の影響で学校と地域がかかわる活動が制限されたなか、「学力支援」は可能な限り地域の方々に指導をお願いし開催できました。

「国語」「数学」「英語」と曜日を変えての支援でしたので開催数も少なく生徒たちもまちまちでしたが、子ども達はコロナ対策をとりながら、地域の方と会話をしながら学習に励んでいました。なかには、教科指導学習以外の事を聞きに来る生徒もいて、徐々に地域の方と話すことを恥ずかしがらなくなりました。

また、英会話(イングリッシュカフェ)は、カードを使つての会話でしたので、生徒たちは楽しんで会話をしていました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍といえども生徒たちの顔が見えるようになってきたことは、今年度というより、毎年同じことを続けていたことによるものだと感じます。

ただ、地域をあげての活動が出来なかったことや、学校に行く回数が少なかったことで、生徒の顔が見えなくなったことは残念でしたが、小学校への環境整備や、見守り活動で知り合った児童が、地域のみならず中学校に入ってから声をかけてくれることは、地域の皆さんの励ましになっているようです。

**【来年度に向けて】**

校区地域をあげての活動を出来るよう工夫することが大切と思っております。今までのフェスタにこだわらず、少人数でもできる、学校を使わない活動も考えて、生徒と共に企画・立案を考えていきたいと思ひます。

めざす子ども像

**幼少中・地域の確かなつながりの中で****自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

**地域を愛し、地域に誇りを持ち、自ら学び、考え、判断し手応えのある夢を持ち、たくましく生きるこどもの育成****【今年度の取組紹介】**

生徒自ら考え取り組む事業の一つとして生徒会が中心となり「花いっぱい笑顔いっぱい登美中〜プロジェクトチューリップ」を実施しました。全校生徒への呼びかけにより校内ボランティアとしてたくさんの生徒が集まり地域の方々に教わりながら、花いっぱいになる春の花壇をイメージしチューリップの球根を一つ一つ丁寧に植えました。入学式で校門をくぐり、色とりどりの花や笑顔に迎えられて登校した景色を後輩たちに見せてあげたいと優しく土をかぶせる姿がありました。地域の方々の温かいまなざしにつつまれ、子ども達の心に思いやりの花が咲く温かい事業です。また、学力向上プロジェクトとして、地域の方々を講師として招き、子どもたちのニーズに応じた学習指導に取り組みました。国語、数学、英語の3教科で学力の定着と子ども達の学びにむかう姿勢を育む機会となりました。わかった！できた！の達成感や学ぶ楽しさを経験し、自ら学び、考え、判断し、夢を見つけたくましく生きる力を身につけていく一つの機会となっています。

**【今年度のまとめ】**

毎月の広報紙の発行や校内放送での子ども達から全校生徒への呼びかけや報告、また学校ホームページへの掲載を通して、地域教育協議会の協力のもと行われている事業や取組の啓発を行いました。令和3年度学校評価アンケートにおいて、地域教育協議会の取組項目は、全校生徒の77%、保護者様85.7%（3年生保護者様100%）の認知度がでています。新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、計画通りにすべての事業を実施することができませんでしたが、制限ある中で最大限のご理解とご協力のもと、今年度も子ども達の教育活動の充実をはかることができました。自分のため、また人のために頑張ること、夢中になること、そこでできたつながりに子ども達のたくさんの笑顔がうまれたことが大きな成果であり、ご支援いただけただけことに感謝申し上げます。

**【来年度に向けて】**

子ども達の学習環境や体験活動の充実を図る事業計画を行い、地域の方々のご支援をいただきながらキャリア教育を視点とした取組や子ども達主体の取組を推進していきます。

めざす子ども像

**幼小中・地域の確かなつながりの中で****自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

**地域で子どもをはぐくみ、子どもで地域がつながる****～自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成～****【今年度の取組紹介】**

今年度も「地域で子どもをはぐくみ、子どもで地域がつながる」取組を継続しました。

1学期から、子ども達が、地域の方と共に植物を栽培・収穫する活動に取り組み、収穫した植物を活かして様々な作品・製品を作ることが出来ました。

1年生は、収穫したカモミールで、カモミール染めハンカチを作りました。

5年生は、校区の秋篠川でカラムシを採集し、奈良女子大学の先生にも指導して頂きながら、その繊維を取り出しました。

家庭科の調理実習やミシンを使う授業にも、地域の方々がお手伝いに来てくださり、子どもたち一人一人に寄り添って丁寧に手助けしていただきました。

特別支援学級での生活単元学習として、ろうけつ染めなど、さまざまな染物やステンシルを体験することができました。

また、今年度も、防災教育の一環として地域の方に講演・ご指導いただき、地域の方と触れ合い、つながりながら「守られる側から守る側への気づき」を体感し「今、自分たちが安心して毎日の生活を安全に送ることが出来ていること」に感謝することが出来ました。

地域の方々と、子ども達が共に活動することで、「子ども達が地域の中でしっかりと生活し、地域とのつながりを深める」という目標に近づいているという実感をさらに強く感じる事が出来た一年となりました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍ではありましたが、感染対策にも留意しながら、ボランティアの方々の熱心な関わりと子ども達への温かい心配りがあり、子ども達は、それらによって、ますます成長し、ふるさと鶴舞を思う気持ちが強くなっています。学校・家庭・地域が、お互いの役割や機能を十分理解し、連携・協働することで、これからも「確かなつながりの中で自ら考え未来を切り拓く子ども」の育成をめざしていきたいと考えています。

**【来年度に向けて】**

これまでの活動の蓄積を財産としながら、地域の方々と共に協働して活動を継続することで、「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」鶴舞を創りあげていきたいと考えています。共に歩んでくださっている保護者・地域・関係団体の皆様に、深く感謝しております。今後共、鶴舞の子どもたちへのご支援ご協力、宜しく願いいたします。



めざす子ども像

**幼小中・地域の確かなつながりの中で****自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

**児童が学び、考え、行動する****やさしくたくましい子どもの育成****【今年度の取組紹介】**

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、多くの活動を自粛せざるを得ませんでした。その中でも感染者が比較的少ない時期に地域の方と児童と共に環境整備事業として、校舎内にある雑草の刈り込み等を行うことができました。

1年生の「命の学習」は、講師の先生（医師）たちと連絡を密に取り合いながら、授業を行いました。例年体育館で行っていましたが、密にならない事を考えて各教室に分散して行うことにしました。

また、同じく1年生は地域の方に来ていただいて、昔遊びを教えていただく機会をもつことができました。コマ回しやあやとりなど、初めての子も多く、なかなかうまくいかないこともありましたが、地域の方と楽しそうに遊ぶ子どもの姿がたくさん見られました。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に左右されながらの活動となりました。できるだけ子どもたちと地域の方との交流ができるように、感染状況の比較的落ち着いている時期に実施しました。子どもたちは、地域の方との触れ合いに楽しそうに取り組んでいました。特に1年生は初めての小学校生活なので、学校生活が地域の方に支えられていることを知ることができました。

**【来年度に向けて】**

来年度も引き続きコロナ禍での活動が想定されますので、感染状況を見ながら、できるだけの活動を取り入れていきたいと思います。

めざす子ども像

## 幼少中・地域のつながりの中で自ら考え、 未来を切り拓く子ども

取組目標

子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施  
子どもが主体的に活動できる環境構成

### 【今年度の取組紹介】

#### 【地域とのつながり】

ゲストティーチャーを招いて、野菜やお花の栽培を体験することができました。昨年につきコロナ禍の中、地域の方の協力を得て、園で玉ねぎや花の苗のお店屋さんごっこを体験しました。おすすめのお花を説明し、お客さんを案内して品物を選んでもらえて、自信をつけることができました。

#### 【染色に挑戦】

ゲストティーチャーの指導をいただき、自分たちで蒔いて育てたカモミールを収穫し、染色に挑戦をしました。きれいなクリーム色にみんな大喜びでした。また作品展の飾りつけでおおきな横断幕となる素材も染色しました。看板的な作品の製作に子どもたち一人ひとりが自信に満ちた様子うかがえました。



### 【今年度のまとめ】

取組紹介のほかにも、地域の方々の支援を受け、子どもたちが初めて挑戦した栽培活動や染色活動を経験することにより、自然の物に興味を持ち、探求する心が育ってきました。またサッカーや英語で遊ぼう、わらべうた、また木工製作を体験させていただきました。これまで積み上げてきた取組をさらに充実させたことにより、子どもたちの興味・関心が引き出され、自ら学ぼうとする意欲や心情、態度がさらに育ってきました。

### 【来年度に向けて】

コロナ禍の中で昨年に引き続き幼小の連携ができなかったため、地域の方のご協力を得て、幼小連携の取組の強化とともに、地域の方々と交流していきます。また、広い園庭で体力づくりにも取り組み、園庭での遊びの中で、子どもたちが自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成を目指します。

めざす子ども像

**確かなつながりの中で****自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標

「地域を守る人づくり」を目指し、学校・保護者・地域各種団体の連携をより一層促し、子どもたちの地域に関する「人、事、物」の様々な体験の取組を充実する。

## 【今年度の取組紹介】

## 『図書メディアセンター引越物語』

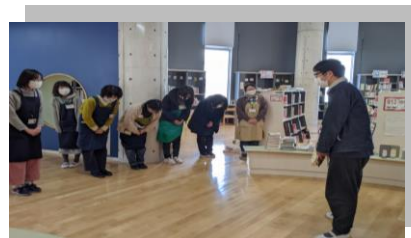
新校舎に小中共用の『図書メディアセンター』が完成しました。

3校合わせて2万冊あまりの本の選定、引越し作業が多くの人々の力を結集して行われました。奈良市立図書館の方々に指導いただき、図書ボランティアが図書冊子の箱詰め、ラベルの貼替え、ブックカバーをつける作業などががんばりました。

膨大な冊子は10数名の司書が4週間にわたり集中して配架作業を行い、データ移行、掲示を完了しました。図書委員会の生徒達はじめ、地域の“力”を結集し、『図書メディアセンター』はスタートラインに立ちました。関わったボランティアも自慢したくなる素敵な空間が誕生しました。生徒児童はもちろん、地域の方々も利用でき、ボランティアも楽しく活動できる場に育てましょう。



司書とボランティアの作業



司書とボランティアに図書委員会よりお礼

## 【今年度のまとめ】

- ・新型コロナウイルス感染対策の影響で予定通りに実施できない計画がありました。
- ・地域ボランティアの登録参加は維持され、地道な活動が必要に応じ継続されました。
- ・新小中一貫校開校準備のため、様々な会合や作業に協力体制をとりました。
- ・防災教育事業のイベントは中止となりましたが広報事業に力点を置き、新小中一貫校の紹介を様々な視点で子どもたち・地域・保護者に伝えることを試みました。

## 【来年度に向けて】

- ・地域の様々な世代に適応した広報活動のためにホームページを立ち上げ、広報紙も適時発行します。
- ・コーディネーター間の連絡・会話を密に、役割や作業分担を明確にし、活動能力を向上させます。
- ・子どもたちが発するメッセージを引き出すために、子どもたち、教職員、保護者からアンケートや生徒会、児童会と話す機会を持ち、子どもたちの力が発揮できる場を企画します。

めざす子ども像

## 確かなつながりの中で

### 自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標

平城西中学校ラストイヤーとなり、地域の多くの方々との出会いやつながりをもつことによって、西中のこれまでとこれからをともに考え、よき伝統は守りつつ、子どもたちの心や夢を育む豊かな学びの場となるようにする。

#### 【今年度の取組紹介】

##### ○平城西中校区落ち葉清掃

普段お世話になっている地域をきれいにするため、校区のすべての学校園で日程調整し、分担して落ち葉清掃を行いました。中学校は生徒会が地域と協働で案内掲示を



作成し、参加呼びかけを行いました。去年は計画を進めていたもののコロナウイルス感染症の影響で、間際で中止になりました。今年度は当日の朝はかなり冷え込んでいましたが、西中だけでも生徒と地域住民合わせて総勢90名ほどが参加しました。神功地域全体の参加者は延べ200名を超えました。力と根気のいる溝掃除など丁寧に取り組んでいた中学生に、地域の方が感謝の声をかける場面もあり、この活動を通して地域の一員としての意識を深めることができたと思われます。

##### ○図書メディアセンター開室

1学期の半ばから市の図書館司書を中心に地域の図書ボランティアが集結し、平城西中学校の図書室の引越作業を行いました。2学期の集中整備を終え、子どもたちが自然と本を手に取りたくなるような素敵な図書メディアセンターが誕生しました。

#### 【今年度のまとめ】

本校では落ち葉清掃など今まで継続して実践してきた取組に加え、平城西中学校のファイナルイヤーとして、今年度ならではの閉校に向けた取組を平行して進めてきました。図書メディアセンターの開設や閉校記念誌の作成など、地域のさまざまな経験を持つ方にご参集いただき、学校と共に子どもの学びを糧かにする取組を進めていただきました。無事に最終年度を乗り切ることができました。これほど地域の力に感謝した年は無いと言っていいほどでした。

#### 【来年度に向けて】

来年度も施設一体型小中一貫校開校で変化の激しい一年になることは間違いありませんが、これまで育んできた地域との協働体制を生かし、地域の様々な人材に学校の授業にも入っていただく方向で協議を進めています。学校が地域活性化のセンター的な場となるよう、取り組んでいきたいです。



めざす子ども像

**確かなつながりの中で**

**自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標

**地域への意識を高め、地域活動に積極的に参加する児童を育てる。**

### 【今年度の取組紹介】

○草引きウィーク（10月4日～8日）図書室ウィーク（12月6日～10日）

保護者・地域の方・本校教職員が協働で作業を行いました。

草引きウィークでは、80名ほどが右京小学校の運動場に集まってくださいました。草引きを中心に清掃活動をしていただいたおかげで、安全な場所で体育等の実施をすることができました。

図書室ウィークでは、30名ほどが集まって、ならやま小中学校に開設する図書メディアセンターに持っていく本の整理等を行っていただきました。



○防災体験学習



北消防署の協力を得ながら、平城西中学校区として、各学年の発達段階に応じた系統的な学習を進めています。また、教職員についても校内研修として放水訓練を実施し防災意識を高めています。

毎年行うことによって、児童の防災や地域の一員であることの意識が高まり、地域で行われる防災訓練への参加にもつながっています。

### 【今年度のまとめ】

○新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、予定していた事業をすべて実施することができませんでしたが、事業によっては内容や方法を変更し実施したところ、多くの地域ボランティアの方や保護者の協力を得ることができました。

○消防署の協力も得て、各学年で系統的に取り組んでいる防災学習や地域の防災訓練への児童の積極的な参加等を通じて、防災や地域の一員であることの意識をより一層高めることができました。

○環境ボランティアや図書ボランティアをはじめとする地域の方々の学校支援等は、学校力を高める大きな一助となっています。

### 【来年度に向けて】

○ならやま小中学校として、地域・家庭・学校のつながりを深める取組を進め、子どもたちには自分の住んでいる町の魅力について、より知ってもらいたいと考えています。

めざす子ども像

**確かなつながりの中で****自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標 地域と共に心を耕し、夢を育む神功の子 ～学びの場をともに豊かに！～

## 【今年度の取組紹介】

## ●おはなしかい

例年1・2年生の各学級で、読み聞かせボランティア「おはなしかい」のみなさんによる「おはなしかい」を月に1回行っています。今年度はそれに加え、3～6年生の各学級でも、朝の学習の時間に「おはなしかい」を行いました。高学年の子どもたちもお話の世界に入り込んで、聴き入っていました。図書室の利用制限により読書の機会が限られる中で、子どもたちの心を耕す貴重な機会となりました。



## ●花の苗植え

例年12月頃に5・6年生の栽培・飼育委員の児童がチューリップの球根やパンジーなどの苗を植え付けていますが、今年度は園芸ボランティアのみなさんに植え方を教えていただきながら、児童とボランティアと一緒に植え付けを行いました。教えていただくことで、例年よりも上手に植えることができ、子どもたちは花が咲くのを楽しみにして、毎日水やりを行っています。



## ●校外学習の引率ボランティア

1・2年生の「まちたんけん」、3年生の「校区たんけん」と「消防署見学」など、本校区やその周辺を歩いて学習する際に、毎回数名の方に参加してもらいました。移動時の安全を見守っていただき、子どもたちと共感・感動しながら活動に参加していただきました。

## 【今年度のまとめ】

今年度も新型コロナウイルスの流行により活動に大きな制限が加わり、活動回数が少なくなったり、活動の在り方の見直しを行ったりしました。それにより、地域の方々やゲストティーチャーと子どもたちの関わりの中から生まれる「豊かな体験・学びの場」の尊さに、改めて気づかされました。また、コロナ禍ではありますが、感染防止対策を徹底し実施方法を工夫することで、活動によっては実施を継続できることがわかりました。

## 【来年度に向けて】

今年度で神功小学校運営委員会は閉会となりますが、これまで蓄積してきた取組のよさを引き継ぎ、新しいならやま小中学校でも取り組んでいきたいと思っています。

めざす子ども像

**確かなつながりの中で****自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標

**地域の方とのつながりを感じながら  
子どもたちの遊びや生活の刺激となるような事業の充実****【今年度の取組紹介】**

## ○ 教育支援事業（栽培活動）

3歳児が地域の方とともにプランターにパンジーの花を植えました。3歳児の子どもたちにとって苗植えは初めての経験で、苗ポットから苗を取り出そうとしてもなかなかうまく取り出すことができませんでした。それに気づいた地域の方から「こうするんだよ」と苗の取り出し方を教えてもらい、自分でできるようになると「やった、できた」と喜ぶ姿が見られました。「どこに植えようかな」「私は、このお花が好き」と地域の方と話をしながら、苗を全て植え終えました。次は、プランターを運ぶ作業です。「どこに持っていく」「あそこがいいね」と友達と一緒に運ぶ姿を地域の方に「すごいね」「力もちだね」と認められ、より一層はりきる子どもたちでした。

次の日から登園すると、「お水あげよう」と毎日、自分たちで植えた花に水やりをし、生長を楽しみにする姿が見られました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍のため、できるだけ戸外での活動を重視し、計画・実施しました。特に地域の方とともに行う栽培活動や環境整備活動では、地域の方と一緒に活動するなかで親しみをもつようになり、自分から挨拶したりお礼を言ったりする姿が見られました。また、地域の方から「すごいね」「ありがとう」など受容されることで、より意欲的に活動するようになり、このような継続した活動を通して地域の人とのつながりを感じる機会になりました。

**【来年度に向けて】**

コロナ禍でも地域の教育力を活かした教育・保育内容を工夫しながら進めていきたいと思っています。そして子どもたちが地域とつながり、見守られている安心感を味わうことができるようにしていきたいです。



めざす子ども像

**確かなつながりの中で****自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標

地域の方との関りを通して、自然の面白さや美しさを感じたり、  
身近な人に親しみ「やりたい！やってみよう！」と思う意欲を育んでいく

## 【今年度の取組紹介】

## ☆おはなしの会

今年度も新型コロナウイルス感染対策を行いながら“右京おはなしの会”を開催しました。年間を通して8回を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、5回の開催となりました。開催するにあたっては開催時間を短くして消毒を行いながら歳児級ごとに会を進めました。また、距離や間隔をあけて開催する際は対策を講じながら行いました。子どもたちにとって、あたたかい空気間のなか、子どもたちの歳児級に合わせた内容で行っていただきました。また、季節に合わせた内容のお話や歌もあり子どもたちは、おはなしの会の世界に引き込まれていました。



## ☆運動あそび

社会環境や生活様式の変化から現代の幼児は身体を動かして遊ぶ機会が減少しているということを踏まえ、今年度も、体操講師による運動あそびを5回開催しました。サーキット遊びやのドッチボールなど楽しく体を動かす遊びを通して基礎的な体力や身体能力を発達させ、様々な活動への意欲につなげる機会となりました。



## ☆野菜の苗植え・収穫



地域ボランティアの方に来ていただき、3、4、5歳児の園児とサツマイモの収穫を行いました。掘方を教えてもらいながら、地域の方々との交流を深める機会となりました。また、収穫した芋は園庭で地域の方とサツマイモパーティを行いました。玉葱の苗植えも行いました。



## ☆おもちゃ棚作り

## 【今年度のまとめ】

今年も地域の方との関わりの中で、園の教育保育活動では経験できない体験や交流をさせていただくことが出来ました。コロナ禍の為、予定していたことが中止になるなどもありましたが、地域の方々と連絡を取りながら、当初計画していた活動全ては行えませんでした。子どもたちと職員とも交流を深めながら楽しんで取り組むことが出来ました。野菜の育ち方について相談に乗ってもらったり、子どもたちとも交流を深めたりする中で、子どもたちの発表会に来てもらうことで子どもたちにとっても地域の方々を身近に感じることができました。地域の方々の温かいまなざしとご理解・ご協力により実現できたことに深く感謝しております。

## 【来年度に向けて】

コロナ禍の為、思うように進まなかった部分もある絵本の補修や整理、野菜栽培活動を地域の方々と取り組みたいと思います。そしてその場所が子どもたちと地域の方にとって集いの場となり、より一層交流が深められたらと考えています。その他にも、子どもたちの心を豊かに育むために、保護者会や地域の方々と共に話し合う中で子どもたちが楽しめるイベント等も開催し、より一層地域に根ざしたこども園にしていきたいと思っています。



めざす子ども像

## 人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

多様な世代の地域住民の絆が繋がっていくようにする。  
安心でのびのびと自分を発揮できる環境をつくる。  
地域で顔が見え、声を掛け合える地域を目指し、それぞれの防犯防災の意識を高める。次世代を担う若者を育む環境をつくる。

### 【今年度の取組紹介】

今まで開催してきた「さわやかクリーンディ」を中学生徒会で名称を募集し、名称改め「さわやかフェス 2021」を、12月11日（土）開催しました。

公民館・地域の自主防・大学生の協力を得て、参加者に非日常時の体験をしてもらいました。小学生と中学生がチームになってワークショップを体験し、別の中学生はスタッフとして参加し体験内容説明をするなど、例年と違って小規模な開催でしたが、それぞれ工夫してとても充実したものとなりました。



防災食



防災工作



火おこし



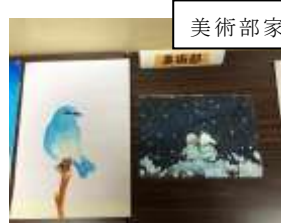
テント張り



ボードゲーム



吹奏楽



美術部家庭科部展



### 【今年度のまとめ】

「どのような形ならコロナ禍で体験を開催する事ができるか」と、開催にあたり二名公民館・二名地区、青和地区の自主防犯防災協議会（自主防）・地域教育協議会がコロナ感染対策をしながら話し合いを重ねました。

今年は両地区の自主防の協力もあって、「火おこし」「テントたて」「ボードゲーム」など、それぞれができることを子ども達に体験してもらおうとワークショップ形式での開催と決まりました。

参加者からは「非日常体験ができておもしろかった。」「中学生のお兄さんお姉さんと仲良くなれた。」「はじめての体験は難しかった。」、スタッフからは「中学生が頑張ってくれた。」「体験時間が短かった。」「地域の方から学ぶ事がたくさんあった。」等多くの声がありました。

### 【来年度に向けて】

今年度の経験を基にして、来年も公民館・各自主防や生徒会との協働開催、参加者やスタッフの声を反映させて参加人数を増やしての開催ができるよう考えていきたいです。

めざす子ども像

## 人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

**取組目標** 多様な価値観と接する中で、自主的に行動し、地域に誇りを持ち、貢献できる生徒を育てる。仲間と積極的に学び高め合い、豊かな感性で、自分の思いを伝え、社会で自律的に生きることができる人材を育てる。

### 【今年度の取組紹介】

令和3年7月に2年生、12月に1年生が、地域やPTAの方々と共に花植えを行いました。7月の2年生はマリーゴールドを、12月の1年生はパンジーを植えました。コロナ禍でしたが、感染対策をしっかり行いできるだけ多くの地域の方々やPTAの方々にご協力いただきました。生徒を思っ  
てくださる多くの地域の方々の思いが伝わり、生徒たちにとって心に残る笑顔あふれる1日になりました。自分のプランターにはメッセージカードも添え、花植え後も水やりや観察を続け、愛情を持ってお花の世話をしました。情操教育にも繋がる取組をすることができました。来年度も引き続きこの取組を行いたいと思っています。



今年度は、読書活動推進事業も積極的に行うことが出来ました。地域図書ボランティアの方々と図書委員会のメンバーにより図書室の環境整備が大きく進みました。本の整理の仕方や陳列の仕方等も教えていただきました。昼休みの開館を昼休みにする取組をスタートしたことで、地域図書ボランティアの方々から教わる機会も増えました。多くの生徒が図書室を訪れるようになり、読書に親しむ環境を整えることが出来ました。来年度も更に取組を深めていきたいと思っています。



### 【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、与えられた環境で何ができるかを全力で考え知恵を出し合った1年でした。協力連携を通し、学校と地域の絆がより強まったと感じています。

地域の方々と共に行った花植え、図書室の環境整備と整理、図書室開館の工夫、防災食作り体験など、事業前の消毒・手洗いの徹底等のコロナウイルス感染防止対策に関して計画を立てて取り組めたことは、二名中学校区にとっておおきな自信となりました。地域の方々や学校の思いは、生徒たちにも伝わったと思います。

お世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

### 【来年度に向けて】

現在の新型コロナウイルス感染拡大防止対策と並行していかに行事を行っていくのか、これまでの本校の地域の方々と共に作りあげた良き伝統をどのように継承していくのか等、課題はあると思います。これからも、今年のような地域の方々と協力連携し乗り越えていきたいと思っています。

来年度もどうぞよろしくお願い致します。

めざす子ども像

## 人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる子どもを育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・校内における子どもたちによる「あいさつ運動」を始め、登下校時、地域の方々や元気にあいさつを交わすことで地域との関係を深めるとともに、自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

### 【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、どのように活動を実施すればよいか、地域コーディネーターとともに検討を重ねました。そして、児童や関わっていただく方々の安全を第一に活動を進めました。

教育支援事業として、家庭科等実技教科の学習支援に入っていただきました。きめ細かな支援をいただき、子どもたちは安心して活動することができました。

また、図書環境事業として、図書修復や図書室環境を整備していただきました。子どもたちの読書活動が推進し、言語力育成につながりました。

「できることを できるひとが できるやりかたで」という支援が広まり、持続可能な活動への見直しが進みました。



### 【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、活動することで、子どもも大人もこの地域での存在意識を感じることができました。学校と地域が協働して、「本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。」という目標に向けて、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有でき、今後に向けての方向性が見えてきました。

### 【来年度に向けて】

学校と地域がねらいを共有し、協働して、本校の「目指す子ども像」「取組目標」を具現化できるように努めたいと思います。状況に応じた内容や取り組み方の改善を図って、継続可能な事業の展開をめざします。



めざす子ども像

## 人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

見守り等に感謝する心を育て、自尊感情・地域への愛着を醸成する  
地域の人と関わる活動を通して、様々な人との関わり方を学ぶ  
環境整備を通して、活動の意義や自分のできることに気づき、行動する

### 【今年度の取組紹介】

#### □コロナ禍における地域と共に行う活動

二名小学校では、地域ボランティアの方に教育活動を支えていただいたり、多くの学年で地域人材をお迎えしての授業を行ったりしています。今年度も人と直接接する機会は制限されましたが、感染対策に留意しながら「どんぐり工作」の教室や「声楽出前授業」などを行うことができました。

#### □地域の方と共に行う活動

環境整備事業の一環として、花いっぱい運動として、地域の方と共に花の苗を植えました。地域の方とのつながりをスタートとして、児童が継続的に世話をするといい形で地域とのつながりを感じる活動となっています。

#### □図書ボランティア「としょぼ」の活動の工夫

「としょぼ」は、年間を通じて図書館の環境を整えたり読み聞かせをしたりしてくださっています。児童と共に活動したかったのですが、新型コロナウイルス感染症に配慮し、環境整備については、児童のいない放課後や長期休業中に行い、毎日の活動は図書委員が引き継ぎ図書室をきれいに保っています。読み聞かせ活動を通していろいろな本との出会いを提供していただきましたが、昨今のコロナ禍でできませんでした。かわりに読み聞かせの動画を複数回撮影し、朝の時間内にテレビを通して各教室で放映する活動を実施しました。



左：声楽出前授業

右：読み聞かせ動画の視聴

### 【今年度のまとめ】

これまで、地域の方と共に活動することを大切にしてきましたが、今年度もコロナ禍で、多くができなくなっていました。しかし、約2年間のコロナ禍の中で、「コロナ禍であってもできること」や「コロナ禍に対応した方法」を考え、取組を前に進めることができました。

### 【来年度に向けて】

来年度もコロナに対応した運営方法を念頭に置いて、事業を進めてまいります。オンラインや三密をさけた形での事業の実施を考え、子どもたちや地域の方々が安心して活動ができるようにしていきます。



めざす子ども像

## 人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・日本の伝統文化や世界遺産に触れ、  
地域を知り身近に感じることができるような関わり。
- ・地域の方と触れ合い、未就園児・小学校・中学校との交流を通して、  
コミュニケーション力の育成を目指す。

### 【今年度の取組紹介】

(ミュージックケアを楽しもう)

ゲストティーチャー（音楽療法士）を迎え、子どもたちと地域の方と一緒に音楽を聴きながら、体を動かしたり、鈴・鳴子・ハンドベルなどの楽器やスカーフを使ってリズムを合わせたりして、みんなで一体感を味わいました。子どもたちも地域の方も心を開放して楽しく取り組むことができました。



(お茶会)

講師の先生から、作法やお茶の点て方を教えていただきました。いつもと違う静かな雰囲気の中、緊張しながらも自分で点てたお茶は格別なようで「美味しかったよ」と感想が出ていました。お茶会の雰囲気を味わい、日本の伝統文化に触れる貴重な体験になりました。



### 【今年度のまとめ】

- ・コロナ禍の中で感染症拡大防止対策を講じながらも、地域の方々や保護者に協力していただき、一緒に園内の環境整備を行うなど様々な体験をすることができ、活動の意義を再確認しました。子どもたちは地域の方々へ親しみを感じ、感謝の気持ちを持つことができました。
- ・体力向上事業（サッカーで遊ぼう）では、体を動かして遊ぶ楽しさや、最後まであきらめずに取り組むことの大切さを知りました。様々な活動を通し、継続することで楽しさが増し「もっとやってみたい」と意欲が生まれ自信につながりました。

### 【来年度に向けて】

園児が減少していく中ですが、地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、地域の方々や保護者の協力をいただきながら継続して事業を進めていきたいと思っています。

また、各取組で学んだことや感動体験を、日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと思っています。

めざす子ども像

## 人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域の中で生きぬく子どもの育成

### 【今年度の取組紹介】

#### 《体験活動事業「地域探検」》

自分たちの地域を知り、親しみがもてるように、5歳児が「地域探検」を行いました。当日、自分たちでつくった探検カード“さがしてみよう”を持って地域に出発しました。道中、探検カードを見ながら「この道知ってる。」「曲がるんだね。」「中学校や。」と友達と嬉しそうに見つけたものを教え合ったり、チェックポイントでは、シールを貼ったりして楽しみました。お米作りを教えてもらっている“お米の先生”に出会いトラクターを見せてもらったり、園児の祖父母や地域の人に出会って挨拶を交わしたり、「気をつけてね。」と横断歩道で見守っていただいたり、素敵な出会いがたくさんありました。園に戻り、担任が作った写真入りの大きな地図を見て、友達と楽しく振り返ることで、自分達の住んでいる地域に興味をもち、親しみをもつ体験となりました。降園時には、大きな地図を貼り出し、子ども達の様子を保護者に伝えることで、保護者も「楽しそう。」「今度子どもと行ってみます。」と地域に興味をもたれる機会となりました。



#### 《体験活動事業「英語で遊ぼう」》

地域の方をゲストティーチャーに招き、「英語で遊ぼう」を行いました。先生の元気な挨拶に子ども達も笑顔になり、英語の歌やダンスを教えていただき、全身を使いながら進んで英語を話そうとするようになりました。2月の参観では、教えていただいた英語の歌や英語で自己紹介をする姿に、お家の人から驚きの声が聞かれました。



### 【今年度のまとめ】

毎年活動を積み重ねることで、保護者の方々にも周知でき、地域で大事に受け継がれている「柿渋染め」を楽しみにされたり、お米作りの成長や収穫を親子で心待ちにされたりするようになりました。また、子ども達の一年の生活の流れの中に位置づけてきたことで地域の方々とのつながりが深まり、ネットワークが広がりました。コロナ禍ではありましたが、活動の様子を掲示物やホームページ、クラスだよりなどを活用して啓発したことで園評価アンケートでは、95%以上の方から次年度以降も継続してほしいとの回答をいただくことができました。

### 【来年度に向けて】

地域の方々のご支援やご協力を得ながら連携を図り、子ども達が地域を知り、地域の方と親しみ、温かさや安心感をもてるような活動を積み重ねていきたいです。そして、子どもも保護者も住んでいる地域を知り親しみ、大切にしていこうという気持ちをもち続けてほしいです。

めざす子ども像

『自らのまちに誇りをもって、

自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

～守ろう地域のたから 育てよう故郷を愛する子どもたち～

【今年度の取組紹介】

【図書ボランティア活動】

限られた時間の中ではありましたが本の読み聞かせや英語カードの作成など幅広い活動を展開しました。

【広報紙「京チュン通信」(2回/年発行)】

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2回の発行に縮小しました。地域で決める学校予算事業や放課後子ども教室推進事業の内容を、多くのひとに知ってもらい理解してもらうための「京チュン通信」は、多くのコーディネーターが関わって写真や原稿を準備して作り上げています。

【シカに地域どんぐり届けよう!どんぐりプロジェクト】

京チュン通信を通して、地域住民にプロジェクトの輪が広まり、361 kg (去年は 50 kg) のどんぐりを回収でき、奈良の鹿愛護会に届けることができました。



【今年度のまとめ】

- ・学校担当司書のサポートをする図書ボランティアがいることで、学校図書室が子どもたちの居場所となり、地域人材を学校教育の一助にすることを継続できました。
- ・「京チュン通信」は子どもたちや地域の皆さんにも好評で発行を心待ちにする人が増えています。
- ・コロナ禍の後の新しい時代を見据えながら活動の輪を広げ、効率的な取組の方法を模索していきたいです。

【来年度に向けて】

- ・来年度も地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちを育成する活動を推進します。
- ・『継続は力なり』をモットーに粘り強く取り組んでいきたいです。
- ・「史跡散策」「授業支援」「京チュン通信の発行」などの活動を地道に取り組み、ボランティアの輪を広げ、サポートが必要な場面で必要な支援ができる組織を目指します。

めざす子ども像

## 『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

学校を美しく ころを豊かに 挨拶が響き合い

互いの思いを語り合える学校に

### 【今年度の取組紹介】

○今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の方々と協働して行う活動は大幅に中止せざるを得ませんでした。例年、地域の方々と協働して取り組んでいる、「京中オープンスクール」、「国際交流事業」「ふれあい作業」「花いっぱい運動」は中止となりました。

○学習支援活動として、福祉体験の講師、または補助として取組に参加いただきました。また、地域の図書ボランティアによって昼休みの図書室の開館や環境整備等の取組に参加していただきました。

少ない機会ではありましたが、生徒たちは終始、地域の方と共に熱心に活動する様子が見られ、地域の一員である自覚が芽生えてきているように感じました。



### 【今年度のまとめ】

○多くの事業が定着し、生徒や地域にも受け入れられています。

地域の皆さんが温かく見守ってくださり、時には一緒に活動して、生徒たちに積極的に関わりをもってくださいすることで、生徒一人ひとりの心の中に学校愛や地域愛が生まれ、自らの地域、まちを誇れる生徒の育成につながっていると思います。また心にゆとりが生まれ、挨拶がしっかりできる生徒がますます増えてきて、まちでは朝から元気な声が響き、地域の方々との交流の機会となっています。

### 【来年度に向けて】

○感染症対策に工夫を凝らすなどし、今年度以上に、地域の方との協働による事業を推進していきたいと思います。

○今年度は限定的な取組が多かった中、各取組が、生徒・保護者・地域の皆さんに深く浸透していることがうかがえます。

○マンネリの活動にならないように工夫行くとともに、地域の方々が参加してよかったと思っていただけの活動方法をさらに模索していきたいと思います。



めざす子ども像

## 『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

命こそ宝、地域が宝。コロナに負けない宝を活かそう！

### 【今年度の取組紹介】

・新型コロナウイルス感染による感染拡大予防措置を取りながら、ボランティアの皆さんが子ども達の学習活動を支えてきました。

#### ① 図書ボランティア（としょぼん）による活動

- 掲示物作成
- 新書のブックカバー作業
- 本の整理
- としょぼん通信の発行
- 書架の作成 等



#### ② 学習支援

- 福祉体験の補助
- オンライン読み聞かせ
- 七夕飾りの補助 等



### 【今年度のまとめ】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により当初の活動計画の変更を余儀なくされましたが、感染状況を見ながらできることを地域と共に考え、再開できた活動もありました。

### 【来年度に向けて】

- ・保護者・地域にも活動取組を紹介することで、学校にいなくても活動がわかるように発信していきます。
- ・感染予防対策をしながら、「できる事を できる時に できる形で」地域の方と共に前進していきます。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、自らのまちを語れる子ども

取組目標

ともに学び、ともに歩み、豊かな人権感覚を熟成する学校  
～子どもたちの瞳輝く「ふしなんプロジェクト」の創造～

## 【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた取組をなかなか思い通りに進めることができませんでした。人と人ができるだけ交わらないように工夫しながら、極力取りやめにならないようにして実施しました。地域行事として伝統文化を学ぶ「天の川の集い」「しめ縄づくり」「干し柿作り」「とんどの集い」は、コロナ禍ではありましたが、工夫をして実施しました。地域の方と昔からの伝統行事を体験したり、地域の方とのふれあいを楽しんだりする良い機会は少なくなりました。また、コロナ禍ではありましたが、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、薬物乱用防止教室をリモート授業で開催しました。

そのような中で地域の方に、見守り活動や図書室の整備、花いっぱい運動、清掃活動の環境整備に努めていただきました。

毎週、図書ボランティアと図書館司書によるブックカバー貼りや図書室の環境整備、図書コーナーの設置、読み聞かせなど子どもたちが本に親しむ場を作ってください、読書をすることが楽しいと感じる子どもが増えました。



## 【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の方との交流を目的とした体験的な活動が計画通りに進めないながらも、地域の方や地域 CN の方々が中心になって、それぞれの行事をあきらめることなく、工夫をした学習環境づくりを通して子ども達の道徳的実践力を養い、自己肯定感を高めることができました。

## 【来年度に向けて】

新しい学校様式の一つとして、本年度、コロナ禍で培った、リモートによる児童への学習場面の設定、事前の映像制作による学習場面の設定をさらにステップアップさせ、子どもたちの学びを深める体験活動や環境整備を中心に取組を進めていきたいと考えています。地域の方が学校教育に参画していただけるような学習場面を設定し、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして参加していただけるような年間計画の作成を行うとともに、新たな人材発掘をしていきます。

めざす子ども像

## 『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

こころとからだで感じ、意欲的に遊び、たくましく生きる子ども

### 【今年度の取組紹介】

○六条幼稚園では長年、園で栽培した菜の花から採取した菜種油を世界遺産の「薬師寺・唐招提寺・元興寺」に奉納している経緯があります。進級・入園した子どもたちは、多くの地域の方に学び、助けていただきながら秋に種を播き、春に満開の菜の花に見守られ、刈り取りや压榨まで、菜の花が油かすや灯明用の



菜種油になる体験をし、ESD（循環型学習）を学ぶことができました。同時に園舎から望む薬師寺東塔や西塔を原風景とし、古くから大切にされてきた文化を誇りに思う気持ちも育ってきました。



○地域の文化を身近に感じている子どもたちに、同じく古くから当地に伝わる「赤膚焼き」にも興味を持ってもらいたいと、地域から講師を招き「赤膚焼き体験」を企画しました。

赤膚焼きは、古くから日常使いの焼き物にも使われていて、子どもたちの生活に身近に存在しています。11月の作品展に自分たちで作った焼き物を展示し、親子で赤膚焼きを大切にしていこうという気持ちが育ってきました。



### 【今年度のまとめ】

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染対策として地域の方を招いての事業は縮小して実施してきましたが、「六条幼稚園といえば『菜の花プロジェクト』」と地域の方々に認識していただけるようになりました。友達と力を合わせて得た達成感や満足感、地域の方と触れ合って学んだコミュニケーション力や感謝をする気持ちが意欲や思考力につながり深い学びへとつながっていきました。

### 【来年度に向けて】

園児数の減少が懸念材料ではありますが、来年度は、六条幼稚園創立50周年を迎えます。地域に見守られながら幼稚園があるということに感謝の気持ちを持って、感動することや友達と一緒に考え表現する楽しさを存分に味わえる事業を展開していこうと考えています。又、園の行事や子どもの様子をホームページやブログで発信し地域の皆様に見守っていただきながら活動していきたいと考えています。



めざす子ども像

## 『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

いろいろな人や身近なものとの関わりを通して、  
心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる。

### 【今年度の取組紹介】

#### ◆ お話ひろば

子どもたちが楽しみにしている『お話ひろば』では、地域コーディネーターの方やおはなしせんと会の方、大学生のボランティアの方による絵本や紙芝居などの読み聞かせをしていただきました。子どもたちは興味津々で、絵やお話、言葉のやりとりを楽しんでいました。温かな雰囲気の中で、様々な方と絵本を通して触れ合い、いろいろな話を聞くことで豊かな心を育むことにつながっています。



#### ◆ のびっ子クラブ

年6回、“健康な心と体を育む”ことを目的に、講師を招いた運動遊びをしています。サーキット遊びやリレー、鬼ごっこやジャンケンゲームなどルールのある遊び、縄跳びなど、友達と一緒にいろいろな遊びや動きを体験しながら、体を動かす楽しさを味わっていました。また、子どもたちが日頃の遊びに取り入れ、夢中になって遊ぶ姿も見られました。毎回、園にある用具や遊具を活用しながら、楽しく体を動かす工夫をしてくださることで、子どもの遊びの環境をつくるうえで、保育者の学びにもなっています。



### 【今年度のまとめ】

コロナ禍での事業となり、計画していた活動が実施できなかったり、回数が減ったりしたものもありましたが、地域の方々の協力を得て、取組を継続することができました。環境整備事業や、様々な人との関わりや経験を通して、子どもたちは、周りの人への感謝の気持ちを持ち、人と関わる心地よさや親しみを感じて接する姿が見られました。また、講師を招き、英語にふれたり、体を思い切り動かしたりする活動では、子どもたちの興味関心の広がりや「やってみよう」「またしたい」という意欲につながっています。保護者の方からも地域の教育力を活かす取組に高評価を得ています。

### 【来年度に向けて】

心豊かでいきいきと活動する子どもの育成をめざし、子どもたちが人と関わりながら心を動かし、様々な体験を積み重ねていけるよう、地域の方や保護者と連携し、活動方法を見直したり工夫したりしながら取り組んでいきたいと思ひます。また、地域や保護者の方に園の取組や子どもの様子をより理解していただけるよう、啓発活動に努めていきたいです。



めざす子ども像

- ・ 学びを大切にする園児・児童・生徒
- ・ 仲間を大切にする園児・児童・生徒
- ・ 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

豊かな心を育み、地域を大切にし、たくましく生きる力を持った子どもの育成をめざす学校支援活動の促進と地域全体で展開する美しく、安全・安心な繋がる地域づくり。

#### 【今年度の取組紹介】

- ◆コロナ禍の中でも出来ることを模索し、漢字検定の実施、学区ブランドづくりに向けた会議をハイブリッドで開催しました。
- ◆新しくテーマを持った、キャラクター「とみわん」が誕生。昨年美術の授業の課題として地域を見守るキャラクターという課題で広く呼び掛けて誕生しました。今年度はそのキャラクターを使った学区ブランドの立ち上げを計画していましたが、新型コロナの影響もあり生徒を交えての会議が一度しか実施できず、アイデアを出し合うだけで終わりました。
- ◆大学生参画プロジェクトを活用し、一回の会議でしたが、生徒と年が近い学生とのやり取りで、様々なアイデアが出てきたことは、大きな成果でした。



大学生参画プロジェクトで学区ブランド会議の様子

#### 【今年度のまとめ】

毎年実施してきた、とみにゃんコンサートが今年度も新型コロナの影響で実施できず、企画から運営までを生徒たちが行ってきたので、子どもたちが自主的に動ける機会を設けることが少なくなりました。

また、防災フェスタに変わり、子どもたちが自ら学びたいことを自ら考えて行う「学びフェスタ」を計画していましたが、これも新型コロナの影響で実施することが出来ませんでした。

花いっぱい運動は継続でき、季節の花々を子どもたちと地域ボランティアが協働して各校園に植えることが出来ました。

#### 【来年度に向けて】

新企画の「学びフェスタ」など、小学生時代からボランティア活動を持続してくれた生徒が3年生になるので、夏休みが終わるまでに彼らの活動できる場を設けるよう、今から検討を進めています。新型コロナ禍でも子ども達と一緒に出来ることを、児童生徒を巻き込み、一緒に考えた取組を進めていきます。継続的に行っている漢字検定や花いっぱい運動は引き続き実施します。

めざす子ども像

## 学びを大切にする園児児童生徒 仲間を大切にする園児児童生徒 命を大切にする園児児童生徒

取組目標

子どもたちが地域とのつながりを意識できる

学習環境整備・取組を充実する。

### 【今年度の取組紹介】

- 環境整備・栽培事業では、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な学校活動が制限されることが数多くありましたが、人的・物的支援をいただき、地域の「花いっぱい運動」と生徒会活動、「とみにゃんクラブ」の活動を行いました。昨年度と同様に、温もりのある美しい学習環境づくりを進めることができています。
- 地域教育協議会主催で行われる予定であった「学びフェスタ」が中止となり、地域と学校の連携や交流する機会がほとんどありませんでした。しかし、前年度から取り組んできた地域教育協議会の新しいキャラクターの「とみわん」がお披露目されました。この「とみわん」は、地域の見守りや安全の周知を行う目的で作成され、今後は、「とみにゃん」と共に地域キャラクターとして地域の安全・安心の広報活動として活躍してくれることとなります。



### 【今年度のまとめ】

本中学校区では、地域行事や地域教育協議会主催の行事への協働体制が定着しておりました。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症により、学校行事の中止や制限により、学校活動を積極的に関わってくださる地域の方々との交流や協働の場がなくなってしまいました。無念さは残りますが、地域と学校が工夫しながら、今できることを考え、精一杯取り組むことができました。

中学校区に定着してきたマスコットキャラクター「とみにゃん」に続き、本校生徒が考案した校区の安全を見守る新キャラクター「とみわん」が加わり、地域と学校が今まで同様に安全に対する意識を高めました。

本事業による人的・物的支援により、本校のめざす「美しい学校」づくりを充実し、推進しました。

### 【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地域とともに子どもたちを育成する視点に立ち、本中学校区のフェスタを開催するなど、キャラクターを活かした広報活動を積極的に行います。また、これまで以上に学校と地域が連携し、子どもたちの「学び」「仲間」「命」を大切にする力を伸ばし、主体的に行動できるように工夫しながら、育てていきたいと考えています。

めざす子ども像

## 学びを大切にする園児児童生徒 仲間を大切にする園児児童生徒 命を大切にする園児児童生徒

取組目標

- ・読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・地域の方々とふれあいを通して、  
コミュニケーション能力を高める。

### 【今年度の取組紹介】

今年度も「人とふれあい 地域とつながる」をコンセプトに計画しました。しかし、コロナ禍において、「実施できること」や「実施できる方法」、そして「今後も持続可能な事業としての在り方」を模索する中で、「チャレンジタイム事業」等の体験学習、「ファンタジータイム事業」の読書活動の推進、「環境整備事業」の教育環境を充実させる活動は、コロナ感染予防に留意しながら行うことができました。学校生活においてコミュニケーション活動の制限があり、リモートによる学習をせざるを得ない中、「リアルに本物を体験できること」、「子どもたちの学びの教育条件を整える環境整備」は、今の本校児童にとって大変貴重なことだと思います。それを地域の方々と共に実施できたことは、大変意義あることでありました。

#### 栽培体験学習事業 ファンタジータイム事業 チャレンジ事業

ファンタジータイム事業として図書館司書さんと協働して、図書室の集中整備を行いました。また、栽培体験学習（イチゴづくり）、チャレンジタイム事業（戦争体験の聞き取り、地域学習、福祉体験学習）を地域の方々の協力の下、実施することができました。



### 【今年度のまとめ】

「地域の環境を生かした体験活動」「読書環境の充実」「校内および地域の環境整備事業」「楽器演奏体験やお茶の体験など地域の人材を生かした学習」「放課後学習の充実」を柱に、学校・保護者・学生・地域が協働して様々な取組を推進しようとしてしました。しかし、コロナ感染予防に留意する中で、楽器演奏体験やお茶体験や、学生ボランティアに来ていただく放課後学習はできませんでした。コロナ禍で実施できたどの取組でも、子どもたちからは、「すごく楽しかった。」「地域の方に教えてもらって良く分かった。」「図書館がきれいになってうれしい。」等の声がきかれました。児童に自分が住む地域への関心を深め、地域の中で生きているという意識を持たせることができたと感じます。地域の方々が学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくことにもつながったと感じました。

### 【来年度に向けて】

あたえられた環境の中とコロナ感染予防に留意し、持続可能な事業の在り方を模索しながら、活動内容を深化発展させていきたいと思っています。そして、地域・保護者・学校・行政が協働して教育目標の達成に向かって進めていきたいと思っています。

めざす子ども像

- ・ 学びを大切にする園児・児童・生徒
- ・ 仲間を大切にする園児・児童・生徒
- ・ 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

体験 発見 創造ひろがる「三碓学習」

歴史ある「みつがらす」地域とのつながりを大切にした学習環境の整備に取り組み、子どもたちが「みつがらす」に愛着と誇りを感じることのできる取組にする。

## 【今年度の取組紹介】

今年度もコロナ禍の中スタートすることになりました。そんな中でも「三碓の町たんけん」「いのちの学習」「三碓（なら）の祭り」「むかしあそび」「伝統文化～書道」「人権と平和」「米作り」など各学年で、テーマに基づき、できる形で行おうと考えました。しかし、感染拡大が頻繁に繰り返され地域との交流を含む学習活動が大きく制限されました。本年度も、田植えや稲刈りで密になってしまう5年生の「米づくり」と休校中の近畿大学との共同で進める「環境学習」が行えなくなりました。

今年度も地域の田んぼではなく、「三碓の里山」事業に田んぼづくりを加えて、校内の中庭に田んぼを造成しました。地域の方やJAの方にご協力をいただきながら、土づくりから田んぼの水の管理を子どもたちとともにを行い、間近で稲の成長を見ることができました。思ったよりもたくさんの米がとれ、脱穀・精米を行い、家庭科の学習で食すことができました。

また、豊かな感性や情操を育む事業として、1年を通しての「図書ボランティア」によるより使いやすい図書室への改装と「校内緑化」及び「校内環境整備」事業を進めました。



## 【今年度のまとめ】

「学び」「仲間」「いのち」を大切にする感性豊かな子どもを育成することは、本校保護者をはじめ地域の方々の強い願いです。今年度は、コロナ禍で例年通りに行えなかった分、どうすればよいか改めて考える良いきっかけにもなりました。地域を愛する方々とともに実体験をした児童は、「みつがらす」という郷土とともにそこに暮らす人々を愛し、誇りをもつことができました。

ボランティアの方々と進めてきた「校内緑化・環境整備事業」が根付き、今年度は地域の力をお借りすることがあまりできませんでした。子どもたちが自ら企画・作業を行い、新しく田畑や花壇・寄せ植えを作り、育てました。子どもたちが「主体的に考える」取組を行うことができました。

## 【来年度に向けて】

実体験ができる「環境」と「人」の提供を目指して取り組んでいますが、来年度も今年のように人との接触が制限されるようであれば、ICTの活用も視野に入れて検討していこうと考えています。また、校内緑化・整備事業や地域と学ぶ三碓学習などは継続的に推進し、「学び」「仲間」「いのち」を大切にできる児童の育成に努めていきます。地域の方々と連携し進めていきたいと考えています。



めざす子ども像

**学びを大切にする 園児児童生徒**  
**仲間を大切にする 園児児童生徒**  
**命を大切にする 園児児童生徒**

取組目標

- ・地域の方との交流を通して、さまざまな経験、体験を積むことにより「豊かな心」「やる気」を育み「しなやかな身体」の育成を行うことにより、「生きぬく力」を身につけさせる。

#### 【今年度の取組紹介】

##### ＜お話しの会＞

毎年、年に5回程度、園に『野の花文庫』さんが来てお話をして下さいます。今年も素話や紙芝居、パネルシアター等など年齢や季節に応じた昔話から外国の話まで幅広いジャンルの話にふれる機会を得る事ができました。蝋燭の暖かい炎に包まれ神秘的な雰囲気の中で、デジタルとは違った温もりのある心地よい声に子ども達は、お話の世界に引き込まれていきました。この経験の積み重ねは、子ども達の豊かな想像力を育み、人の話を聞く力につながっていきました。



##### ＜ヒップホップ教室＞



講師の『山本三歌代』先生にお越しいただき、軽快な音楽に合わせたダンスや体幹トレーニングなど毎回楽しく学びました。運動参観では、親子で出来る簡単な体幹トレーニングなどを教わりました。この経験は、忙しい日々でも、隙間時間に少しでも親子でふれあうきっかけとなりました。ヒップホップ教室を通じ先生には、『ルールを守る事の大切さ』『瞬発力UP』『体幹の大切さ』などを教えてもらう事が出来ました。子ども達は、日々の生活の中で毎日、友だちと一緒に体を動かす楽しさを味わっています。

#### 【今年度のまとめ】

小規模園という事もあり、講師の先生や地域の方々には、一人一人に応じた言葉かけや丁寧に関わって下さる事で、子ども達が様々な活動に興味や関心を持ち、何事にも自分なりにやってみようとする姿につながりました。また、園児達も自分から積極的に挨拶する姿も見られるようになり、周りの方々に信頼を寄せ、地域を理解し地域に愛着を感じる事ができました。

#### 【来年度に向けて】

3月末をもちまして閉園となりますが、今まで地域の方々に関わってもらい教えていただいた事は、子ども達の見えない財産となりました。

めざす子ども像

- ・ **学びを大切にする園児児童生徒**
- ・ **仲間を大切にする園児児童生徒**
- ・ **命を大切にする園児児童生徒**

取組目標

ぐんぐん 伸びよう 笑顔 いっぱいタイム

## 【今年度の取組紹介】

地域ボランティアの方、ゲストティーチャーの方との交流を通して、人と関わる喜びを味わい、子ども達の笑顔溢れる体験を積み重ねていけるように活動してきました。

地域の方とのふれあい事業“おはなしの広場”“とみなん文庫”

子ども達は、絵本やお話を聞くことが大好きです。「今日はどんな絵本を読んでもくれるのかな。」「はやく見たいよ。」と“おはなしの広場”をととても楽しみにし、“野の花文庫”さんのお話の時間が始まるロウソクの火が灯ることを合図に、子ども達は絵本の世界に入り込んでいました。子ども達の発達や季節に合わせたお話を選んで読み聞かせてくださる時間は、子ども達の想像力を掻き立てると共に、興味や関心を高める姿につながりました。



また、保護者の方もすすんで絵本コーナーの環境整備や絵本の補修、管理などを行っていただきました。選びやすくなった絵本コーナーで「この絵本読みたい。」「これがお勧めの絵本なんだって。」と、子ども達の興味の幅が広がり、友達や親子での会話が增えたようです。“とみなん文庫”で貸し出した絵本を通して親子でのふれあいの時間をもつことができ、豊かな心

を得ることにつながりました。

地域の方とのふれあい事業“イチゴ・サツマイモ・タマネギの栽培”

年間を通して計画を立て進めてきた“わくわく畑”での野菜や果物の栽培

は、「どうやってイチゴを摘むの?」「おいしいお芋、たくさん掘れたらいいね。」と知りたいことを質問したりして、地域ボランティアの方との交流の機会となり、一緒に育



てくださることに地域の方のあたたかさを感じながら、親しみと感謝の気持ちをもつことができました。子ども達は、地域の方が来てくださることをとても楽しみにし「よろしくお願いします。」と、自然と挨拶が聞こえるようになりました。

## 【今年度のまとめ】

昨年度に引き続き、コロナ禍での活動となりましたが、園・地域・保護者が連携し、今できることは何かを考え、例年の活動方法にとらわれず、子ども達の豊かな学びとなるように、いろいろなアイデアや方法を考えて、子ども達の“わくわく・ドキドキ・やってみたい”の意欲を引き立て、取り組むことができました。

## 【来年度に向けて】

友達と一緒に、いろいろな方と関わりながら活動する楽しさ、充実感を味わえるような活動、また様々なことに興味・関心をもち主体的に物事に関わる体験を年間計画に位置付け、計画的に取り組んでいきたいです。

めざす子ども像

**学びを大切にする園児児童生徒****仲間を大切にする園児児童生徒****命を大切にする園児児童生徒**

取組目標

人や自然との豊かなふれあいができる環境を整え、地域とのつながりを感じられる取組を行っていく。

**【今年度の取組紹介】**

・フープやわんぱくキッズの講師の先生に来て頂き、運動あそびを楽しみました。運動が苦手な子ども達にも無理に頑張らせるのではなく、大切なのは、本人が楽しいと感じる遊びをやらせてあげること。一人一人のしていることをほめてあげることで、色々な遊びに自然と参加できるようになりました。また、成功することを繰り返ししていく中で、次は努力してでも「やってみたい」「もっとやりたい」という気持ちがもてるように進めてくださっていました。子ども達は、最後まで生き生きとした表情で楽しく参加していました。

・今年は、さつまいも作りを中心に菜園活動をしました。畑全体に、子ども達でさつまいもの苗を植えました。苗の植え方を地域の方に教えて頂きました。暑い日も水やりをしたり、草引きをしたりと、たくさんの大きなさつまいもに育ってほしいという願いをもって、活動も頑張っていました。成長していく中で、発見や変化を感じることができました。色々な形のさつまいもを沢山収穫することができました。収穫してすぐに焼いて食べたさつまいもの味は、「甘くておいしい。もっと食べたい」と大喜びでした。

**【今年度のまとめ】**

・身近に畑がある環境の中で、地域の方に教えてもらいながら、さつまいもや夏野菜の苗を植え、世話をして成長を観察してきました。その中で、驚きや不思議を感じたり、収穫への期待や収穫の喜びを感じたりすることができました。

・運動あそびやおはなしの会の方に来ていただくことで、楽しく体を動かせたり、地域の方を身近に感じながら、いろいろなお話に興味を持ったりすることにつながりました。

**【来年度に向けて】**

・今後もコロナウイルス等の感染症対策を徹底したうえで、地域の方とのつながりをもつ機会を増やせるように取組の工夫をしていきたいです。

・学園南こども園での取組を地域の方々に知って頂ける広報活動を計画していきたいです。

めざす子ども像

**「地域の絆を深めよう」****～平城の地で命を育もう～**

取組目標

**「地域の絆を深めよう」 ～平城の地でいのちを育もう～****【今年度の取組紹介】**

## ・サツマイモ栽培

今年もサツマイモの苗植え・収穫をこども園・小学校・中学校に体験してもらいました。その年によって収穫はまちまちで小学校・こども園は豊作でしたが、中学校は残念ながら希望通りにはいきませんでした。同じようにしていても自然が相手、ここが栽培の難しいところということも学びました。



## ・稲作体験

こども園・小学5年生が田植え・稲刈りを体験し脱穀機でもみに、そして簡易な方法ですが、すり鉢ですって玄米ともみ殻に分けました。その後玄米を一粒食べてみました。最初みんなは何とも言えない顔をしていましたが、甘い…などと感想を口々に。

5年生にはその後、一本の苗から何本に分かれたか（分結数）、又は1本に米粒が何個ついてたかを調べる授業をしました。

## ・今年は他の小学校も田植え・稲刈りを体験してもらいました。

## ・花づくり・パンジー栽培

種まきから始めたパンジー栽培、愛着がわきます。

色々反省点もありますが次回に生かします。

**【今年度のまとめ】**

- ・平城中学校区のメイン事業“食と農”ふれあいフェスタがコロナ禍の影響で実施できませんでした。その代替え事業を学校単位で実施してもらうように計画していましたが、コロナ禍の中やはり目的達成までには至りませんでした。
- ・環境整備の一環で、花づくり（パンジー栽培）をしました。こども園・小学校・中学校のフェンスに飾りました。この状況ですから少しでも心の潤いになればとの思いからです。

**【来年度に向けて】**

“食と農”ふれあいフェスタ事業を復活させて、子どもたちの参加型のイベントとして子どもたちに企画力をつけさせたいと思います。

“食と農”ということで保存食づくりにも挑戦します。



めざす子ども像

## 「地域の絆を深めよう」

### ～平城の地で命を育もう～

**取組目標** 今まで取り組んできた食と農に加え、防災、労働、環境、生と性等、人が人として生きていく上で必要なテーマについての学習を深め、豊かな心を育むとともに地域の一員として地域に貢献できる人材の育成に努める。

#### 【今年度の取組紹介】

- ① 恒例のイモ栽培、今年は焼き芋にピッタリ、「紅はるか」に決定!!

秋の平城“食と農”ふれあいフェスタ 2021 に向けて、今年のイモは、甘くてネットリ、焼き芋にピッタリと評判の「紅はるか」に変更し、5月24日、雨が降りだす中、生徒会本部役員のメンバーと地域の方々と教員で協力しながら「紅はるか」の苗を植えました。



今年は8月のお盆前の長雨による収穫の心配をしつつ、9月21日に生徒30人ほどの手で、「紅はるか」が収穫されました。心配していた通り、掘れども掘れども、高麗人参のようなひげ根状の「紅はるか」の中に、奇跡的に大きく成長した立派な「紅はるか」を求めて、重い土を掘り起こす度に生徒達は一喜一憂しながら、次々に細〜い!?イモをゲットしていました。

残念ながら、フェスタ 2021 の開催は中止となってしまう、収穫したイモで焼きイモ大会も計画しましたが、生徒への食品提供は見送らざるを得ない残念な結果となりました。



- ② 夏恒例のクリーングリーン大作戦、今年は中止に…

8月28日(土)に予定されていた、毎年恒例の中学校周辺の清掃作業、「夏のクリーングリーン大作戦」は、今年度新型コロナウイルス感染症を考慮して中止の判断をしました。ご用意をいただいていた地域の皆さま、来年は宜しくお願いします。

#### 【今年度のまとめ】

- 今年も新型コロナウイルス感染症の影響で「平城“食と農”ふれあいフェスタ 2021」の開催は中止となり、改めて、「当たり前は、当たり前ではないこと」を感じた1年でした。平城地域恒例の盛大な取組ではありますが、コロナ禍で平城中学校区の園児・小学生・中学生・地域の方が一堂に集まることはできませんでした。「地域の中で子どもは育つ」という、皆さんの思いを、来年度は具体化できるように計画していく必要性を感じました。
- 環境整美事業については、地域のお力を借りながら職員が中心となり、生徒の学習環境をたもつことが出来ました。ありがとうございました。

#### 【来年度に向けて】

- 来年度は今年出来なかった「平城“食と農”ふれあいフェスタ」の取組以外にも、生徒たちが主体的に取り組む視点をさらに取り入れて、新たな取組を模索しながら取り組みたいと考えています。
- 放課後学習などコーディネーターの協力を得て、学習支援の取組を進めたいと考えています。
- 生徒一人一人が平城地域の諸活動に対して主体的に取り組み、継続的な取組にしていくとともに、地域の方の協力を得て、環境美化活動への支援の輪をさらに広げていきたいと思っています。

めざす子ども像

## 「地域の絆を深めよう」

### ～平城の地で命を育もう～

#### 取組目標

- 地域・家庭・学校が協働し、栽培・生産・命を育む取組で命について学ぶ。
- 様々な人・物・出来事と関わり、感動を味わい、心を動かす体験をする。
- 活動の中で、豊かな心や規範意識、達成感、成就感を養い、コミュニケーション力を伸ばしていく。

#### 【今年度の取組紹介】

##### ◆米作り体験

地域の方から学校の南に隣接した田圃をお借りして、5年生が田植え・稲刈り体験を行いました。今年で12年目になります。田植えや稲刈りには、地域の方々や農協の方々が多数応援に駆け付けてくださいました。また、米作りを通して、地域の農業や農産物に触れ、地産地消について考える機会となりました。



##### ◆サツマイモ栽培

1年生と6年生が、地域の方と一緒にサツマイモを植え、世話をしました。運動場からも見える位置にあるため、大きくなったかなとがめたり、水やりをしたり生長を楽しみにしていました。地域の方が世話をしてくださる姿も見え、感謝していました。10月には再び1年生と6年生と一緒に収穫をしました。6年生が1年生に教え、手伝う姿を地域の方がサポートしてくださりました。収穫した芋は、放課後子ども教室と共催の焼き芋大会で皆にふるまわれました。



#### 【今年度のまとめ】

地域の方々との協働による様々な栽培体験活動で、達成感や成就感を味わい、また、顔を合わす機会や、自然に挨拶を交わし話すことも増え、コミュニケーション力の育成につながっています。

家庭科学習・図工科学習の支援、図書室や中庭の環境整備への支援など、様々な面で地域の方々のお世話になり、教育活動を進める上でもなくてはならない存在でした。

#### 【来年度に向けて】

各学年の児童により効果的な栽培体験学習を年度当初に計画し、地域の協力を得て実行していきたいです。教職員と地域の方々とのつながりをより深めるためにも、顔合わせや意見交換の場を設定し、密接な関係づくりを図っていきたいです。コロナ禍で、例年行ってきた「ふれあいフェスタ」や「クリーン活動」の開催見直しも含め、実践内容の再度検討を図り、小中一貫教育の立場から子どもや教師の交流をより一層深めていきたいです。

めざす子ども像

## 「地域の絆を深めよう」

### ～平城の地で命を育もう～

取組目標

食と農の活動を通して、地域の絆を深めよう

～園・家庭・地域が連携し、様々な体験を通して豊かな心と健康な体を育む～

#### 【今年度の取組紹介】焼き芋パーティーと作品展

今年も地域の方と一緒に子どもたちがとても楽しみにしていた焼き芋パーティーをすることができました。朝早くから園庭で地域の方が準備してくださっている姿を見て、大喜びの子どもたち。一人一人サツマイモをアルミホイルに包み、地域の方に教えてもらいながらクラスごとに火の中にイモを入れ、焼き上がりを心待ちにしていました。園庭で、地域の方と一緒に食べた焼き芋はとても甘くて、「おかわりください」「美味しい」とたくさん頬張っていた子どもたち。食べながら地域の方と話をするのも楽しかったようで、帰って行かれる地域の方を門まで見送り「ありがとうございました」「また来てください」と声をかけていました。



後日、園内作品展で5歳児がこども園で経験したことをテーマに作った共同制作の中に、『稲刈り』と『焼き芋パーティー』のコーナーもありました。作った人形の中に、自分たちだけでなく地域の方の人形もありました。作品展にも地域の方が見に来てくださり、子どもたちの力作を見ていただくことができました。



#### 【今年度のまとめ】

今年度もコロナ禍の中でしたが、感染対策を十分に行い事前に紙面で計画を伝えながら地域の方と一緒に活動することができ良かったです。

サツマイモの収穫や田植え、稲刈りを通して食への興味関心が高まり、地域の方への感謝の気持ちをもつことができました。さらに貴重な体験は日々の制作活動にも広がり地域の方と子どもたちのつながりを深めることができました。コロナの流行が拡大している時期には中止になった活動もありましたが、地域の方や保護者の方の協力のもと、他にも花壇の花植えやお話の会、体操教室等を行うことができ子どもたちは様々な経験をすることができました。

#### 【来年度に向けて】

感染症対策を行い、取り組める事業は何なのか地域の方と一緒に考えながら活動を精査して行きたいと思います。園児、保護者、地域の相互が心豊かな体験になるように、今後も活動計画や活動後の振り返りを大切にしていきたいです。その際、職員と地域の方がつながりをもてるように引き続き保育後にも時間を確保していきたいと思います。



めざす子ども像

## 地域に対する誇りと、地域を大切にする心 を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

飛鳥の地域で生きる喜びを感じる子どもが育つこと。そのために、地域と学校がより密につながる場と機会をつくり、これまで以上に地域で子どもを育む環境を整えること。また、地域の土台となる家庭を支え、地域の中で教師が育ち、学校園と関わる地域人材が育つこと。

### 【今年度の取組紹介】

飛鳥小学校で開催される「飛鳥こどもミュージアム（作品展）」では、小中学生と地域の方々が協力して一つのアート作品「つながろう飛鳥」を作成しました。式典では地域の方も参加し、小中学校の全クラスをオンラインでつなぎ、飛鳥地域の強いあたたかいつながりをみんなで感じる素敵な時間となりました。



子どもたちが地域の大人のモデルから学ぶ機会が減る中、地域交流事業として、自然農法でお米を育てている校区の方との交流の場を持ちました。一粒のお米の力を知ると共に、地域で活動する大人の姿に触れ、地域での新しい発見や「生きること」について学ぶことができました。



今年度も、中学3年生の面接練習で、地域の方々に面接官として協力していただきました。地域の方に生徒の様子を知っていただくことで、子どもたちに付けたい力、今必要な力について丁寧にアドバイスをいただき、地域の大人に見守られ育てていただいていることを実感する機会をもつことができました。

### 【今年度のまとめ】

コロナ禍で地域の大人と子どもが共に活動する機会が減る中、8月に小中一貫研修にあわせて、小中学校の教員と地域の方々と熟議の場を持ち、現在の状況の中で、子どもたちの自主性や達成感を育むことの大切さを共有しました。子どもたちのためにできることを地域と学校が共に考え、改めて地域の宝である子どもたちにつけたい力、地域を知り、地域を愛し、地域に誇りを持って、健やかに子どもたちが育つような方策を考える時間を持てたことは、大変有意義でした。

### 【来年度に向けて】

地域の様々な立場の大人と関わり、コミュニケーションをとる機会が減っていますが、これからもコロナ禍でできることを考え、地域・学校・保護者が協働・連携して、「地域に誇りを持ち、地域を大切にする」子どもたちを育てていけること、子どもが自ら考え、自主的に行動できる活動をすることを大切にしていきたいです。いつもそばに地域の方がいる中で子どもたちがいきいきと活動し、地域の大人も子どももお互いが支え合い、大切に思いあえる関係づくりを大切にしていきたいです。



めざす子ども像

## 地域に対する誇りと、地域を大切にする心 を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

自分を知り、自己の考えを育て、それを皆の前で表現し、  
行動できる力を育てる

### 【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な学校行事や地域行事の中止や実施形態の変更で活動が制限されましたが、5年目を迎えた「あすかスタディ・サポート（放課後図書館学習）」での学習支援は、今年度も形態を工夫しながら継続し、子どもたちも積極的に活用することができました。地域の方々の学校施設利用の制限がありましたが、地域ボランティアの方々や、今年度からは大学生参画事業として奈良教育大学生も参加し、「あすかスタディ・サポート」や、図書室の環境整備に取り組み、地域と学校が協働した子どものための活動を推進することができました。

12月には、キャリア教育推進事業として、バドミントンのオリンピック選手である園田啓悟さんをスペシャリスト講演会の講師に迎え、「自らの可能性を信じ、諦めずに努力することの大切さ」を学びました。バドミントンの交流もしていただき、園田さん、全生徒、教員みんながあたたかい気持ちで体育館で一つになり、感動を共有する大変有意義な時間となりました。



### 【今年度のまとめ】

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な学校行事や地域行事の中止や実施形態の変更で活動が制限され、子どもと地域の方々が関わる機会や子どもたちが地域の中で活躍する機会が減った一年でしたが、コロナ禍で「できない」だけではなく、コロナ禍の今「子どもたちにできること」、「子どもたちができること」を考えることの大切さを改めて感じ、地域・学校・保護者でその思いを共有することができました。また、子どもたちも制限のある活動の中で、一つ一つの取組に意欲的に取り組み、達成感や感動を味わうことができました。

### 【来年度に向けて】

地域の中での活動が減り、地域の大人と関わる機会が減る中でも、地域を知り、地域に誇りを持つこと、また、子どもが自分を知り、自分の考えを持ち、主体的に動けるようになることを大切にできるよう、コロナ禍の今、生徒たちの「学び力」を伸ばし、これからの社会を生きていく力を育てるためにも、今後も地域・保護者と協働・連携を図っていきたいです。

めざす子ども像

## 地域に対する誇りと、地域を大切にする心を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

地域に根差した学習活動において、地域の方々が活躍できる出会いの場を計画し、児童が様々な地域の方々と出会うことで、地域のよさに気付き地域を大切にしようとする意識を育てる。

### 【今年度の取組紹介】

今年度も、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえた対応となりました。しかし、地域の方と常に考えていたのは、取組をゼロにするのではなく、今、できることを行っていこうというものでした。そのいくつかの取組を紹介します。

まず、新型コロナウイルスの感染状況をみながら、地域の方と共に、「まち探検」や「世界遺産学習」に行きました。本校区は、歩いてすぐの場所に多くの世界遺産があることから、地域の方と共に、充実した時間を過ごすことができました。

次に、オンラインを利用した「つながろう飛鳥」の取組を行いました。この取組は、本校の体育館で、小中だけでなく、園や高校の方の作品を展示したり、地域の方も招待したりして、メッセージを書いてもらうものです。その最終日には、地域の方もお招きして、小中全学級をオンラインで結んで式典を行いました。

最後に、今年も、本校児童が、見守り運動をしていただいた地域の方に、鉢花を作成し、配りました。たくさんの方に喜んでいただきました。



### 【今年度のまとめ】

今年度もコロナ禍の中、様々な活動の制限もあり、例年通りとはいきませんでしたが、地域の方々や保護者ボランティアの方々に協力を得ながら、町探検などの地域学習や「つながろう飛鳥」などといった取組に対して、地域の方々の参加できる体制をできる限り整えました。このことにより、地域の方々の学校への関わりや思いが、子どもたちにも確実に伝わっており、いろいろな機会です学校や地域を良くしていこうという気持ちが子どもたちにも広がっています。

次年度も、地域と共にできることを取り組んでいきたいと思えます。

### 【来年度に向けて】

来年度も一層、小学校も中学校と同様に、地域の教育力を支え高める拠点として機能できるように連携の強化を更に図り、しっかりと見通しと計画をもって様々な事業を実施していきます。

また活動に対する評価をしっかりと行い、見直しや改善等が必要な場合は、話し合いを密接に行い、子どもたちと地域がしっかりと繋がることができる充実した取組となるようにしていきたいです。ホームページによる発信も積極的に行っていきます。

めざす子ども像

## 気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

「子どもに今何が必要なのか」を常に考え、  
地域として何ができるのかを考えながら企画し活動を行いたい。

### 【今年度の取組紹介】

#### “親子で凧づくり”

竹ひごを修復しながら骨組みをした上に、和紙を張り付けた和凧の製作に挑戦いたしました。各々が思い思いの図柄を描き、凧の製作の完成後の1月8日に凧揚げ大会を登美ヶ丘北中学校運動場にて開催いたしました。製作手順に沿って凧を完成いたしましたと思うように揚がらない作品もありましたが、講師の栗田先生の指導で糸のバランスが悪いとうまく揚げにくいことを学びました。当日は奈良西警察署より特別参加による交通安全犯罪抑止の凧を制作し持参していただいた凧を園児達が揚げてくれました。子供たちは親子で凧揚げ大会を楽しみました。

#### “わんわんパトロール”

わんわんパトロールメンバー、地域の方々、ワンちゃんが参加により見守り活動、歳末の犯罪被害防止、交通事故防止の啓発活動を開催いたしました。当日はパトカー・ナポクン・ナポビーも参加してくれました。



### 【今年度のまとめ】

今年度の事業活動は昨年秋に植え付けたニンニクの収穫から始まりました。栽培期間中に校内立ち入り禁止期間もありましたが、ニンニクは十分に生育できたものと未成育のものも含め初めて収穫しました。星空観察は昨年の観察中止の影響から100名を超えるお申し込みをいただき、密を避けるために3グループに分けて開催いたしました。

ひつじ放牧活動は2年ぶりに行い、10日間放牧になりましたが、延べ200名の方々にお世話をさせていただきました。子どもたちが楽しそうにお世話をする姿に感動いたしました。パソコン教室は2回開催いたしました。NPO 法人と協賛でいたしました。サマースクールは4講座を開催しました。

とみきた塾としてはダンスクラブによるクリスマスイベントと並行してメンバーによる近隣公園の清掃活動をいたしました。凧づくりと凧揚げ大会開催、わんわんパトロールメンバー、地域住民の方々への防犯啓発活動の講習会開催なども行いました。

### 【来年度に向けて】

ひつじの放牧をはじめ、凧作り、ダンス教室の継続を期待する声が多くありました。星空教室については気象条件に影響するので打ち合わせを綿密に行います。

めざす子ども像

**気づく、学ぶ、考える子どもを育てる**

取組目標

**様々な活動を地域に発信する意識を持ち、  
できる限り子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実。****【今年度の取組紹介】**

今年度は昨年度に続き、コロナ禍の中で活動が大きく制限される1年となりました。コロナ禍前には、学校と地域とより深く連携していくために、生徒会が目指す取組を地域の方に理解していただきながら具体的な活動と支援をお願いしてきましたが、これまで通りとはなりませんでした。「学校力向上事業」として実施してきた東登美ヶ丘小学校や登美ヶ丘高校と朝のあいさつ運動や「防災教育推進事業」として実施してきた炊き出し訓練など、学校と地域の方、保護者の方と協力して実施してきた各事業も途絶えたままです。しかし、感染予防に注意しながら「キャリア教育推進事業」として、講師の方に来校していただき、性教育、面接指導や労働にゲストティーチャー講座などの取組は実施することができ、人間関係形成能力や課題対応能力を培いました。

**【今年度のまとめ】**

地域のつながりを深めるため、防災教育推進事業に力を入れていましたが、今年度は実施できませんでした。しかしながら、今年度継続して実施できた事業を通して、地域と連携して、自分たちも地域の一員として貢献しなければならないことを理解し、災害時等における心構えにもつながれたと考えています。地域の大人から学ぶことの大切さも理解され、地域の大人と関わることでつながりを活性させ、その中で果たすべき自分たちの役割と責任を理解してくれているようです。

**【来年度に向けて】**

小中連携と中高のつながりを深めつつ、地域の方と協働する活動の内容を充実させ、本校区の学校ブランド力を高めていくとともに、学校活動に幅広い年齢層の方々に参加を求め、学校を起点とした新たな交流と地域の活性化につなげていきたいと考えております。また、地域に誇りを感じることができ、激変する未来においても活躍できる人材の育成に努めてまいります。



めざす子ども像

## 気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実。

### 【今年度の取組紹介】

《学習支援事業》地域の方による学習の支援

#### ◆家庭科実習支援

家庭科の裁縫実習において支援をしていただきました。本年度は2学期のみになりましたが、大人による支援が得られ、実習をスムーズに進めることができました。



《体験学習事業》ゲストティーチャーによる授業

#### ◆信楽焼体験 / 奈良筆体験 等

本年度も体験学習事業の実施回数は減少しましたが、2学期を中心に可能な範囲で実施しました。多くの児童たちにとっては初めての体験であり、活動を通してその楽しさや難しさを知りました。感染者が減少した2学期に児童に大切なことを伝えようと来校してくださったゲストティーチャーの思いなどを知ることができ、今後の生活などに生かしていくことができる取組となりました。



《環境整備活動事業》地域の方と共に行う環境整備

#### ◆通学路清掃、図書整備

保護者の方や学校近隣の方に学校環境の整備を進めていただきました。図書室の整備、通学路清掃は本年度も児童と一緒に活動することができませんでした。しかし、きれいになった通学路を歩き、図書室を利用することで、環境整備の大切さを感じていました。

### 【今年度のまとめ】

子どもたちは信楽焼体験等、日頃体験することのできない体験を通し、多くの事を学びましたが、本年度も新型コロナウイルス感染症のため、計画していた多くの事業が中止となったことはとても残念でした。

学習の中で招聘した地域の方やコーディネーターの方と挨拶ができる児童が増えてきています。「地域で育っている心豊かな登美っ子」を意識させることができる貴重な学習となりました。

通学路清掃や図書整備は地域の方と行いませんでしたが、きれいにしていただき、とても喜んでいました。見守りで立哨されていた地域の方に進んで挨拶をし、お礼を言う児童もいます。感謝の気持ちを抱く姿勢を大切にしたいと思います。

### 【来年度に向けて】

来年度は学年に応じた様々な体験学習や行事を行えるよう、実施の時期や形態を臨機応変に考える必要があります。今後も保護者や地域の方々と連携を深め、さらなる交流や繋がりをもつことにより、心豊かで自分が生活をするこの地域に誇りをもてる登美っ子の育成を目指していききたいと思います。

めざす子ども像

**「気づく、学ぶ、考える子どもを育てる」**

取組目標

○地域人材を生かした体験的学習の充実と読書活動の推進。

○恵まれた環境を生かした栽培活動や遊び・運動の推進。

## 【今年度の取組紹介】

## ○昔遊び体験（1年）

例年実施している体験学習の1つで、今年度も地域みなさんに来校いただき、直接教えていただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染の拡大により急遽取りやめました。それに代わる方法として、事前に来校いただき遊び方について動画撮影を行い、その動画を見て児童が昔遊び体験を行うことにしました。



（地域の方が説明する動画を見る児童）



（教員と地域の方の動画撮影の様子）

「たけとんぼ」や「めんこ」、「おはじき」など9種類の遊びを体験し、子どもたちは、活き活きとした表情で楽しんで活動できていました。併せて、地域の方々に、子どもたちの様子と今年度の教育活動の様子を知っていただけたことは、今後の学校教育への支援の在り方を考えていただける貴重な場となりました。

## 【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染防止に努めながら実施できたこともあれば、やむなく実施を中止した活動もありました。このような状況下で子どもたちが人と接することが少なくなり、コミュニケーション能力の育成の場が減少したことを実感しています。本来ならゲストティーチャーに会って、直接話しながら学ぶことが望ましいのですが、それが叶わないときには、今年度のように事前に動画撮影したものを見たり、ライブで中継して会話したりすることもできるようになりました。学びをとめないように、今までにない新しい学び方を構築できた一年となりました。

## 【来年度に向けて】

ICT 機器を用いた活動や ICT 機器を活かして遠隔地に住む人との関わりによって、できなかった活動ができるようになってきました。それをふまえて、一方的ではなく、双方向でコミュニケーションが取れる活動や効果的な学習となるように、今後の活動形態や人数、活動そのものを精査するとともに、取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

**「気づく、学ぶ、考える子どもを育てる。」**

取組目標

**豊かな心を持ち、たくましく活動する幼児をめざして****—遊びや人との関わりを通して—****【今年度の取組紹介】**

## ◆「感動体験事業」サッカーで遊ぼう

地域のゲストティーチャーに来ていただき、ゲーム遊びを取り入れ準備体操をしたりボールを使って片足でバランスをとったり、キャッチしたり、蹴ったりしながらサッカーを通して体を動かす楽しさや心地良さを味わいました。また、ビブスを着てチームに分かれ、ゲームも楽しみました。「こっちに蹴って。」「〇〇ちゃん、がんばれ。」と、自分のゴールを目指して蹴ったり、ボールを追いかけてたりして、力いっぱい体を動かすことができました。サッカーを通して体を動かす楽しさを感じ、日々の保育の中でも、子ども自らサッカーゴールや応援席を準備して、意欲的に活動する姿が見られるようになりました。



## ◆「環境整備事業」「食育支援事業」花植え・栽培活動

園内のプランターに季節ごとに色とりどりの花を植え、毎日水をやり世話をすることで「お花が喜んでいるみたい。」「大きくなってきた。」と、生長を喜ぶ声が聞こえました。また、園内にある「すくすくファーム」では、夏野菜や冬野菜など保護者や地域の方と一緒に生長を楽しみながら育てました。季節を感じながら収穫を楽しみ、何度も家庭に持ち帰り調理して食べる等、食育活動にもつながりました。昨年植えて収穫したバジルの種を今年蒔いたところ、たくさんの芽を出しました。「おいしい匂いがする。」「ピザの匂いがする。」と、五感で感じたことを伝える姿が見られました。植物を育てることによって、自分の感じたことを言葉にする楽しさや、生長の喜びを感じられる感動経験につながりました。

**【今年度のまとめ】**

- 新型コロナウイルス対策の為、時間を短くしたりグループを分けたりして工夫しながら事業を行うようにして、地域の方との温かい触れ合いを大切にしてきました。子ども達は、様々な経験の中で思ったことや考えたことを伝え合う喜びや表現する楽しさ、人と関わる嬉しさを感じました。事業を通して豊かな心やたくましく活動する姿の育ちにつながりました。
- ホームページや園内の写真掲示、自由参観を通して保護者や地域に発信することで、園教育に興味をもっていただく機会となったと思います。

**【来年度に向けて】**

新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら継続して活動を行い、子ども達が友達と協力する楽しさ、自然に対する興味や関心を広げ、心豊かに成長できるように今後も事業を進めていきたいと思っています。また、閉園に向けて保護者・地域の方々に感謝しながら閉園事業を進めていきたいと思っています。

めざす子ども像

**気づく、学ぶ、考える子どもを育てる**

取組目標

**地域とのつながりを持ち、子ども達が、  
楽しさ・温かさ・思いやりを感じられる充実した取組を行う。**

## 【今年度の取組紹介】

地域にある『NPO 法人ソレステレージャ奈良2002』よりコーチを招き4・5歳児がサッカー教室に参加をしました。教室の始めと終わりにはきちんと「礼」をし、規律やルールについても体を動かしながら学ぶことができました。転んでも直ぐに立ち上がり、必死になってボールを追う姿もあり、心身共にたくましさが育まれる活動となりました。



また、英語教室では学期に1回ゲストティーチャーに来園していただきました。先生のユニークな雰囲気になまれ、子ども達も楽しんで参加することができました。絵カードを見たり、絵本を読んでもらったりしながら英語に親しむことができました。英語教室の中では、活躍できる場を子どもに与えてくださり、個々の自信にもつながる機会となりました。



環境整備事業では草刈り機で園庭の伸び切った草を刈っていただいたり、園庭や砂場に砂を入れ整備をしたりしていただきました。環境の整った園庭は開放感があり、日々の遊びや運動参観などの活動を充実して行うことができました。園職員だけではできないことも、地域の方の協力を得ることで、子ども達にもよりよい環境を提供することになり充実した生活につながりました。

## 【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症の急拡大もありましたが、対策を講じながら今年度の事業を実施することができました。「サッカー教室」では、実施日の前から子ども達は「サッカー楽しみやな」「早くサッカー教室の日来ないかな」と、楽しみにする姿がありました。期待に胸を膨らませ当日を迎える日が続きました。事業を継続していくことで子ども達の期待は膨らみ、楽しんで参加する姿につながりました。今後も地域の教育力を活かし、園教育の充実を図っていききたいと思います。

## 【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じながら、地域・学校・園と連携を図り、子ども達にとって温かなふれあい体験や感動体験ができるよう、園活動の充実に取り組んでいきたいと思っています。



めざす子ども像

**やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成****「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす**

取組目標

**学校が大好きで、ふるさとが大好きな都跡の子どもを育てる。****【今年度の取組紹介】**

・「本が大好き」という子どもたちが育つような工夫に取り組みました。読み聞かせは感染症対策を十分にすることでこども園で行いました。大学生参画事業実施校区となり、奈良教育大学から学生1名が図書整備に参加してくれました。その活動の中で、夏休みには先生方と協力して小学校図書室の書棚を移動させたり、ペンキ塗りをして、古い本棚をリメイクしたりしました。現在その本棚は、新刊本コーナーとして子どもたちに人気です。中学校では、学習にも役立つように二十四節気紹介を作成し廊下一面に掲示しました。

・中学校の環境整備では、生徒たちの水やりのおかげで、2年ぶりに恒例のゴーヤカーテンが復活し、サツマイモも大収穫となり今年もこども園へおすそわけすることが出来ました。花苗はプランターにも植えることで、正門からのアプローチが寒い冬の間にぎやかになりました。コロナ禍で活動が制限された生徒たちのためにと七夕飾りを校内に置くことになり、地域の方たちが笹を切り出しに行きました。切り出した笹は、こども園や公民館行事にも使用され地域交流の一役を担いました。

**【今年度のまとめ】**

- ・活動が制限されるなかでも、読書推進と栽培体験には多くのボランティアに参加していただき予定通りの事業が実施できました。図書ボランティアのブッカー掛けや修理の技術も、新しく参加された方たちに以前からの方たちが指導されるなどして交流が生まれました。
- ・地域との共同開催の講演会やおまつりの事業はできませんでしたが、学校園の行事を支援する機会が多くあり、園児・児童・生徒との交流は例年よりも多く持つことが出来ました。

**【来年度に向けて】**

- ・年度末に発行する広報紙「みあと」、学期ごとに発行するボランティア募集のチラシには、活動した内容を掲載して地域への広報活動を継続します。学校園の入り口などには、ボランティア募集ポスターを掲示し保護者の方の目につきやすくします。
- ・地域との連携事業が再開された場合は、中学生も企画の段階から参加して、当日の運営をスムーズに進めたいと考えています。
- ・今年度作成した緑色のベストは、園校外の様々な場面でボランティアに着用していただき、赤 T シャツ着用のコーディネーターと共に子どもたちを見守っていきます。

めざす子ども像

**やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成****「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす**

取組目標

**人を愛する心や学校・地域を愛する心を育てる****地域で育つ中学生として、地域の一員としての役割をになれる子どもの育成****【今年度の取組紹介】**

- 毎年生徒たちも楽しみにしている植物の栽培活動。本校の目玉でもある「ゴーヤカーテンづくり」を2年ぶりに実施できました。夏には立派なゴーヤが収穫でき、地域の皆様や来客者にも振舞うことができました。また、みあと農園には「サツマイモ」を栽培したり、みあと花壇やプランターには多くの花を植え付けて育てたりすることができました。これらの日々の世話は『いきものがかり』が中心になって水の世話などを行いました。



- 読書推進事業では、地域コーディネーターやボランティアの方々と市の図書館司書の方がほぼ週1回のペースで来ていただくようになり、図書室の環境整備や書籍管理を行っていただいています。文芸委員が図書室開放を運営する際に役立つバーコード操作や分類ラベルの意味と整理の仕方などについての生徒向け勉強会をしていただいたり、生徒たちが多くの本との出会いが持てたりしました。校内の掲示スペースにもたくさんの掲示物を工夫して配置していただきました。

**【今年度のまとめ】**

コロナウイルス感染症の影響により、今年も様々な制限がある中でも無理なく活動できそうな取組を模索しての実施が多くなりました。生徒と地域の方々が協働して行う「みあと農園」「みあと花壇」はじめとする栽培体験活動が取組の中心でしたが、地域の方々と触れ合う機会を多く持ち、共に活動させていただきました。一昨年度から活動をスタートさせた「いきものがかり」も徐々に定着し、ボランティア参加の輪を広めながら、地域活動に積極的に参加する姿が増えてきました。多くの生徒の地域に対する理解や関心が高まり、活動を通して自分たちの学校をきれいにしていく美化意識の向上や地域の方との協働につなげることができました。

**【来年度に向けて】**

- 協議会でやっているコーディネーターやボランティアの募集活動の協力ができるよう、中学校での支援事業を中心に、学校HP等での発信にも力を入れ、よりたくさんの保護者等にも引き続き周知していきたいと思ひます。
- まだまだコロナ感染状況の情勢に左右される心配はありますが、この2年間でできていない小中合同でのコーディネーターとの交流会を実現し、小学校で行われている支援事業も参考にしながら中学校での新たな支援事業を考えていきたいと思ひます。

めざす子ども像

**やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**

**「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす**

取組目標

**世界遺産のある地域**

**「都跡」で暮らし、「都跡」を学び、「都跡」を誇れる児童の育成**

#### 【今年度の取組紹介】

##### ○ 平城宮跡オリエンテーリング

毎年4年生が平城宮跡歴史公園内を地域のボランティアの方々の協力を得ながらオリエンテーリングをしています。

今年度は平城宮跡歴史公園の奈良県推進事業部の方の協力もあり、より深い学習を行うことができました。半日の活動でしたが、平城宮跡のさまざまな場所を歩いて回り、それまで学習したことと結びつけながら活動しました。チェックポイントではボランティアの方々から詳しいお話をしていただき、興味をもって取り組むことができました。



##### ○ 学校図書館支援事業

子どもたちが本にふれる機会をふやそうと、地域コーディネーターや図書館司書の方を中心に数多くのボランティアの方々が学校図書館の環境整備や本の整理を行っています。今年度は読み聞かせ活動を放送で行い、教職員に図書室にあるお勧めの本の紹介のポップを作成していただくなど、学校とボランティアの方々と協力し、取り組むことができました。また、コーディネーターの方には本の紹介だけでなく、選書から関わっていただきました。



図書室のポップ

#### 【今年度のまとめ】

- コロナ禍の影響により、多くの活動が中止または形態を変えての実施となりました。そのなかでも地域の方々は、「子どものためなら」とか「子どもと一緒にいると元気をもらえる」と考え、できることは何かを考え、様々な場面で学校に協力してくださっています。そしてこのような情勢の中でも図書ボランティアや下校指導など、新たにボランティアを志望してくださる方も多くいらっしゃいました。教職員や子どもたちは、このような地域の方々の温かい気持ちに実際に触れることで、地域の方々の思いを知ることができたと思います。こうした地域の方々と子どもたちが一緒に活動する場面が増えるよう、各活動の実施方法を検討していきたいと思います。

#### 【来年度に向けて】

- 今年度も昨年度に続き、コロナ禍の中で行事や活動の中止があり、昨年以上に「今まで通り」が通用しない1年でした。そのような中でも今まで築き上げた「子どもたちから地域の方々が見える」「教職員から地域の方々が見える」という関係を大切にしながら、地域の方々と子どもたち・教職員がつながる場面を確立・拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像

**やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成****「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす**

取組目標

**みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園**

## 【今年度の取組紹介】

## ○ 栽培活動事業

今年度も地域の方に、年間通して、花や野菜の植え方や育て方を教えて頂きました。苗を植えた際には「どのくらいで大きくなるの?」「なんでわらを敷くの?」等、疑問に感じたことを質問し、地域の方の話を興味津々に聞いていました。毎日水やりをしながら、様子を見ては「葉っぱが大きくなってきた」「花が咲いてるよ」と変化に気づき、友達や先生に知らせる姿も多く見られる等、生長の様子や収穫を楽しむ姿がありました。



サツマイモの栽培では、収穫したサツマイモを「焼き芋にしてみんなで食べたい」という思いから、焼き芋パーティーを行いました。サツマイモを洗ったり、アルミホイルで包んだり子ども達も準備をし、焼くところは地域の方に火おこしから手伝って頂きました。子ども達は焼いている途中も「いいにおいがしてきた」「もう焼けたかな?」と楽しみに様子を見る姿があり、食べる時には「甘くて美味しい」と笑顔で食べていました。その日の午後からは「焼き芋屋さんごっこ」の遊びも始まり、子どもの心が豊かになる体験活動となりました。

地域の方が事前に畑を耕したり、苗を植えた後は何度も様子を見に来て、肥料をあげてくださったりと、見えないところでもお世話をしてくださっていることを子どもや保護者にも知らせていくことで、親しみや感謝の気持ちをもち、関わる姿につながっていきました。

## ○ 読み聞かせ事業

感染状況によりできない月もありましたが、毎月1回感染症対策を講じながらクラス毎に地域の方に絵本の読み聞かせをしていただきました。継続して実施することで、地域の方が来園して下さることを子ども達も楽しみにし、読んでくださる内容に興味や関心をもち、いろいろなお話に触れる機会となりました。



## 【今年度のまとめ】

- コロナ禍2年目で、活動内容や方法を地域の方と相談しながら、本物に触れる体験・読み聞かせ・栽培活動等に取り組みました。様々な制限がありましたが、地域、保護者と共に考え実施することで、地域の方を身近な存在と感じ、感謝の気持ちや思いやりの心が育ち、様々な体験活動を通して、豊かな心を育む機会となりました。

## 【来年度に向けて】

- 引き続き『みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園』を目指し、子どもたちにとって豊かな経験となるよう、感染状況を見て、対策を講じながら定着している活動を継承していくと共に、さらに内容を見直しながら、地域・保護者との連携を深め、教育・保育の充実につなげていきたいと思ひます。



めざす子ども像

## 自信を持ち、何事にも挑戦する 園児・児童・生徒の育成

取組目標

「地域力によって育成する心豊かな子ども」

### 【今年度の取組紹介】

今年度は、新型コロナウイルス感染症により、本校区活動の柱である「歴史ウォーク」「平城高校生と遊ぼう」「図書室開放」のうち、「歴史ウォーク」「平城高校生と遊ぼう」が中止になりました。特に平城高校最後の年に開催できない事は大変残念でした。また、地域に図書室を毎月開放している「図書室開放」も感染の状況によって開催できなかった月もありました。

そんな状況の中、地域と園、学校が関係を途切れぬようにするにはどうすれば良いか模索し、地域の方々のアドバイスにより毎年3回行う地域教育協議会をZOOMによるオンラインで開催することにしました。

オンラインによる会議に参加したことはあっても、開催した経験がないため、業者の選定、委員の方々のアドレス管理、安定したネット環境など不安になることもありましたが、地域、学校と知恵を出し合い今年度は2回開催する事ができました。

今後、予期せぬ出来事で地域教育協議会委員の方々と直接会うことが出来なくても、こうやってオンラインで顔を合わせ話せた事は、本校区にとって大変大きな一歩でした。



### 【今年度のまとめ】

「コロナ禍だから」ではなく、「コロナ禍だけど」と発想を転換し、できる事を無理なく行ったことで、新たな方法を生み、地域と学校がより強固なものになったと感じています。

また、本校区が目指す子ども像にもある「何事にも挑戦」したことは、地域力を高め、今後の子ども達の育成活動にも生かされると考えています。

### 【来年度に向けて】

今年度できなかった活動を、「コロナ禍」であってもできる方法を模索し、子どもたちが心豊かに育つようにしたいと思います。

また、今まで以上に子どもたちが本校区を誇りに思い、自慢できる取組を進められればと考えます。

めざす子ども像

## 自信を持ち、何事にも挑戦する 園児・児童・生徒の育成

取組目標

「地域力によって育成する心豊かな子ども」

### 【今年度の取組紹介】

家庭科の被服実習に地域の方に実習サポーターとして来ていただきました。実習の際、思うようにミシンが動かない、次の作業がわからないなど何かあった時、すぐに、教員に頼ることが出来ず、時間をただやり過ごすだけでしたが、サポートに来ていただいたおかげで、分からないこともすぐに聞け、納得できるようになりました。また、それが子どもたちを、実習嫌いにさせない事になるだけでなく、近所の方が学校へ来て教えてくれる安心感も増し、子どもの学びを地域の方々が支えてくれた瞬間でもありました。



また、音楽の伝統楽器に触れる内容で地域の方に和太鼓の講師として来ていただきました。中々普段このような伝統的な楽器に触れる機会がないため、子ども達も熱心に講師の先生の話聞き、一生懸命太鼓に向き合っていました。授業中の静かな校舎に響く和太鼓の音色はとても迫力があり、音が一つになった瞬間の子どもたちの晴々とした表情は忘れられないものになりました。



### 【今年度のまとめ】

子ども達は地域の方々に、学校活動を通して様々な学びを得ています。それが地域に守られている安心感と、自信になり、地域を誇れる事に繋がると実感できました。  
この取組を今年度だけではなく、継続して行いたいと考えます。

### 【来年度に向けて】

今年度の学習支援だけでなく、子ども達が率先して自分たちのアイデアや考えをまとめ、地域に貢献できるような取組を模索していきたいと考えます。

めざす子ども像

**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標

**地域の方々に支えられていることを実感しながら、  
児童が主体的に学ぶことができるための環境整備と取組の充実。****【今年度の取組紹介】**

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの取組が中止または多くの制約を受ける状況となりました。その中でも、感染症対策を講じながら、地域の方々と協力して取り組みました。

## ○学習支援事業（2年 体験学習「芋掘り体験」「収穫祭」）

2年生の栽培体験学習として地域の方々の手を借りながら、さつまいもの苗を植え、お世話し、収穫し、焚火から焼き芋を作る体験学習を行いました。自分たちの手で土を触り、作物を育てる活動を通じて、地域の方々と交流を深め、人との付き合い方を学ぶ貴重な場にもなりました。



## ○環境整備事業

「一人一鉢栽培活動」と称して、花いっぱい、緑いっぱいの素晴らしい環境づくりに、全校で取り組みました。植物を育てる喜びや大切さ、生命を愛おしむ心が育まれる良い機会となりました。



## ○図書環境整備事業

図書ボランティアのみなさんが、季節の掲示物で図書室を飾り付けしてくださり、すてきな環境読書に取り組みました。また、北部図書館の司書の方と連携し、様々なジャンルの本を紹介してもらったりすることで、子どもたちの読書意欲も高まりました。

**【今年度のまとめ】**

○学習支援事業では、実際に触れ、自ら経験する貴重な機会となりました。様々な方との触れ合う中で、コミュニケーション力や仲間と力を合わせて協働する力を身に付ける良い機会になりました。

○図書環境整備事業では、取組がしっかりと根付き、休み時間も本に触れる児童が数多くみられました。また、図書室の整備も進み、様々なジャンルの本に親しむ児童が増え、子どもたちの知識の広がりにも役立っています。

○環境整備事業では、子どもたちが安心・安全に過ごせる環境づくりに努めるだけでなく、花や自然いっぱいの素晴らしい環境に保たれています。子どもたちもこの素晴らしい環境を維持しようと、工夫しながら取り組んでくれています。

**【来年度に向けて】**

これまで続けてきた取組については、地域に根付いてきました。しかしコロナ禍により、中止や延期をせざるを得ない取組もあります。新しい生活様式を踏まえて、来年度以降も地域と連携しながら、継続及び推進を目標に、事業を進めていきたいと考えています。また、協力していただける人材を増やし、新たな計画と組み合わせながら、さらなる充実を図ってまいります。

めざす子ども像

**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標

学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育にあたり、子どもたちが感動するような体験活動を通した魅力あふれる取組の継続と地域人材の活用・発掘。

**【今年度の取組紹介】 ～地域に学ぶ活動事業について～**

今年度は昨年度できなかった田植えも実施することができました。裸足で田んぼに入り、一つ一つ丁寧に手で植えることができました。秋に行った稲刈りでは大きく育った稲穂を地域の方に教えていただきながら刈り取りました。稲刈りから1週間後、笹がけにして乾かした稲穂を昔ながらの方法で脱穀しました。千歯こきを上手に回転させるのが難しかったけれど、地域の方に助けをもらいながら、うまく回せるようになりました。地域の方と一緒に活動する中で、米作りの大変さがよくわかりました。また、地域の方に感謝する気持ちも生まれました。出来上がったお米は、給食でも炊飯していただき、地域の方もお招きして全校でいただきました。子どもたちは、生産したものを食べる活動をとおして、食に対する興味・関心が深まりました。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルスが猛威を振るう中での取組でしたが、活動自体をなくすのではなく、感染症対策を実施し、地域の方と相談を繰り返しながら事業を実施しました。改めて、学校・家庭・地域が一体となって子どもの成長の支援にあたり、子どもたちは体験活動を通して多くの事を学ぶということを確認できた一年でした。

今後さらに地域とのふれあいを大切にし、地域の方に助けをもらいながら、自分たちの郷土を愛する子どもたちを育てたいと思います。

**【来年度に向けて】**

様々な取組は長期的な視野に立ち、事業を継続的に行うことにより大きな成果が得られると考えます。来年度も活動内容の工夫・精選を検討し、本事業を継続していきたいと考えております。

具体的には、佐保台小学校としての学校支援ボランティアの仕組みを定着させ、地域の方に教育活動に参画していただき、教職員と一緒に「チームとしての学校」を創り上げていきたいです。



めざす子ども像

**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標

子どもたちが地域を知り、地域の人達との繋がりを意識するとともに、豊かな感性や様々な知識・技術を身につけて成長していける取組の充実を目指す。

**【今年度の取組紹介】**

本校では、地域交流事業として環境整備の活動を続けてきました。多くの子どもたちとボランティアの皆さんがともに活動できるからです。同じように学習支援事業として図書館整備や「楽しい理科実験教室」「いじめ防止教室」等にも取り組んできました。

今年度新しい取組として「英語でアート」という活動に取り組みました。地域の方の紹介でアーティストを招き、英語の指示のみで絵を描く活動です。6年生の子どもたちに英語の指示のみで街の建物を描くよう指示されます。それも「一筆書き」です。モノトーンの線描きは、思いのほか大きく存在感のあるものになりました。出来上がった絵は、講師の先生が黒い背景の壁面にレイアウトしてくれました。絵の仕上がりもさることながら、「あ、今の言葉はこういう意味じゃないの？」と、子どもたちは、嬉しそうに絵を描き進め、講師先生やボランティアの皆さんと片言の英語で会話をしながら作業を進めていました。

学校と地域がともに企画した豊かな時間となりました。

**【今年度のまとめ】**

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため活動に様々な制約がありましたが、地域の方に「理科実験」や「英会話」を教わる機会を持つことができました。また、「被爆体験」の講師も紹介いただきました。それぞれの活動に子どもたちは興味津々でした。日頃できない活動に深い学びがあるとともに、地域の方々とより広く深い交流の機会を持つことができました。
- ・ 今年度も「左京の森」の花壇に花を植え整備活動を行うことができました。また、学年や委員会活動の時間を活用し、地域の方々に学校の花壇整備や樹木の枝伐採、運動場の整備にも参加していただきました。地域の中の学校としてより深いつながりを感じることができました。

**【来年度に向けて】**

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数の制限や活動内容の変更が多くありました。対策を工夫しつつ、継続可能な活動を企画していきたいと考えています。オンラインの学習は必要なことですが、人から直接学ぶことは、子どもたちにとって「生きた学び」となります。地域の方々の様々な知識と技を直接学ぶことで、子どもたちを豊かに成長させていきたいと考えています。

めざす子ども像

**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標

**地域と連携しながら心豊かに生き生きと活動できる子どもを育てる。****【今年度の取組紹介】**

## ・絵本の読み聞かせ

コロナ禍で、日程の変更を重ねての実施となりましたが、ボランティアの方のご協力で、絵本の読み聞かせを行うことができました。継続して行えたことで、「今日はどんなお話かなあ」「早く来てほしいなあ」と期待をして待つ姿につながりました。ボランティアの方が、子どもたちのために、年齢に応じた絵本を選んだり、お話の世界を楽しめるよう読み方を工夫したりしてくださったことで、言葉の美しさや面白さに気付いたり、お話を楽しみ落ち着いて聞く態度が育ったりしたと感じます。読んでくださった絵本を購入し、絵本コーナーを整えられたことで、興味を持って絵本を手にする機会も増え、子どもたちの生活が豊かになったと感じています。



## ・おもしろ理科実験教室

地域の方に来ていただき、楽しい実験をしていただきました。風の力でボールが宙に浮いたり、手作りの塩ビ管の大砲の中からボールが飛び出したりして「わーすごい」「なんでやろう」と、子どもたちの声が聞かれました。また、クエン酸と重曹が混ざって炭酸ガスが発生する力を利用してのペットボトルが飛び上がる実験では、途中で化学反応がうまくいかず、ピクリとも動かなくなってしまう、みんなで飛び上がることを願い、心を一つにして様子を見守る瞬間がありました。しばらくして、ペットボトルは無事に空高く舞い上がり、園庭に子どもたちの歓声が響き渡りました。身近なものを使って科学の不思議さやおもしろさに触れる貴重な経験となったとともに、実験の醍醐味のようなものを地域の方と味わうことができました。

**【今年度のまとめ】**

- ・地域の方とふれあう経験が、子どもたちの人間関係の幅を広げました。思いを受け止めてもらえたという経験や見守られているという安心感、優しくしてもらったことへの感謝の気持ちなど様々な気持ちを体験することができました。
- ・専門性に触れることで好奇心や探究心がくすぐられ、子どもたちの意欲向上につながりました。実際に体験し感動することで、知ることの楽しさ面白さを感じることができました。
- ・少人数での開催や時期の変更など様々な対策を講じ、地域の方の理解と協力を得ながら進めることができ、子どもたちの感動体験の場を確保できました。

**【来年度に向けて】**

- 地域の教育力を最大限に活かせるように情報収集に努め、地域に根差したこども園を目指していきたいと思います。
- ウィズコロナのなかで、先が読めないことを見据えながら、地域の方と子どもたちに経験させたいこと、大切にしたいことを確認し合って共に開催のあり方を探っていききたいと思います。

めざす子ども像

**自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成**

取組目標

**地域の方との連携を図り、子どもたちが様々な人との触れ合いを楽しんだり、体験に参加する楽しさを味わったりする中で、自尊感情や活動意欲を高める。**

## 【今年度の取組紹介】

## &lt;女性防災クラブの方による防災紙芝居・消火訓練&gt;

朱雀地区の女性防災クラブの方に紙芝居を通して防災のお話をいただきました。料理のてんぷらからも大きな火事につながるというお話を聞かせていただき、子どもたちは真剣に話を聞いていました。水消火器を使った消火訓練も見せていただき、火事を見つけたらいち早く大人に知らせるなど、地域の方にたくさんのことを教えていただき、安全に過ごせることの大切さを改めて感じた1日となりました。



## &lt;朱雀お話の会&gt;

年間を通して朱雀お話の会の方に絵本の読み聞かせをしていただいていた、子どもたちは「今日はどんなお話かな」「もう1回読んで欲しい」と、毎回とても楽しみにしています。朱雀お話の会の方からは「子ども達から元気をもらっている」という嬉しいお話も聞かせていただきました。たくさんの楽しい絵本に親しみ、お話の世界から好奇心を刺激し、想像力や感情を豊かに育てています。

## &lt;おもしろ不思議理科実験&gt;

地域で活動をされている『平城ニュータウン楽しい理科実験研究会』の方にお越しいただき、実験を通して理科に触れる活動を行いました。エジェクターの仕組みを使ってピンポン玉やリボンを飛ばしたり、落ち葉掃除に使うブロワーを使ってボールを浮かせたりして、空気の力を学びました。幼児期から「不思議だな」「何でかな?」「どうなってるんだろう」など、興味をもち、様々なことへの関心を深めることにつながっています。



## 【今年度のまとめ】

昨年度に引き続き、コロナ禍での事業となりましたが、少人数で行えるように学年ごとの活動にするなどの工夫をして計画していた取組を実施することができました。地域の方と様々な活動を行い、触れ合い、温かいまなざしの中で、人と関わる心地よさを味わうことで子どもたちが意欲的に活動する姿につながりました。また、ホームページやドキュメンテーションを通して活動内容や大切にしていることを発信することで、地域と保護者に取組を広めることができました。

## 【来年度に向けて】

職員間で今年度の取組内容を振り返り、成果と課題を共有していき、来年度の取組に活かしていきたいです。来年度も引き続き地域の方と相談をしながら、子どもの心を動かせるような様々な感動体験ができるよう事業を進め、地域の方の力を活かした取組の充実を目指していきたいと思います。



めざす子ども像

## ふるさとに夢と誇りをもち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

歴史・人・自然・もの・未来につなげ守ろう SDGs！

ふるさとに夢と誇りを持とう…故郷の良さを発見！ふるさとの文化をつないでいこう！  
地域ぐるみで特産品を作ろう！ようこそ先輩！地域の人に学ぶ職業観！

### 【今年度の取組紹介】

今年度も、昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの活動が見合わせとなりましたが、地域の方々に感染症予防対策を考慮いただきながら、今できる限りの活動を実施することができました。特に、「アルミ缶回収活動」については、26年目を迎え、地域の方々の手厚い協力のお陰で、例年と同様に活動を行うことができました。この活動は、当時の中学校生徒会の呼びかけで始まりましたが、今では月ヶ瀬地区社会福祉協議会、ボランティア愛歩21、地域住民、学校が一つになり継続して実施しています。今年は、7台の福祉機器を寄贈することができ、これまでに寄贈した福祉機器は144台になりました。烏梅を使った紅花染めでは、愛称名とカードのイラストを募集しリニューアルしました。その他にも、毎年恒例となっている梅の実採りや梅干し作り、月ヶ瀬クリーン部隊の協力による環境美化活動、伝統芸能の伝承、梅寿会との交流など、いずれも子どもたちにとってはふるさと月ヶ瀬の良さを知る貴重な体験となりました。



㊦ 26年目を迎えた「アルミ缶回収活動」



こ・小・中で行った梅の実採り㊦

### 【今年度のまとめ】

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、校外での活動、地域と合同で行われる体育祭や文化祭が中止となりました。それに伴い、ふるさとの良さを発信する機会や地域の方々との交流の場も少なくなりました。しかし、この状況下でも、26年目となったアルミ缶回収活動では、多くの方々の協力のもと、これまでと同様の活動が行われ、福祉センターや特別養護老人ホームなどに車いす等の福祉機器を贈呈することができました。

また、今年度は本協議会の活動に奈良教育大学より1名の大学生が参加し、子どもたちも親しみをもって交流することができました。来年度は、昨年度に整理した人材バンクの活用等、これまでの取組をさらに発展し、連携強化に努めていきたいと思っています。

### 【来年度に向けて】

少子高齢化の進むべき地ではありますが、月ヶ瀬中学校区では長年地域の子どもたちを地域で支え、支援する体制が整っています。こども園・小中学校の子どもたちを地域ぐるみで育てる環境を今後も継続して構築していきたいと考えます。また、伝統となったアルミ缶回収活動をはじめ、広報活動にも重点を置き、若い世代の取り込みを積極的に進めていきたいと考えています。



めざす子ども像

**ふるさとに夢と誇りを持ち、  
自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標

**「ふるさとに夢と誇りを持とう」  
ふるさとの支援を受けながら、郷土愛を育て、  
ふるさとを守り、未来につないでいく生徒の育成**

## 【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、恒例となっていたいくつかの体験学習の実施が見合わせとなりましたが、昨年度実施できなかった月ヶ瀬地区内の各地区を巡り歴史や伝統を学ぶ「ふるさと Walk」は、現地を訪問せず、事前に地区の方へのインタビューの様子をビデオで撮影し、それを生徒全員が見る形態で実施しました。生徒にとっては、ふるさとの良さを再発見できる活動となりました。また、「地域花いっぱい運動」や「アルミ缶回収活動」は、地域の方々の多大な協力を得て、今年も例年通りの活動が実施できました。昨年度から始まった公民館学習の「スタディサポートサンデー」では、奈良教育大学生1名がスタッフとして参加してくれました。定期的なチラシ配布等の広報活動により、活動も定着してきました。

今年も地域の方々の協力のお陰で、子どもたちは自分たちが暮らす地域をより深く知ると共に、人・こと・ものとのつながりの大切さを学ぶことができました。



事前のビデオ撮影による  
「ふるさとウォーク」

「地域花いっぱい運動」



## 【今年度のまとめ】

今年度も、感染症予防のため、特に校外へ出ていく活動は中止となりましたが、昨年度実施できなかった事業もいくつか復活し、「ふるさとを発見」→「ふるさとの良さを発信」→「ふるさとの産業や文化の継承」へと思いを繋げる活動ができました。また、ふるさとの抱える課題にも目を向けることができました。本校の伝統でもある「アルミ缶回収活動」は、今年で26年目になりました。生徒数も徐々に減少しており、地域の協力無しには継続が難しい中で、地域ぐるみの活動として、福祉面や環境面など多方面から高い評価をいただいております。地域の支えあつての活動に感謝しながら、これからも各事業を深化させていきたいと思ひます。

## 【来年度に向けて】

「スタディサポートサンデー」では、より多くの子どもが安心して利用できるよう、さらに広報活動にも力を入れ、参加人数を増やしていきたいと考えています。また、今年度、事前のビデオ撮影で実施した「ふるさと Walk」のように、コロナ禍でもできることを追求しながら各事業を進めていきたいと思ひます。月ヶ瀬は産業も多く、人材にも恵まれた地域です。キャリア教育をより豊かで充実した学習にするために、広く活躍する人材を生かした支援体制の構築にも努めたいと思ひます。

めざす子ども像

## ふるさとに夢と誇りを持ち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

月ヶ瀬の良さを体感するために、特産品・この地域にしかない物作りの体験学習や地域に伝わる伝統芸能継承者の方から直に教えていただくことを通して、ふるさと月ヶ瀬をもっと好きになり、将来への夢に繋げる。

### 【今年度の取組紹介】

月ヶ瀬小学校で取り組んでいる地域学習は、地域の方々に支えられ成り立っています。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いくつかの地域学習が中止となりましたが、昨年度実施できなかった梅寿会との交流会やお話の会は、開催時期や内容について何度も検討を重ね、感染症対策にも十分留意しながら、全学年で開催することができました。また、恒例となっている梅干し作りや伝統芸能の伝承等も、昨年度の経験を生かしながら実施することができました。特に、伝統芸能の伝承では、今年度もマスクをつけてのせりふ回しや接触を避けた演技構成等、できる限りの感染予防を指導者に考慮いただき、無事に発表を終えることができました。

月ヶ瀬小学校の児童は、自分たちの暮らす地域の生活文化や習慣、産業、伝統文化に至るまで、幅広く月ヶ瀬を学んでいます。また、発達年齢や教科・領域などの学習との関連も考慮しつつ、身近な月ヶ瀬を深く知ることで、児童には故郷を思う気持ちが育っています。小学校での地域学習のこうした学びは、中学校での学びにつながり、さらに発展、発信へと深化していきます。これからも自分たちの地域を見つめ、深めていく取組を続けていきたいと思っています。



☞  
伝統芸能の伝承  
狂言「清水」

☞  
梅寿会との交流会



### 【今年度のまとめ】

小学校では基礎基本の定着を図る学習活動を通して、しっかりとした礎を作ることが大切だと考えています。加えて、月ヶ瀬小学校では児童の発達段階に応じた地域学習の取組にも力を入れています。

児童は地域学習を通して、月ヶ瀬を深く知るだけでなく、人とつながることの大切さを知ったり、地域の方々の温かさに触れたり、コロナ禍の中であってもご支援いただいた方々への感謝の気持ちを持ったりすることができました。ふるさと月ヶ瀬を誇りに思い、月ヶ瀬の伝統芸能や文化の伝承者として次の世代を担ってくれる人材の育成を目指し、これからも取組を続けていきたいと思っています。

### 【来年度に向けて】

地域の少子高齢化が進み、伝統芸能や生活文化の伝承が危ぶまれています。月ヶ瀬も例外ではありません。伝統芸能や生活文化を伝承する人材の確保が難しくなりつつあり、地域学習をどのように続けていくかについて、地域も学校も一緒に考えていく必要が出てきています。たいへん難しい課題ですが、児童にそれらを伝承していこうとする自覚や意欲が育つように、これからも取組を深化させていきたいと思っています。

めざす子ども像

**ふるさとに夢と誇りを持ち、****自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標

**地域とのつながりを大切にして地域に親しみ、****地域の伝統、産業に触れ興味関心を持つ****【今年度の取組紹介】**

今年度は、夏野菜の苗植え、田植えから始まりました。地域の方に野菜の植え方や稲の植え方を教わりました。陶芸体験ではお茶会に使う湯飲みと菓子皿作りで陶芸粘土の塊からこねて形を作っていました。

お茶会では、自分で作った湯飲みと皿で月ヶ瀬のお茶を頂きお菓子も食べました。手作り湯飲みと皿で頂くお茶とお菓子は美味しく嬉しそうでした。敬老の日近くになると、福祉施設に手作りプレゼントを届けました。

お話の会では、「だっこ」の方と、「108」の方2組に、大型絵本、大型紙芝居、エプロンシアターなど地域の方と楽しく触れ合うことが出来ました。

地域散歩では、龍王の滝を案内していただき、分かりやすく滝のお話を教えてもらい草笛も吹いて聞かせてもらい、子ども達は興味津々でした。最後は、しめ縄づくり、地域の方に藁を持ってきていただき一緒に作りました。

**【今年度のまとめ】**

野菜の苗植えなど、毎年行っている所以で地域の方と親しくなり年長児は名前を覚え「前、教えてもらったことあった」など思い出していました。楽しみにしていたお茶摘みは、天候の加減で体験できず、染物体験も講師の方と予定が合わず、園内で1度行っただけでした。しかし、コロナ禍で中止になっていた福祉施設との交流は、今年度は園児がプレゼントを作り届けました。

陶芸体験、お茶会、お話の会、地域散歩、しめ縄づくりは、年齢に応じて楽しむことができました。

地域の方と様々な体験を通して、地域の方の温かさを感じ、親しむことで地域を知ることにつながりました。

**【来年度に向けて】**

コロナ禍でもできることを、模索しながら感染対策をとり、地域の方と子ども達が元気で活動が続けられるようにしたいと思います。今年度体験したことを来年度につなげ、目標に向けて地域とのつながりを大切に、事業内容の充実のため検討し進めていきたいと考えます。

めざす子ども像

## ふるさとでの学びを誇りに

## たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

学校園が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

### 【今年度の取組紹介】

現在、全国的に高齢化が進んでいることに加え、特に中山間地域においては、日常生活やコミュニティの維持が問題となっており、奈良市東部に位置する都祁中学校区（都祁地域）においても、ここ数年来、前述の課題が顕在化してきたことから、これらの解決に向け、日々の教育活動を地域からの協力・支援を得ながら進めてきました。

中学校が地域と関わり交流し連携・協働する取組として、「数学講座」「英検対策講座」「雅楽鑑賞」「エイサー学習」「世界遺産学習」「防災学習」「共同美化作業」を行っています。

「世界遺産学習」では、地域ボランティアのご指導を受け、奈良公園での散策をしながら、自分たちの郷土に誇りをもつことにつながりました。「防災学習」では、地域防災の視点から「防災マニュアル」改訂に関わるなど、万一の災害発生時に備えること大切さについて学ぶことができました。

共同美化作業では、校内外の美化に多くの地域の方が協力をしてくださいました。



世界遺産学習



共同美化作業

### 【今年度のまとめ】

今年度も感染症対策を十分にとった中での教育活動となり、協議会活動にもさまざまな制限が設けられることとなりました。そのような状況下においても、コーディネーターや委員の方々を中心として、地域の方々からのご協力を得て各事業をすすめることができました。

また中学校区内のこども園・小学校・中学校とも機会を精選しつつも効率的に連携・交流を深めることができ、学びの連続性を踏まえた教育活動を行うことができました。

学校環境整備事業において「共同美化作業」を実施しました。草刈り作業や校内の補修に多くの地域の方にご協力をいただき、昨年度よりも校内美化に努めることができました。

### 【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染症に関しては、未だ、収束の兆しを見せていませんが、今後に向けては、新しい生活様式に基づきながら、オンライン等を活用した園児・児童・生徒や地域と教職員の交流などを取り入れながら、効果的に事業を行えるよう事業計画の検討をすすめていきたいと考えます。



めざす子ども像

## ふるさとでの学びを誇りに

## たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

地域や地域の人から学ぶ学習を通して、何事にも粘り強く取り組み、自分たちの住む地域をよりよい地域にするために何ができるのかを考えられる力を育成する。

### 【今年度の取組紹介】

#### ○森の学校

今年度も校区内にある奈良県立野外活動センターで森の学校を実施しました。

午前中は縦割り班でのセンター敷地内のオリエンテーリング、午後からは各学年で体験学習を行いました。地域の方が準備してくださったもみ殻と一緒に焼き芋を作ったり大豆から仕込んで味噌づくりに取り組んだりする等、昨年度同様に豊かな体験学習に取り組むことができました。

また、今年度は6年生がCanon株式会社さんから一人1台カメラをお借りして、センター敷地内の秋の様子を写真撮影しました。カメラの使い方は前日にオンラインでCanonの方に教えていただき、当日は奈良市写真美術館のスタッフの方々に写真撮影のポイントを教えていただきました。撮影した写真は、後日奈良市写真美術館のギャラリーに展示していただきました。



### 【今年度のまとめ】

子どもの暮らしや地域を活動の軸に、人とのかかわりを大切にして活動に取り組んできました。コロナ禍で予定していた活動の実施回数が少なくなりましたが、地域の方の協力のおかげで子どもの心に残る活動ができました。【今年度の取組紹介】で紹介した「森の学校」以外にも、蚕の学習や凍り豆腐作りなど都祁地域ならではの学習を地域の方々と教職員で企画しました。子どもは多くの新しい発見と出会い、地域の歴史や生活を実感することができました。

### 【来年度に向けて】

今年度同様、子どもの暮らしや地域の人、歴史、文化、自然等を活動の軸に据えて、人とのかかわりを大切にした活動を行いたいと思います。来年度もコロナ禍での実施で臨機応変な対応が必要になると思いますが、子どもにとっては学びがあり、地域の方々にとってはやりがいがある活動を地域と学校が連携して考えていきたいと思っています。

めざす子ども像

## ふるさとでの学びを誇りに

## たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

中学校が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

### 【今年度の取組紹介】

#### 1. 防災教育への取組

「生きる力」を育むことを目的とし、防災教育の一環として、地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。地域在住の防災士の方よりご指導をいただき具体的に「命を守る行動」として何ができるかを考え日々 万一の災害発生時に備えること大切さについて学ぶことができました。

#### 2. 学力向上に向けた取組

地域在住の元学校教員の方を講師に招いて「学力補充教室」を開催しました。

「数学」の学力向上を目的として、教員2名とともにティームティーチングや少人数指導によるきめ細やかな学習指導により、基礎学力向上を図りました。

今年度から「英検対策講座」を実施しました。校区内の高校と協働し、放課後に学習会を実施し、学習する意欲の高まりがみられました。

地域に関わっていただいている方に自分の思うように書を楽しむ「己書体験幸座」を行いました。

#### 3. 伝統・文化理解教育への取組

「保健体育」カリキュラムや「総合的な学習の時間」における伝統文化理解の取組として、[エイサー学習(沖縄民謡・舞踊)]を行いました。

また、「雅楽鑑賞」にも取り組みました。多様な学習への発展や「伝統に対する感性」を培うための貴重な学びの機会となりました。



### 【今年度のまとめ】

今年度は、感染症対策の影響から、運営委員会の事業に関して、年度当初の計画から大幅に変更せざるを得ない状況でありましたが、地域の方々のご協力・ご支援をいただきながら、新たな事業にも取り組むことができました。

### 【来年度に向けて】

来年度においても、新型コロナウイルス感染症への対策を十分に講じながら、事業を精査・精選し、効率的・効果的に推進していきたいと考えます。

めざす子ども像

## ふるさとでの学びを誇りに

## たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

地域とのつながりを感じながら、心豊かで、  
生き生きと生活する子どもの育成

### 【今年度の取組紹介】

○文化体験事業で地域のお花の先生に来ていただき、生け花体験をしました。ペットボトルで花瓶をつくって準備をし、「生け花の先生来てくれるの嬉しい」と楽しみにしていました。先生方に挨拶をし、先生から花の名前や「背の高い花、中くらいの花、背の低い花をバランスよく生けてみましょう」と生け方を教えてもらいました。子ども達はたくさんの花の中から花を選び、先生に教えてもらったことを思い返しながら自由に生けたり、花の配置を考えながら生けたりしていました。出来上がった花を友達と見せ合ったり先生に見てもらったりし、満足そうでした。伝統文化に触れ、心も豊かになる機会となりました。



○文化体験事業で地域の剣道クラブの方に来ていただき、剣道体験をしました。まず、子ども達は正座をして礼儀正しく「礼」をしました。剣道を通して大切にしていることなどの話を聞き、剣道の防具を見せてもらった後、新聞切りや防具を付けた先生に面やこてを打つ体験をしました。剣道の先生方の迫力ある打ち込みを間近で見せてもらい、子ども達は息をのんで見入っていました。そして自然と拍手が起きました。最後は「礼」をして終わりました。立ち振る舞いや礼儀の大切さなどを知る体験になりました。



### 【今年度のまとめ】

コロナ禍で交流内容や方法などを精選し、活動を継続しました。地域の方と触れ合うことを楽しみにし、貴重な経験を重ねることができました。菜園活動やおはなしのひろば、剣道体験や生け花体験等様々な活動ができ、活動の前には子ども達と準備をすることで、より深い交流や学びになりました。地域の方に褒めてもらったり、「一緒に活動できて嬉しいよ」と温かい言葉をかけてもらったりすることが喜びになり、「心豊かで、生き生きと生活する子どもの育成」に繋がっています。

### 【来年度に向けて】

地域の方々の協力をいただきながら、地域の方と繋がりを感じ、「心豊かで生き生きとたくましく活動する子ども」を目指して、地域・園・家庭が一体となり取り組んでいけるよう、相互の連携を深め、様々な感動体験ができるように取り組んでいきたいと思っています。

めざす子ども像

## 心身ともにたくましく、自分を大切にし、 他者を思いやる子ども

取組目標

安全な方法を提案しながら、地域のあらゆるところからの日頃の支援や行事を通して繋がりを深める。自らが発言や行動のできる練習体験を繰り返すことで、自信を高め、自他を認めて大切に思う心を養う。

### 【今年度の取組紹介】

感染予防に気をつけながらできる活動の在り方を見いだして実行することができました。

図書活動推進事業では、図書のディスプレイ台作りやカバー付けなどの図書環境整備、子どもたちへの絵本読み聞かせを動画に撮りました。選べるほど沢山の動画が撮ることができ休み時間に活用されています。

また図書ボランティア意見交換会をおこないました。子どもプロジェクト事業では、協議会で保管している羊の毛を使ったクラフト体験「フェルトソープをつくろう！」を企画して、そのためのボランティア講習会をおこないました。



### 【今年度のまとめ】

今年度は子どもたちと一緒に活動する事は出来ませんでした。

意見交換会でボランティアから「対面での読み聞かせをしたい」など思いを聴く事ができ、「したい」から実施するための工夫を見いだすことができました。また子どもプロジェクトではボランティア講習会をおこなったことで沢山の希望人数の子どもたちへの体験実施の可能性が広がりました。

子どもたちのために学校と地域それぞれが「したい」を「できる」ようにと願い企画を進めましたが、感染拡大のタイミングとなり中止となってしまいました。

### 【来年度に向けて】

引き続き感染予防をしながら活動の仕方を考え工夫して実施していきたいと思います。中止となっても後日実施できるように迅速に企画を進めていくようにしていきます。



めざす子ども像

## 心身ともにたくましく、自分を大切にし、

## 他者を思いやる子ども

取組目標

子どもたちと地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

### 【今年度の取組紹介】

コロナ禍のため、計画していた事業の中で、特に地域の方と共に生徒が活動する内容については実施ができず、とても残念に感じています。

今年度は、本校創立10周年記念事業に関わって、特別に準備したプランターにマリゴールドの花植えを2学期の初めに企画し、直前まで準備や調整を図ってきましたが、かないませんでした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により午後からの授業がオンラインでの授業になることで学校における活動ができなかったためです。3学期初めに企画した地域の方との環境整備活動も実施には至りませんでした。

このように地域の方々と生徒との協働による活動は実施できませんでしたが、校内では、昨年度作成のオレンジ色のエプロンを着用して活動くださったことで、地域の方を身近に感じることができました。児童生徒にボランティア活動をさらに身近に感じてもらえるようにオレンジの「かつどう中」の旗を掲げる工夫もしていただきました。共に活動ができなくても、こうした工夫が校内でのボランティア活動を児童生徒をはじめ教職員も身近に感じる環境となりました。「かつどう中」の旗を見つけてその部屋を覗いた児童がいたというエピソードをコーディネーター会議で紹介くださった時は、一同温かな雰囲気になりました。



活動中の旗



図書ボランティアの様子

### 【今年度のまとめ】

事業の実施にあたり、コロナ禍のために中止するのではなく、どのようにすればできるのかという視点を常に意識しながら事業計画を進めた1年であったように思います。地域の方と打合せを重ねる中で、コロナ禍において、地域としてめざす子ども像にいかに関わるかを共に考えられたと感じています。毎日の登下校の見守りをはじめ児童生徒の姿を日常的に地域の方が見てくださる中で、育成をめざす子ども像について熟議した会議もありました。地域の方の熱い思いと子どもに対する大きな期待を改めて感じる時間が共有できたと思います。

### 【来年度に向けて】

子どもの実態をみつめ、地域としてめざす子ども像を共有し、具体的にどのような手立てで事業を実施していくのかを明確にして取り組んでいくことに努めたいと思います。地域の方からは「子どもたちと共に活動する中で役に立ちたい」というありがたいお声をいただいています。来年度は協議会としてめざす子ども像を「心身ともにたくましく、自他を大切にし、自ら学び、主体的に行動する子ども」としました。大人の姿を見て子どもが育つような素晴らしい関係を地域の方と学校職員とで築いていきたいと考えます。

めざす子ども像

**心身ともにたくましく、自分を大切にし、****他者を思いやる子ども**

取組目標

地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただき、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

## 【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルスの影響により、子どもたちや、地域の皆さんの安全を第一に可能な限り実施できる活動を模索し実践しました。

図書の読み聞かせの活動では、対面式での実施が難しいという判断のもと、それでも絵本の魅力を伝えたいと実施可能な方法を模索し、動画を撮影し、それを子どもたちに視聴してもらう形をとりました。ボランティアの方々も安心して取り組めるということで、たくさんの動画を撮影していただき、週に2回

(火・金) 視聴の時間を作ることができました。図書ボランティアの活動でふれあいルームに来校されている際に、それを見つけた児童が「絵本のおばちゃんや。」と声をかけてくれたことが、とてもうれしかったと言っておられました。また、環境整備活動では、委員会活動の時間に地域のボランティアの方とともに、校舎沿いの学級園の整備を計画しておりましたが、コロナの影響で学校のみでの整備となりました。雑草を抜いて、土起こしを行ったので、来年度は地域の方と様々な花や作物を植えていければと考えています。



動画撮影の様子



動画視聴の様子

## 【今年度のまとめ】

環境整備支援、読書活動推進、学習補助等に、多くのボランティアの方が登録してくださっています。コロナ禍のため多くの制約があるなか、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、ふれあい、ともに活動することで、大人も子どももこの地域のなかで暮らしていることを意識することができました。実施できない事業が多々あり、ボランティアの方に来校いただけない期間も多かったですが、「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有できました。

## 【来年度に向けて】

今年度も多くの活動が制限されましたが、地域の方より「来年こそはもっと役に立ちたい」という温かいご意見を複数いただきました。様々な活動を効果的に実施するため、新しい生活様式に対応する事業の視点を持ち、めざす子ども像を「心身ともにたくましく、自他を大切にし、自ら学び、主体的に行動する子ども」としました。今後も、地域とともに実現できるよう連携をより密にして取り組んでいくことに力を注ぎます。そうすることで、大人も子どもも地域のなかでの有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

めざす子ども像

## 心身ともにたくましく、自分を大切にし、 他者を思いやる子ども

取組目標

地域の教育力を生かした幼小中連携教育  
—豊かな心を育み、たくましく生きる幼児の育成—

### 【今年度の取組紹介】

#### みんなであそぼう

地域の方々や保護者に協力していただき、キャリア教育の一環として昨年に引き続き「みんなであそぼう」を行いました。今年は“お祭り”をテーマにし、全ブースを通して、感覚（視覚・聴覚・嗅覚・触覚）を使った遊びを楽しみました。又、遊びの中でゴミの分別（可燃ごみ・プラスチック）も取り入れ、身近な環境について学ぶこともできました。



#### わくわく農園

地域の方に来ていただき一緒に畑を耕したり、種まきや苗植えをしたり、肥料をあげたりする菜園活動を通して、毎日の水やりや草引きなど継続した世話の大切さをすることができました。また、自分達で収穫したさつまいもで焼き芋をし、自然の恵みに感謝する子持ちも育つことができました。



### 【今年度のまとめ】

- ・地域の方々や保護者に協力していただき、コロナ禍の中でも様々な事業に取り組む中で、子どもたちは、たくさんの感動体験を味わうことができました。その中で、「楽しかったね。」「もっとやってみたいなあ。」と次につながる意欲が生まれてきました。
- ・様々な地域の行事が中止になる中で、お楽しみ会でのマリンバコンサートや、奈良西養護学校とのリモート交流など、人数制限やディスタンスを図る工夫をしながら、身近な人とのかかわりをしていくことにより、自分の住んでいる地域が大好きになり、その中でやさしさや思いやり、相手の気持ちに気付く心が育ってきました。

### 【来年度に向けて】

今年度（令和4年3月末）で閉園になりました。

次年度、公立の幼稚園としての保育・教育や地域とのつながり等、移管先の認定こども園に引き継いでいてもらいたいと思います。